

「スイス」等へ追放スルモ時ニ依リ佛國ノ國境迄ハ其罪ヲ犯シタル惡徒ノ來リ  
テ國民ノ風習ヲ擾ラスコトアリ然ルニ日本コテハ支那朝鮮へ追放スレハ海路ヲ隔テ  
地ナル故ニ日本ノ國境へハ容易ニ來ルコトヲ得サル理ナリ然ラハ佛國ニテ之ヲ用  
ルニ比スレハ日本コテハ殊更之ヲ用ユヘシト考ヘリ  
一體國事犯ト云フモノハ自國ニテハ幾部分カノ惡事ニ當リ其罪ヲ犯シタル者ナレハ之  
ハ自國限リノ惡事ニシテ外國ニテハ其害ヲ受クルコトナシ固ヨリ其國々ノ政體ニ仍リ  
其罪ノ有無ニ異ナルコトアルモノナレハナリ

第九十五條  
若シ其追放セタル國ニテ惡事ヲ爲シタル時ハ又之ヲ其國ヨリ他ノ國へ放逐スヘキナリ  
故ニ追放ノ刑ヲ立ツルト立テサルトハ篤ト考究セサル可カラズ  
立法官ハ其刑ノ輕重ノ等級ヲ以テ其罪ノ輕重ニ割付ルコトヲ以テ肝要ナリトナス  
又酌量輕減ヲ爲ス時ニ於テモ其刑ハ數等ニ分チタル方最便利ナリト爲ス且ツ輕キ罪ヨ  
リ重キ罪ニ溯リテ順次ヲ立ツルニモ便利ナルモノナリ

第九十六條  
本條ハ政府ニ屬スル建物倉庫兵器製造所等ヲ焚毀シ又ハ毀損シタルモノナリ  
之ハ第九十六條ノ政府ニ屬スル所ノ倉庫兵器製造所等ヲ盜奪シタルモノト同シク死刑  
ナリ其之ヲ同シク死刑ト爲スハ是亦道理ニ適セサルナリ何トナレハ倉庫兵器製造所等  
ヲ盜奪シタル而已ナレハ政府ヨリ再ヒ之ヲ取返スコトヲ得ヘシト雖モ已ニ焚毀シタル  
時ハ取返スコト能ハサル故ニ其害ヲ爲スコト大ヒナリト爲ス然ラハ之ヲ同様ノ罪ニ論  
シテ死刑ト爲スハ不適當ト云ハサル可カラサルナリ  
故ニ本條ノ如ク盜奪シタルモノ者ヲ焚毀シタルモノト同シク死刑ト爲ス時ハ矢張假  
令ヒ其盜奪シタルノミコテ中止スヘキ者ト雖モ遂ニ之ヲ焚毀スヘシト爲シ其惡事ヲ爲  
シ遂ニ至ルニ至ルノ患ヒアリ

佛國ノ刑法ニ於テハ斯ノ如キ不整肅ノコト少ナカラズ日本コテハ幸ヒ刑法ノ改正セシ  
トスル時ナレハ殊更ニ注意アラフコトヲ要スルナリ

後第八號 (明治九年二月十五日)

第九十六條

本條ノ畫方宜シカラズ佛國人ニテハ格別解シ誤ルノ患ヒアラントス  
群衆ノ首ト爲リ云々ノコトヲ未文ニ置ケルナレハ之ハ前文ニ置クヘキコトナリ何トナ  
レハ群衆ノ首ト爲リ云々指揮役トナリタル者ニテ何事ヲナサントセシナレハ則チ前文  
ノ政府ニ屬スル領地財産金額等ヲ強奪セントナシタルモノナレハナリ故ニ此文章ニ前  
後ノ倒置アリトナス

本條モ矢張國事犯ノ一種ナレハ前數ケ條ニ比スレハ其國事犯ノ性質ハ稍薄キモノトナ  
ス  
前數ケ條ノ事柄ハ多ク國ノ政體ヲ一變セントナシタルコトナリ  
然ルニ本條ノ事柄ハ盜奪ノ罪ナリト爲ス即チ人民ニテ政府ノ財産金額等ヲ盜奪セント  
スルコトナリ故ニ國事犯ノ性質ハ稍薄キモノナリ  
之ヲ本條ニハ死刑ニ處セラル可シトアレハ現今ハ城寨中ノ流刑ト爲スナリ  
之ヨリ以下第九十八條ノ罪ニ至リテ愈輕キ罪ナリ仍テ單一ノ流刑トナスコトナリ則チ  
前數條ニ記シタル群衆中ノ集會所ニ於テ逮捕ヲ受クルト雖モ其指揮役又ハ職務ヲ行ハ



サレ場合ノモノナリ

第六十九條ニ於テハ前數條ノ者ニ家屋又ハ隱匿ノ地ヲ貸與ヘタルモノナリ之ハ殊ニ通常ノ罪ト爲シ有期ノ徒刑ニ處スルナリ

故ニ此法律ニ於テハ國事犯ト通常ノ罪トノ區別ニ於テ判然ト爲サ、ル所アリト曾テ云ヒタルコトアリ之即チ其一証ナリ

前數ヶ條ハ總テ國事犯ヲ以テ罰スルコトナレド本條ニ至テハ全ク通常ノ罪ト爲シタルモノナリ

人民中ニテ七八人モ同意シ政府ノ金庫等ヲ破リ金額ヲ盜奪セントノ目的ニテ其罪ヲ犯シタル時ハ強テ國事犯トハ爲シ難シ政府ノ金額ヲ盜奪シ夫レヲ以テ兵隊ヲ屯集セシメントスル等ノ時ハ或ハ國事犯ト爲スヘシト雖モ只其金額ヲ盜奪セントスルノミノ目的ナル時ハ國事犯トハ爲シ難ク通常ノ罪ト爲スヘキナリ

内亂ノ起リタル時ニ乘シ政府ノ金額ヲ盜奪スル等ノコトハ佛國ニテモ屢アリタルコトナリ

現今有名ナル談アリ先頃佛國ノ内亂ノ時ニ於テ「リチン」ヘ金額等ヲ運送スル場合ニ當リ之ヲ途中ニ要襲シテ盜奪シタルモノナリ

故ニ此等ノコトハ内亂ノ時ニ於テハ屢アルコトトナスナリ

例ヘハ日本ニテ上海ヨリ地金ヲ取寄セ品川沖ヘ陸上ケテ爲シタル時ニ於テ賊徒ノ黨與ニテ其地金ヲ盜奪シタル等ノコトヲ云ヘキナリ

斯ノ如キ罪犯ハ國事犯トハ爲シ難シ故ニ通常ノ罪ト爲スヘキナリ

然シ政府ニ屬スル所ノ金額等ヲ盜奪シタル時ハ其賊徒ノ本意ノ如何ヲ辨知スヘキナリ

爲ス

佛國ニテ以前饑饉アリタル時或米屋ニテ米穀ヲ圍ヒ置キタリ之ハ其饑饉ニ乘シ他ノ者ノ難儀ヲ顧ミス一己ノ私利ヲ計リタルモノナリ故ニ其米屋ヘ侵入リ米穀ヲ奪ヒ取ル

等種々ノ亂妨ヲ爲シタル者アリ

之ハ其米穀ヲ奪ヒ取り自分ノミノ利益ト爲サントスルノ本意ニアラス全ク其饑饉ニテ衆人ノ難儀スルコトヲ救ハンカ爲メニ此亂妨ヲ爲シタルモノナリ

此亂妨ヲ爲シタルコトハ固ヨリ好キ事コハアラサレド衆人ノ難儀ヲ救ハンカ爲メナル故ニ尋常ノ盜罪トハ爲シ難ク矢張國事犯ト爲スナリ

故ニ政府ノ金穀ト人民ノ金穀トヲ盜奪シタルニ拘ハラズ自分ノミノ利益ト爲サントノ目的ナレハ通常ノ罪ト爲スナレド全ク其目的ニアラサル時ハ假令前ノ如キ亂妨ノ舉動ヲ爲シタリトモ少シク之ヲ恕シテ國事犯ト爲スヘキナリ

故ニ此等ノ所行ニ就テハ只其本心ノ如何ヲ審判シテ國事犯ト通常ノ罪トノ區別ヲ立テサル可カラサルナリ

日本ニテハ未タ國事犯ニ死刑ヲ用ユルコトハ廢スルニ至ラサルヘシ

刑法ノ全體コリ之ヲ論スルニ其最重キ罪ヲ以テ死刑ト爲ス場合ニ於テハ通常ノ罪ト國事犯トノ區別ナシトモ可ナリ



然レ其重キ罪ノ内ヨリ酌量輕減ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ノ原因ヲ明カニシ通常ノ罪ト國事犯ト區別ヲ分テ其順序ノ本源ヲ定メサル可カラサルナリ

第九十六條ノ第一項ハ其群衆ヲ指揮シ又ハ其職務ヲ行ヒテ直チニ其兇行ヲ爲シタルモノナリ

第二項ハ直ニ其兇行ヲ爲シタルモノニアラス群衆ヲ煽動シ又ハ其ノ指揮ヲ爲シタル者ト交通シタルモノトナリ

第二項ハ第一項ト同シク死刑ニ處セラルトアリ尤之モ以前ノ法律ニテ現今ハ此死刑ヲ廢セリ仍テ之ヲ詳説スルトモ格別ノ便益ニハアラサレハ聊カ參考ノ爲メ説クヘキコトアリ

以前本條ニテ死刑ニ處シタル時ハ其死刑ニ處シタル上尙別ニ家産ヲ沒收スルノ法律アリタリ

故ニ原書ニハ第二項ニ於テ死刑ト記セズシテ前條ト同刑ニ處スヘント爲シ此同刑ノ字ヲ復稱ニテ記セリ之ハ全ク死刑ニ處シタル上尙家産ヲ沒收スルコト、ノ二ツ刑ヲ含メル故ナリ

第一項ハ全ク「コンプリス」ノコトナリ故ニ其群衆ヲ募集スル爲メ兵器等ヲ給與シ又ハ其用意ヲナスコトヲ即チ事前ノ附從ナリ

仍テ本條ノ事柄ニ付テハ別ニ正條ヲ立テ斯ノ如ク明文ヲ記スルコト及ハサルモノナリトス

向トナレハ附從ノ罪ノ性質ハ之ヲ記シタル正條アリ故ニ其正條ニ於テ已ニ十分ニ其方

法ヲ示セリ然ラハ此第一項ニ於テ又更ニ之ヲ記スルコト及ハサルモノトナスナリ

一體事前ノ附從ハ主犯ト同刑ニ處スヘキモノナレハナリ

尤若シ本條ノ罪ニ限り主犯ト同刑ニ處セサル時ハ之ヲ以テ別ニ正條ヲ立ツルトモ不可ナキナレハ此所ニテハ別段同刑ニ處セサルコト云フ譯ニモアラサル故ナリ

第九十七條

本條ニ記スル第八十六條第八十七條ト云ハ皇帝及ヒ政府ニ對シタル罪ナリ第九十一條ト云ハ内亂ヲ起サントスルノ罪ナリ

此三ヶ條ニ記シタル重罪ノ一箇又ハ數箇ヲ目的ト爲シタル時ハ其已ニ行ヒタルト行ハント試ミタルトヲ論セス均シク死刑ト爲スナリ尤未タ之ヲ行ハサル以前ノ者ハ大ヒニ差別アリト雖モ本條ニ於テハ其事柄ニ付幾部分カノコトハ已ニ爲シ掛ケタルモノナリ

第一項ニテ死刑ト爲スハ必ス二ツノコトヲ具セサレハ死刑ト爲ス可カラサルナリ

何トナレハ必ス前ニ記シタル三ヶ條ノ罪ノ内ノ一ツヲ犯シタルト又其犯シタル場所ニテ逮捕セラレタル時ニ限ルヘキナリ

故ニ若シ此二ツノコトヲ具セサル時ハ死刑ニ處セサルヘキナリ

第二項ハ群衆中ニテ指揮役或ハ其職務ヲ行ヒタルモノナリト爲ス之ハ其集會ノ場所ノ外ニ於テ逮捕セラレタリトモ死刑ニ處セラルトナリ

尤其羣衆中ニテ只一通リ黨與コ入りタルノミノ者ハ余程差別アルヘキナリ

爰ニ一言説クヘキコトアリ

第一項ニ集會セシ場所ニテ逮捕ヲ受ケシ者云々トアリ

其場合ニテ逮捕シタル者ハ固ヨリ其罪アルノ證據ヲ取ル爲メニハ確實ナレハ其場所ト



其場所ニアラサルトニ於テ逮捕シタル者ニ就キ其罪ノ有無ヲ定ムル原因ニ差別ヲ爲スハ不都合ナリト考ヘリ  
若シ之ヲ全ク其罪アル者ト爲ス時ニ必ラス其場所ニテ逮捕シタルコ限ラサルヘシ故ニ假令其他ノ場所ニテ逮捕シタル者ナリトモ眞ニ其罪アルモノハ之ヲ宥ルス可カラサルナリ

故ニ本條ノ第一項ハ其罪ノ證據ヲ取ルコト、其罪ノ有無ヲ定ムル原因ヲ辨知スルコト、混淆シタルモノナリ

尤現行ノ犯罪ト非現行ノ犯罪トハ其差違アルコトハ勿論ナリ則チ現行ノ犯罪ハ重ク非現行ノ犯罪ハ輕シト、差アル譯ナリ

仍テ集會セシ場所ニテ逮捕シタル時ハ現行ノ犯罪ト爲スヘキモノナリ故ニ其逮捕シタルモノハ斯ノ如キ罪ト爲ストノ定メテ立テタルモノナルヘキナリ

又一言説クヘキコトアリ

罪ノ輕重ヲ定ムルニハ他ノ尺度ノ如ク一定ノ定規ヲ以テ之ヲ商量スヘキモノナシ故ニ只其輕キ罪ヨリ重キ罪ニ至ルノ權衡ヲ比較シ此罪ハ彼罪ヨリ重ク彼ノ罪ハ此罪ヨリ輕シトノ輕重ノ目盛ヲ定メ各其正條ヲ立テ之ヲ以テ道理ニ外レサル様ニ制定スヘキナリ  
本條ノ如ク道理ニ外レサル様ニ制定スル時ハ假令實際ニ於テ或ハ其罪ヲ重ク爲スコトアルトモ他ノ者ヨリ之ニ隊ヲ容ルコトヲ得サルナリ

第九十八條

本條ニ記スル所ハ第八十六條第八十七條第九十一條等ニ記シタル云々ノコトニアラサル時トアリ

故ニ此三ヶ條コアル所ノ罪ノ外ノ罪コトナリ第九十二條ヨリ第九十六條迄ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其集會セシ場所ニテ逮捕シタルトモ之ヲ輕キ刑ト爲シ流刑ニ處セラレヘシトアリ

本條ハ矢張現行ノ犯罪ナレバ其黨與中ノ指揮役又ハ或職務ヲ行ハス只其黨與ニ加ハリタルノモノモノナリ故ニ單一ノ流刑ト爲スナリ

之ハ個ヨリ現行ノ犯罪ナレバ全ク其指揮役等何事モ爲サル時ナリ故ニ大ヒニ輕ク爲シタルモノナリ

此等ノ者コト若シ其集會セシ場所ノ外ニ於テ逮捕セラレタル時ハ第百條ニアル如ク全ク之ヲ免ルシテ罪ナキモノト爲スナリ

第百條ニ於テハ其集會セシ場所ニ於テ逮捕セラレタル時ハ幾部分カノ罪アリト爲スヘシレバ其場所ノ外ナレバ全ク罪ナシト爲スヘシトノ旨意ナリ

故ニ第百條ハ能ク其全文ノ旨意ヲ注意シテ看ルヘキナリ

即チ其指揮役及ヒ或ル職務ヲ行フコトナク云々トアリ之ハ官吏ノ叱責ニ仍リ直チニ其黨ヲ離脱シタルモノ又ハ一時之ニ抵抗シタリトモ其後本心ヨリ悔悟シタルモノナリ此等ノ者ノ其集會セシ場所ノ外ニ於テ逮捕セラレタル時ハ其刑ヲ受クルコトナシト爲ス

若シ之ニ抵抗シタル者ハ固ヨリ其罪アルヘキナレバ本條ニアル所ノモノハ全ク一時ノ抵抗ニテ其後官吏ノ叱責ヲ願ミ本心ヨリ悔悟シタル者ナリトス

然シ其黨中ニ加ハリタル時間ニ於テ盜罪等他ノ重罪ヲ犯シタル時ハ夫丈ケノ罪ヲ罰シ別ニ相當ノ刑ニ處スヘキナリ  
故ニ其全ク他ノ重罪ヲ犯シタルヤ否ヤハ審判セサル可カラズ若シ之ヲ犯シタル時ハ決



シテ夫次クノ刑ニ免ルスコトナシトス  
假令ヒ直チニ其黨ヲ離脱シタリトモ若シ其黨ニ属シテ罪ニアラサル他ノ重罪ヲ犯シ  
タル時ハ第二項ノ如ク罰セサル可カラサルナリ  
第二項ニ自ラ行ヒタル重罪ト云フハ本條ニテ主ト爲ス所ノ罪ニアラス全ク異リタル重  
罪ヲ犯セタルコトナラヘシ

然シ盜罪又ハ火付等ノ重罪ヲ犯シタルコトヲ云フナリ  
問 場所ノ外コテ逮捕セラレタル者ハ其刑ヲ受クルコトナシト云フハ畢竟第九十九條ノ  
集會所ヲ貸與ヘタルコト、違ヒ脅迫ニ仍リ已ムヲ得ス其黨ニ加ハリタルモ知ル可カラ  
ス故ニ其罪ヲ免スヘシト爲シタル譯ナルベキカ

教師答 右ノ如クニモ解シ得ヘキナレバ教師コ於テハ否ルト考ヘリ  
第六十四條ニ脅迫ニ仍テ犯セタル罪ノコトヲ記セリ  
故ニ脅迫ノ爲メナル時ハ假令其場所ニ居リ逮捕ヲ受ケタリトモ別ニ其刑ヲ受クルコト  
ナキ筈ナリ

巴里ノ内亂ノ時ニ於テモ不和隨行ヲ爲シタル者少カラサリシナレバ之レハ其脅迫ノ情  
狀ヲ言立タルニ仍リ何レモ其刑ヲ免サレタリ  
問 指揮役又ハ其職務ヲ行ヒタルニアラス何事モ爲サスシテ只其場所ニ踰躡セタルモノ  
ハ如何

教師答 之ハ第九十八條ニ仍テ處スヘキナリ  
其本心ニアラス脅迫ニ仍リタルトノコトハ必ス其證據ヲ分明ニ立テシムヘキナリ  
然シ其證據ヲ分明ニ立テシムルコトハ實際ニ於テハ甚ダ難キコトナリトス

何トナレハ内亂ニテ戰爭ノ治マリタル後ニ於テハ何レモ其罪ヲ免レン爲メ脅迫ニ仍リ  
已ムヲ得ス其黨ニ加ハリタリト云フ者多シ然シ其内ニハ眞ニ其脅迫セラレタル者モア  
ルヘキナリト雖モ其證據ヲ立ツルコトハ甚ダ難シトス  
内亂等非常ノ場合ニ於テハ其犯罪人ハ速ニ處斷スヘキコトナリ仍テ巴里杯コトモ之ヲ  
逮捕シタル時ハ直ニ處斷セリ故ニ其内ニハ眞ニ脅迫セラレタル者ニテ死刑ト爲リタル  
モノモ多クアリタルヘシ

巴里ノ内亂ノ時ハ戰場ニテ圍チ受ケタル時ト同様ノ布告アリタリ  
仍テ其黨ノ者ハ總テ陸軍裁判所ニテ裁判ヲ爲セリ  
其時ハ陸軍ノ大將ハ勿論士官等ハ皆何レモ戰爭ノ勝ニ乘シタル勢ヒノ者ノミナリ  
其勝チニ乘シタル勢ヲ以テ其罪ヲ處斷シタルコト故自ラ無法ニ裁判ヲ爲シ速ニ其刑ヲ  
行ヒタルコトモアルヘキナリ

第九十九條

本條ハ即チ附從ノ罪ナリ之ハ前數ヶ條ニ記シタル徒黨ノ目的ハ斯ノ如ク又其情態ハ斯  
ノ如クト云フコトヲ知リテ夫カ爲メ集會所ヲ貸與ヘタルモノナリ  
之ハ有期ノ徒刑ト爲スナリ  
本條ニ脅迫ニ仍ラスシテト云フコトハ本條ニ限ルヘキニアラス若シ本條ニ限ルヘシト  
一体脅迫ニ仍ラスシテト云フコトハ本條ニ限ルヘキニアラス若シ本條ニ限ルヘシト  
爲セハ前數ヶ條ノ罪ハ總テ脅迫ニ因リタルコト、爲サ、ル可カラス  
之ヲ脅迫ニ因リタリト爲ス時ハ引キ連レタル兵卒等ハ遂ニ其黨ヲ去ル能ハス長キ時日  
ノ間絶ヘス脅迫ヲ受ケタルモノト爲スヘキナリ斯ノ如キコトハ決シテナキ道理ナリ



故ニ兵卒等ハ到底威迫ニテハ引キ連レ難キモノナリト爲ス  
然レモ本條ニアル所ノ集會所ヲ貸與ヘルコトハ兵隊等多人數コテ威迫セラレ已ムヲ得  
サルコトアルヘキモ計ル可カラズ

故ニ且威迫ヲ受ケ易ク又之ヲ爲セテ其事柄ヲ遂ケ易キモノト爲ス  
因テ本條ニ限リ威迫ニ囚ラス云々ノコトヲ記シタルモノナリ

本條ト第六十一條トヲ照シテ看ルヘキナリ  
第六十一條ニ國ノ安寧ト公ケノ靜謐ニ關スル云々ノコトハ其附從ト爲セテ罪スヘシト  
アリ

即チ主犯ト同罪ト爲スナリ然ルコト本條ニ於テハ主犯ト同シクセス之ヲ有期ノ徒刑ト爲  
スナリ

故ニ本條ニ於テハ全ク一體ノ原則ト違ヒ別格ニ爲シタルモノナリ  
第六十一條ト第九十九條トニ於テ如何ナル違ヒアリヤトナレハ第六十一條ニハ常ニ貸  
與シタルトアリ

之ハ一二度等暫時ノコトニアラス引續キテ屢貸與シタルモノナリ  
第九十九條ニハ常ニ云字ナシ故ニ之ハ全ク不意ニ暫時貸與シタルモノナリ  
仍テ常ニ「ト云フ字ノ有無ニ寄リ斯ノ如キ違ヒアル譯ケナリ

問 然シ其附從タルコトハ相違ナカルヘキカ

答 第九十九條ノ罪モ附從ニハ相違ナシ然レモ全ク其不意ニ爲シタルコトナリ

問 然シ固ヨリ脅迫セラレタルコトニアラサル以上ハ附從ト爲スヘキナリ

問 然ラハ之ヲ別格ノ刑ト爲スハ全ク法律中ノ取除ケナルヘキカ

答 然リ

第百條中ノコトニ付説キ遺コシタルコトアリ仍テ尙説ントス

但以下ニ於テ五年ヨリ少カラズ十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムヘシト  
アリ

之ハ前項ニ記シタル者ニテ其刑ヲ受クルコトナシト雖モ只其政府ノ監察ノミハ受ケ

ムルヲ得ヘキニ仍リ其期限ヲ定メタルモノナリ

然レ但以下ノ所ニ政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得ヘシトアル故ニ必ス之ヲ附ケ置クヘ  
シト云フニアラス全ク便利法ナリトス

故ニ此監察ヲ受ケシムルヲ得ヘシトノコトハ前項ニ連續スヘキ文意ニテ「此場合ニ於  
テハ犯人其自ラ行ヒタル重罪ノミコト付罰ヲ受クヘシト云フ所ヘ連接シテ解スヘキコ  
トニアラス

故ニ此末項ノ書法宜シカラズト爲ス本條ノ主意ハ即チ「刑ヲ受クルコトナカルヘシ然  
レモ五年ヨリ少カラズ十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルヲ得ヘシト  
云フコトナリ

若シ本條ノ外ノ重罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ別ニ夫レ丈クノ罪ヲ以テ論スヘキニ付即  
チ一生ノ間ノ監察ヲ受ケシムヘキナリ

佛國ノ文法ニ於テハ斯ノ如キ書キ方ニテモ解シ誤ルコトナシト雖モ先ツ注意シテ看ル  
ヘキコトナリ

第百一條



本條ハ何等ノ物ヲ兵器ト稱スルヤノ註釋ヲ爲シタルモノナリ何トナレハ第百條ニ兵器  
ヲ弄スルコトナシ云々トアリ

故ニ其兵器ト云フ字ヲ註釋シタルモノナリ

刑法ニ於テハ兵器トハ如何ナル物ト言フコトヲ辨知シ置クヘキナリ

兵器ト云フ内ニハ種々ノ差別アリ故ニ大抵其種類ヲ分ケテ記シ置クヘキナリ

尤其種類ニ拘ハラズ人ヲ切り、人ヲ突キ、人ヲ打ツ等總テ殺傷シ得ヘキモノハ兵器ト云  
フヘキナリ

日本ニテハ鎌又ハ「巡查」ノ携ヘタル棒杯モ兵器ノ部類ニ屬スヘキナリ

銃砲及ヒ劍類ハ勿論棒ト杖杯ト雖モ總テ兵器ト言フヘキナリ

尤棒ハ一概ニ兵器ト言フ可カラサレモ之ヲ以テ人ノ頭腦ヲ撃ツ時ハ果シテ撃チ殺シ得  
ヘキニ付則チ兵器ト言フヘキナリ

通常ノ杖ハ兵器ノ内ニアラサレモ其杖ノ中ニ劍ヲ仕込ミタル時ハ矢張兵器ト云フヘキ  
ナリ

尤其劍ヲ仕込マサル杖ト雖モ之ヲ以テ人ヲ撃チ殺シタル時ハ兵器ト云フヲ得ヘシ

又小サキ小刀缺尋常ノ杖ニテモ兵器トハ爲サレモ之ヲ以テ人ヲ殺シタル時ハ兵器ト  
云フヘキナリ

問 然ラハ本條中コト「爲メ」ト云フ字ノ内ニ其兵器ト云フヘキト云マヘカサレトノ區  
別アル意味ヲ寓スルナルヘシ故ニ其人ヲ殺シ又ハ鬪傷シタル時ハ全ク之ヲ兵器ト見做  
スヘキナルヤ

答 然リ尤爲メ云々ト云フハ宜シカラス之ヲ用ヒタル時ハ兵器ト見做スヘシト記ス  
ヘキナリ

本條ノ第一項ニ記スル所ノモノハ只之ヲ所持シタルノミニテモ兵器ト云フコトヲ得ヘ  
シ

第二項ニ記スル所ノモノハ人ヲ殺シ又ハ鬪傷シタル上ニアラサレハ其兵器タルノ名目  
ヲ下ス可カラサルモノナリ

是迄ハ第一種類ノ國事犯ノコトヲ説キタリ

後第九號 「明治九年二月二十五日」  
第百二條  
本條ハ已ニ廢シタリ然レ此舊ノ箇條ハ何事ヲ記セシモノナリヤトナレハ新聞紙又ハ即  
チ演說ニテ人民ヲ煽動セシモノ、刑ヲ記セリ  
附從  
此等ノ事ハ畢竟一揆ヲ起スノ「ユンプリス」ナリトシテ罰スルモノナリ  
本條ヲ廢シタル以後千八百十九年ニ至リ其代リノ條件ヲ立テタリ  
其代リノ條件ハ舊ノ本條ヨリ其方法ヲ増加シテ詳密ニ爲シタリ  
演說又ハ書キ物圖書彫物等ニテ政事上ヲ誹謗スルノ意ヲ寓シ之ヲ賣買シ又ハ衆人ニ分  
與スルガ或ハ公ケノ所ニ張出ス等ノコトハ則チ總テ一揆ヲ起スノ重罪罪ヲ煽動スルモ  
ノナリ其之ヲ煽動スル者ハ附從ノ罪ト爲スナリ  
其代リノ條件ハ只其方法ヲ詳密ニ爲シタルノミニテ之ヲ罰スル刑法上ニ於テ輕重ノ異  
ナルコトアラサルヤ

九〇二  
附從ノ罪ハ第五十九條ニアル原則ノ如ク主犯ト同一ノ刑ト爲スナリ故ニ別ニ其輕重ノ



異ナルコトナシ 輕罪

通常ハ出版ノ「デリー」ト云フナレハ此一揆ヲ煽動スルコトコ付テハ「デリー」〔輕罪〕ノ  
 ミナラス重罪、又ハ陰謀ヲモ罰スルコト、爲スナリ  
 「デリー」トハ出版ノコトノミナラス一般ノ事ニ付テノ罪ト云フ字ナリ  
 故ニ出版ノ「デリー」トハ一揆ヲ煽動スル主意ヲ公ケニ出版又ハ演舌等ニテ之ヲ衆人ニ  
 知ラシメタル罪ヲ云フナリ  
 出版ノ「デリー」又ハ出版ノ條例ヲ犯シ又ハ其他ノ條例ヲ犯シタル罪ト云フコトナリ  
 出版條例ハ追々改正アリテ都合十度モ變易セリ然シ一度ノ新法ヲ出ス毎ニ其始メノ法  
 ナ廢セシカトナレハ否ラス前後ノ法ヲ相互ニ牽連シテ用ユヘキコト、爲セリ  
 今日ハ其一度毎ノ法ヲ其儘用ユル能ハス故ニ佛國ニハ出版條例ノ獨立ニテ行ナハル可  
 キモノナシトス

「此時出版條例ノ反譯書ヲ出シ教師ニ示シタリ」  
 第三百三條ヨリ第七條迄モ矢張之ヲ廢セリ然シ別ニ其代リノ條件ハ立テサルナリ  
 此舊トノ條件ハ一揆等ヲ起サントノコトヲ犯ス、雖モ之ヲ自首スレハ其罪ヲ免ル可シ  
 トノコトナリ又之ヲ自首シタルノミニテ其儘出テサル時ハ如何ト爲ス可シトノコトヲ  
 記シタルモノナリ

問 夫レハ自首シタル儘ニテ逃亡シタル者ナリヤ

教師答 自首シテ二十四時ニ出テサル時ハ如何ト爲ス可キ等ノコトヲ記シタルモノナリ  
 舊トノ第三百三條ハ他ノ者ノ一揆ヲ起スコトヲ見聞シテ其儘ニ默止シ訴出サル時ハ罰セ

ヲレタルナリ然シ現今ハ之ヲ廢セリ

治罪法第三十條ニ何人ニ限ラス公ケノ安寧ヲ害シ又ハ人命或ハ所有物ヲ害スル罪犯ヲ  
 目撃シタル者ハ檢事ニ報知ス可シトアリ

故ニ以前ハ之ヲ報知セサル時ハ罰セラレタルモノナレハ現今ハ假令報知セサルトモ別  
 ニ罰セラレ、コトナキナリ

何故ニ之ヲ報知セサルモノヲ罪セサルコトニ改メタリヤトナルニ其著ノ往來ニ仍リ臆  
 病ナル者ハ假令ヒ之ヲ報知スヘシト思フトモ其犯人ヨリ敵視ヒラレ他日其怨ヲ復セラ

ンコトヲ怯レ遂ニ報知セサルモノアル可シ

之ヲ強テ報知ス可シト云フハ人間社會ノ道理ニ悖ルモノナリ  
 一人一己ノ情義上ヨリ論スレハ固ヨリ報知ス可キコトナレハ人間社會ノ道理上ヨリ論

スレハ一己ノ身ヲ以テ衆人ニ敵視セラレ可キ危險ナルコトヲ侵カシテ一般ノ人民ノ危

險ナルコトヲ救フ可キモノモアラサル故ナリ  
 其著ノ勇氣ナキコトハ固ヨリ言テ須ダサル譯ナレハ自分ノ身ヲ危クシテ殊更ニ勇氣ヲ

出スコモ及ハサル譯ナリ  
 然シ官吏ニ於テ其犯罪ヲ企テタルコトヲ見聞シタル時ハ固ヨリ之ヲ報知セサル可カラ

サルナリ尤若シ之ヲ報知セサル時ハ如何スヘキトノコトハ刑法ニ明文ナキ故ニ刑法ニ

仍テハ罰セサルナレハ自ラ相當ノ罰ヲ受ク可キナリ

例ハ其官ヲ免セラル、トカ又ハ終身官ナレハ外ニ相當ノ罰ヲ受ク可キナリ  
 此官吏ヲ罰スルコトコ付テハ大審院ニテ裁判ス可キコト、爲セリ

第三百八條



本條ハ現今コテモ尙存シテ廢セサルナリ  
 之ハ陰謀ニ同意セシ者ニテ即チ附從ノ罪ト爲ス可キモノナリ故ニ其附從ニテ相當ノ時  
 間中ニ其犯罪ノ事柄ヲ自首スル時ハ之ヲ賞美シテ其罪ヲ免スナリ  
 舊第百三條ノ事柄ハ其陰謀ヲ知リタル儘ニテ黙止シ訴ヘサル時ノコトナリ  
 本條ハ一旦其犯罪ニ同意セシ者ニテ之ヲ自首シ又ハ其犯罪ヲナサントスル他ノ者ヲ捕  
 獲シタル時ナリ時ハ其罪ヲ免ス可キナリ  
 例ヘハ甲者ト乙者ト相談シテ其陰謀ハ己ニ成リヨリ然レ未タ其一揆ヲ起ス可キ手續ヲ  
 施サ、レ以前ヨリ於テ乙者ヨリ其陰謀ノ裏ヲ切リテ爲シ之ヲ訴ヘタリ其時コハ乙者ハ其  
 訴ヘタルヲ賞美セラレ其罪ヲ免ルサル可キナレハ甲者ハ其罪ニテ罰セラル可キナリ  
 然シ其手續ヲ實地ニ就テ施シタル時ハ之ヲ自首スルトモ己ニ遲ク其機會ヲ失セルニ仍  
 リ其罪ヲ免レスコトヲ得サルナリ  
 又例ヘハ一揆ノ手續ヲ未タ施サ、ル内ナリトモ之ヲ司法省ニテ檢知シ其黨ノ者ヲ捕獲  
 シ裁判ニ着手シ始メタル時ニ至テハ假令乙者ヨリ我ハ何某ノ一揆ノ黨ニ入りタリト  
 自首スルトモ己ニ遲クト爲ス故ニ其自首ノ効アラサルナリ  
 然シ其黨ノ逃亡シタルヲ知リ之ヲ乙者ヨリ訴ヘ出シ又ハ捕獲ノ助ケヲ爲シタル時ハ賞  
 美ノ爲メ其罪ヲ免レサル可キナリ  
 其一揆ノ手續ヲ始メタル時ハ己ニ遲クト爲ス然ラハ假令ヒ本人ノ良心ヨリ悔悟シ之ヲ  
 自首スルトモ其罪ヲ免スコトヲ得サル譯ナリヤ  
 然リ假令ヒ自首スルトモ其効ヲ爲サ、ルナリ  
 其一揆ヲ未タ始メタル時ハ假令ヒ裁判所ニテ檢事等ノ訴ニ仍リ之ヲ捕獲シタリトモ其

自首ノ効ハアル可キナリ  
 又其檢事等ノ訴アリタリトモ之ヲ自首シテ其首從ヲ捕獲スルコトヲ助ケタル者ハ其罪  
 ヲ免ルスコキナリ  
 一體一揆ノ企ニテ其闘争ヲ起サ、ル前ニ於テ自首スル時ハ其公益ヲ害スヘキコトヲ防  
 キ得ヘシト後モ其闘争ヲ起シタル後ニ至リテハ己ニ其害ヲ爲スコト多ク且衆人ハ勿論  
 政府ニテモ之ヲ目撃シタル上ニ付其時ハ自首スルトモ何ノ用ヲ爲サス故ニ其罪ヲ免サ  
 、ルナリ  
 自首ヲ以テ其罪ヲ免スハ畢竟人民一般ノ危害ニ至ラサル爲メ之ヲ防キ得ントスルノ主  
 意ナリ故ニ己ニ其闘争ヲ通シタル上ハ其危害ヲ防クコトヲ得サルコト付自首スルトモ其  
 罪ヲ免ルスコトナシトス  
 自首ヲ以テ其罪ヲ免ルスコトハ此外ニモアリ即チ通貨ノ贗造ヲ爲シタル者モ之ヲ自首  
 スレハ其罪ヲ免ルスコト爲スナリ  
 一旦其同類ニ加ソリ贗金ヲ製造シタリトモ未タ之ヲ世間ヘ遣ヒ出サ、ル内ニ自首ヲ爲  
 ス時ハ其罪ヲ免ルスコキナリ  
 又官吏ニテ己ニ其何某ト何某ト言合セ贗金ヲ製造シタリトノ訴ヲ爲シタリトモ矢張之  
 ナ遣ヒ出サ、ル内ニ自首スレハ即チ本條ト同シ手續ニテ全ク自首ノ贖ヲ以テ其罪ヲ免  
 ルスコト爲ス之ハ第百三十八條ニアリ即チ第百八條ト同シク之ヲ自首シ又ハ之ヲ捕  
 獲云々ノ時ハ其罪ヲ免ルスコトナリ  
 此免ルコト云フハ「エキスキースアツテコヤ」「コアラス」エキザンプト」ト云フ原語ニ  
 テ其罪ヲ全免スルコトナリ



「エキスキアッタコニヤン」ト言フハ其罪ヲ犯セタル状況ニ仍リテ其刑ヲ輕減スルコトナレド此所ニテ「エキサンプト」ト言フハ之ヲ全免シテ元トヨリ其罪ナキモノト爲スコトナリ

問 第百八條ノ免ルスト云フ原語モ同様ナリヤ

教師答 然リ

問 此外ニモ自首ニ仍テ其罪ヲ免ルスコトアリヤ

教師答 曾テ説キタルコトアル如ク自首ニ仍テ其罪ヲ全免スルハ先ツ此ニツナリ

問 禁制品等ノ出板ヲ爲セタル罪モ自首ニ仍テ免サル、コトアラサルヤ

教師答 出板條例ノ罪ヲ犯シタル時ハ自首ニ仍テ其罪ヲ免ルスコトキ法アルノ理ナシ何トナレハ何某ハ簡様ナル出板ヲ爲サントスルト云ヒタリトモ未タ之ヲ公ケニ出サ、レハ其罪アルモノト云ハス故ニ之ヲ自首スルトモ其罪ヲ免ルスコト法アル可キ理ナシ假令出板スルトモ公ケニ出サ、レハ固ヨリ出板條例ニ觸レタルモノトハ爲サ、ル等ナリ

國ノ安寧ニ關スル罪ハ決心ノコトモ罰スル位ナル故ニ自首ノ効アル可キナレド出板ハ只其決心ノコトヲ罰スルコトヲ得ス

又之ヲ出板シテ公ケニ出シタル時ニ至テハ已ニ其機會ヲ失ヒ自首シタル効ヲ爲サズ然ラハ其之ヲ自首ス可キノ時アララズ故ニ出板條例ニハ自首ヲ以テ其罪ヲ免ルスト云フナシ

一體出板條例ノミナラス普通ノ罪ニ於テハ自首ニ仍リ其罪ヲ免ルスコトナレド何トナレハ普通ノ罪モ矢張決心而已コトテハ之ヲ罰セサル故ナリ

普通ノ罪ハ豫備ノ所行ニテモ之ヲ罰セサルナリ

未遂犯罪

然ラハ何レノ時ヲ以テ其罪ヲ罰ス可キノ分界ト爲ストナレハ「オンダナール」以上コト之ヲ罰スルナリ

故ニ只其豫備ノ所行而已ニテ罰スヘシトスル時ハ之ヲ罪アリト云フノ度ヲ誤リ早キニ失セリト爲ス

問 日本コテモ殺傷等人ニ傷害ヲ掛ケタルモノハ自首ニテ其罪ヲ免スコトナシト雖モ其

他盜罪等ニ付テハ西歐ト違ヒ其本人ニテ惡事ヲ犯シタルコトヲ悔悟シ改心シテ自首ス

ルハ其罪ヲ免ルコトナリ之ハ畢竟其改心シタル廉ヲ以テノ故ナリ然レ其罪ヲ犯シタル

コトヲ他ノ者ヨリ訴ヘ出タル後ニ至テハ其自首ヲ取上サルナリ

尤西歐ニテハ刑事ハ檢事ヨリ訴テ爲ス可キニ限レル故或ハ自ラ差違アルヘキナレド日

本ニテハ何事ニ抱ハラズ何人モ知ラサル内ニ於テ自ラ之ヲ自首シテ全ク其改心シタル

コトヲ表スレハ其罪ヲ免ルコトナリ

一體此自首ヲ以テ罪ヲ免ルコトハ道理上ニ於テ不適當ナルコトコハアラサル可シト思フ

如何

教師答 佛國コテハ自首ニ仍テ其罪ヲ免ルスコトハ普通ノ罪ニハ用ヒサルナリ

然レ若シ之ヲ自首スル者アル時ハ實際ハ檢事ニテ知ラサル姿ニ爲シ置キ其自首ノ情狀

ヲ以テ酌量輕減ヲ與ヘル迄ノコトナリ

一體ハ日本ノ刑法ノ如ク一般ニ自首ヲ以テ其罪ヲ免スコト爲ス方然ルヘシ

何トナレハ一度惡事ヲ爲ストモ之ヲ悔悟シテ良心ニ改メ他ノ者ヘ損害ヲ掛ケサル様ニ



其償等ヲ爲シタル上ハ固ヨリ之ヲ免ルシテ可ナル可キモノナレハナリ  
 之ハ余程賢明ノ法ト考ヘリ  
 然レ自首スル故ニ其罪ヲ免ルスト云フ主意ニテ此法ヲ用ユルハ不可ナリ  
 他ノ者ヘ損害ヲ掛ケタル様之ヲ償ヒタルカ爲ニ其罪ヲ免ルスト云フ主意ニテ之ヲ用ユ  
 可キナリ  
 固ヨリ盜罪ニテハ其損害ヲ償ヒタル上ニアラサレハ其罪ヲ免ルサス畢竟其損害ヲ掛ケ  
 ス且自分ハ全ク悔悟シテ良心ニ改メタル者ヲ以自首ト爲ス譯ナリ  
 然レ例ヘハ人ノ蓄ヒ馬ヲ盜取リ賣却シタル後ニ其惡事タルヲ悔悟シ他ノ馬ヲ以テ償ヒ  
 タル時ハ假令ヒ元ト盜取タル馬ニ劣ヲサル良馬ナリトモ全ク元トノ馬ニアラサル以上  
 ハ幾部分カ其違ヒアル丈ケノ損害ハ免カレサル譯ナリ  
 斯ノ如キ場合ニ於テハ雙方ニテ相對ノ示談ニ仍ル可キコトナリ例ヘハ其代リ馬ニテ償  
 フ可キカ又ハ其代價ニテ償フヘキ等一方ノ承諾スヘキ様ニ其示談ヲ盡シタル上ニアラ  
 サレハ之ヲ自首スルトモ其罪ヲ免ルルルナリ  
 固ヨリ一方ノ者ノ承諾ニ仍テ自首スレハ不可ナキコトナレハ然ル時ハ自首ト爲シ得ル  
 ト爲シ得サルトハ全ク一方ノ者ノ承諾スルト承諾セサルトニ仍ル可キナリ  
 然ラハ豫メ此罪ハ自首ニ仍テ之ヲ免スヘシト一定スルヲ得ス其時々ノ場合ニ寄リ其刑  
 チ變改セサル可カラサル譯ナリ  
 凡テ自首シテ其罪ヲ免ルスヘキ種類ハ豫メ法律ヲ以テ定メ決シテ他ノ原因ニ仍リ之ヲ  
 動カス可カラサル様ニ爲シ置ク可キナリ  
 故ニ一概ニ只自首スルヲ以テ其罪ヲ免ルスト爲スハ宜シカラサルナリ

然レ之ヲ定ムルハ甚ダ難事ナリ  
 例ヘハ他ノ者ノ家ヲ破リ金ヲ盜取タリ其片ハ假令ヒ其金ヲ償ヒ返ストモ其家ヲ修復ス  
 ル間ハ其損害ヲ受ク可キナリ  
 又禽獸等ノ子ヲ生スヘキ物ヲ盜取其子ヲ生シタル片ハ假令ヒ元トノ禽獸ハ之ヲ返スト  
 雖モ其子ハ返サ、ル可キナリ  
 之ヲ斯ノ如ク論スル片ハ假令ヒ金ヲ盜取其金ヲ償ヒタリトモ之ヲ償フ迄ノ時間ハ夫丈  
 ケノ損害ヲ受ク可キ理ニシテ到底其損害ヲ償ヒテ罪ヲ免ルス可キコトハナキ譯ナリ  
 然リ固ヨリ金ヲ盜取ラレタル片ニ當リ俄カニ其差支ヲ生シ他ノ者ヨリ其金高丈ケヲ借  
 リタレハ利足等夫レ丈ケノ損害ヲ受ク可キ譯ナリ  
 然ラハ之ヲ償フトモ其損害ヲ受ケサルモノハ絶タナキ譯ナリ  
 然リ固ヨリ償戻ストモ其遲速ニ仍リ損害ヲ受ケルノ有無アル可キナリ  
 例ヘハ甲者ニテ畜ヒ馬ヲ盜ニ取ラレ差支ヘタルニ仍リ司法省ヨリ其代リノ馬ヲ借り置  
 キタリ然ルニ日ナラステテ其盜取タル馬ヲ返シタル片ハ一時ニ二疋ノ馬ヲ畜ヒ置カサ  
 ルヲ得ス仍テ假令其元トノ馬ヲ戻シ得タリトモ其他ノ一疋ヲ畜ヒ置キタル丈ケノ入費  
 ノ損害ハ是非トモ免カレサル譯ナリ  
 佛國ノ諺ニ德アレハ損アリト云フコトアリ  
 教師ノ考ニハ此所ニ於テ説アリ  
 自首ヲ爲ストモ其償ヒ戻チ遲延シタル時ハ其刑ノミチ免ルシテ民事ノ償ヒチ出サシム  
 可キナリ  
 然シ盜罪ハ盜取タル金ヲ費用シ之ヲ殘ラス償フ能ハス元トノ金高ヨリ何程カ減シ方ノ



差ヲ生ス可キコトアリ  
 盜取タル金ヲ費用シ其皆金ヲ償フ能ハス減シ方ノ差ヲ生スルハ往々アルコトナリ然シ  
 此等ノコトニ拘ハリ自首ヲ以テ其罪ヲ免ルサスト爲スルハ其償ヒ得ヘキ者モ之ヲ償ハ  
 ス又改心セントスル者モ之ヲ改心セサルノ弊害ヲ生ス可キナリ  
 其償戻シ等ヲ爲シタルハ全額ハ勿論半額ヲ償ヒタリトモ固ヨリ其刑ハ減等スヘキナ  
 リ故コ固ヨリ其減等ノ法ハ設ケサル可カラサルナリ仍テ「エキスキューズ、レガール」  
 「宥恕輕減」ト爲ス可キカ又ハ「シルクムスダンスアツテコヤント」〔酌量輕減〕ト爲ス可  
 キカ

之ハ「エキスキューズ、レガール」ト爲ス方相當ナリ  
 例ヘハ千圓ヲ盜取リ一圓ヲ償ヒ戻シタルハ於テハ其罪ノ減等ヲナス可カラサレモ半  
 額以上ヲモ償ヒタルハ之ヲ宥恕セサル可カラサルナリ  
 然シ假令ハ半額以上ト爲ストモ容易コ之ヲ宥恕ス可カラス先ツ其本人ノ悔悟シタルヤ  
 否ヤノ情狀ヲ審判スヘキナリ其盜ミ取ラレタル者ヨリ論スレハ一旦盜失シタル物ヲ直  
 チニ取戻シタル上ハ其罪ヲ免ルシテ可ナリトナス可キナレトモ然レ例ヘハ家ヲ破リ金  
 チ盜取リタル重キ罪ヲ犯シ其金ノ半額ヲ償ヒタル時ハ矢張其半分ノ罪ノ殘ルヘキハ言  
 チ須ダス又全額ヲ償ヒタリトモ已ニ其家ヲ破リタル丈ケノ罪ハ殘ルヘキナリ故ニ箇様  
 ナル時ハ懲役等輕キ刑トナスヘキナリ  
 其時ハ盜罪ノ廢ハ已ニ消スヘキコ付全ク家ヲ破リタル丈ケノ罪トナスヘキナリ  
 然リ固ヨリ家ヲ破リ金ヲ盜取リタル者ニ於テ其金ノ全額ヲ償ヒ之ヲ自首シタルハ其  
 家ヲ破リタル丈ケノ罪ヲ以テ其刑ニ處スヘキナリ

日本ニテモ固ヨリスノ如ク爲セル譯ナリ  
 例ヘハ金ヲ盜取ラントシテ人ヲ毆撃シ途ニ其金ヲ盜取リ之ヲ償ヒタルハ其毆撃シタ  
 ル丈ケノ罪ハ罰ス可キナリ  
 佛國ニテ自首トハ少シ違ヒアレモ其償ヒタルノミニテ其罪ヲ免ルスコトアリ尤之ハ盜  
 罪ニアラス  
 即チ囚獄ノ守卒コテ自分ノ知ラサル内ニ其罪人ヲ逃亡セシメタル時ハ之ヲ四ヶ月内ニ  
 捕ヘ出シタレハ其罪ヲ免ルコトナリ

之ハ日本ニテモ同様ナリ然シ其期限ヲ三十日ト爲セリ  
 期限ノ違ヒハ各國ニ於テ同シカラサルコトアル可キナリ此ノ事ハ第二百四十七條ニア  
 リ  
 之ハ自首ニ就テ其罪ヲ免ルスコトニハアラサル可キナリ  
 然リ自首ヲ以テ其罪ヲ免ルスコトニハアラサス守卒等其自分ノ怠リニテ犯人ヲ逃亡セシメタ  
 ル時ナリ故ニ固ヨリ故意ニテ逃亡セシメタルコトアラサス仍テ其犯人ヲ捕ヘ出シタレハ其  
 罪ヲ免ルスコトナリ是レハ矢張損害ヲ償ヒ其罪ヲ免ルサル、ト同様ノ理ナリ  
 然シ此場合ニ於テハ半額ヲ償フ可キコトニアラサス全額ヲ償ヒタル上其罪ヲ免ルスコト  
 ニ當ルナリ

自首ヲ以テ其罪ヲ免スノ原因ハ固ヨリ良法ナリ何トナレハ盜罪ニテハ其盜取タル物ヲ  
 償ヒ戻サシムルノ道ヲ開クヘキ故ナリ  
 然シ之ヲ用ユルノ方法ニ付テハ余程面倒ナルコトアル可シ  
 之ハ得ト考究セサル可カラサルナリ尤其方法ヲ立ツルノ面倒ナル故ヲ以テ一概ニ廢ス



ヘントナス可キモノニアラス

佛國ニ於テハ固ヨリ普通ノ罪ニ就テ自首スヘントノ法律ナリ

然シ盜罪ニ就テハ檢事ヨリ之ヲ訴フルト雖モ實際ハ若シ之ヲ自首シタル時ハ其情狀ヲ酌量シテ其罪ヲ免ルスヲアルモ知ル可カラサルナリ

後第十號 [明治九年三月五日]

第九條

問 憲法ヲ害スル罪ト云フハ建國ノ一體ノ法ヲ害スルコトナリヤ又ハ其一部カ數部ヲ害スルコトナリヤ

建國法

教師答 固ヨリ「コンスターション」ニ關係シタルコトハ其一部又ハ數部ヲ害スルコトアリト雖モ之ヲ分テ其一部又ハ數部ヲ害スル云々ト差別ヲ立テ詳密ニ爲スヲ要セサルカ故ニ斯ノ如ク記シタルモノナリ

問 憲法ヲ害スル罪ト云フハ本條中ノ事柄ノミニアラズ前ノ條々中皇帝ヘ對シタル暴行等モ皆之ニ關係スルコトナルヘキニアラスヤ

教師答 前ノ條々ノ事柄ニ於テモ固ヨリ「コンスターション」ニ關係スヘキナリ然シ國ノ内外ノ安寧ヲ害スル云々ノコト等ニ至テハ大ヒニ關係スルモノニアラス故ニ本條ニ於テハ其殊更ニ關係スルコトノミニナリ記シタルモノナリ

前數條ノコトハ畢竟其一部分ニ關係スルノミニナリ  
本條ニテ公權ト云フハ「ドロハシウツク」ト記シテアリ然ラハ之ニハ公證人又ハ陪審ニ爲リ得ル迄ノコトナモ害スルコト似タリ故ニ公權ト記スルハ允當ナラス政權ト記ス方然

ラン

原語ニテ民權ハ「ドロハシウイル」ト云ヒ公權ハ「ドロハシウツク」ト云フ此所コト「ドロハシウツク」ト記セルハ公權ノミニコトナリ云フニアラス則チ政權ヲ害スルノ罪ヲ云フヘキナリ

故ニ一體其原語ニ拘ハラズ「ホリヤツク」即チ政權ニ關スルコトヲ含蓄スルト見做スヘキナリ

則チ議員ヲ撰舉シ又撰舉セラル、場合ニ於テ其入札ヲナス等ノ權ヲ妨グルコトナリ之ハ六ヶ月ヨリ少ナカラズ五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ受ケ云々トアリ即チ輕罪ナリ

次條即チ第九十條ニハ此重罪犯云々トアリ故ニ本條ノ事柄ハ只一區ノ土地限リニテ其罪ヲ犯シタルコトナリ之ハ輕ク處シ即チ輕罪ナリトス

然シ次條ハ全國ニ對シ其罪ヲ犯シタルコトナリ之ハ退放ノ刑ニ處ス則チ重罪ナリトス然ルニ第九十條ノ初文ニ若シ此重罪犯ト記シタルハ何故ナリトナレハ自ラ其原由アルコトナリ

千七百九十一年ノ刑法ニ於テハ第九條ノ罪ヲ以テ十五年ノ「ゼー」ト云フ刑ニ處シタルモノナリ

此「ゼー」ト云フ刑ハ丁度現今ノ囚獄ノ刑ニ類似シタルモノナレモ通常ノ囚獄ヨリ余程寛裕ニ取扱ヒタルモノナリ

然ルニ現今ハ本條ノ罪ヲ輕罪ト爲シタリ之ヲ次條ニ於テ重罪犯トナセシハ畢竟舊ト重



ヘントナス可キモノニアラス

佛國ニ於テハ固ヨリ普通ノ罪ニ就テ自首スヘシトノ法律ナリ

然シ盜罪ニ就テハ檢事ヨリ之ヲ訴フルト雖モ實際ハ若シ之ヲ自首シタル時ハ其情狀ヲ酌量シテ其罪ヲ免ルスヲアルモ知ル可カラサルナリ

後第十號 [明治九年三月五日]

第九條

問 憲法ヲ害スル罪ト云フハ建國ノ一體ノ法ヲ害スルコトナリヤ又ハ其一部カ數部ヲ害スルコトナリヤ

建國法

教師答 固ヨリ「コンスターション」ニ關係シタルコトハ其一部又ハ數部ヲ害スルコトアリト雖モ之ヲ分テ其一部又ハ數部ヲ害スル云々ト差別ヲ立テ詳密ニ爲スヲ要セサルカ故ニ斯ノ如ク記セタルモノナリ

問 憲法ヲ害スル罪ト云フハ本條中ノ事柄ノミニアラズ前ノ條々中皇帝ヘ對シタル暴行等モ皆之ニ關係スルコトナルヘキニアラスヤ

教師答 前ノ條々ノ事柄ニ於テモ固ヨリ「コンスターション」ニ關係スヘキナリ然シ國ノ内外ノ安寧ヲ害スル云々ノコト等ニ至テハ大ヒニ關係スルモノニアラス故ニ本條ニ於テハ其殊更ニ關係スルコトノミニ記セタルモノナリ

前數條ノコトハ畢竟其一部分ニ關係スルノミニナリ  
本條ニテ公權ト云フハ「ドロハシウツク」ト記セテアリ然ラハ之ニハ公證人又ハ陪審ニ爲リ得ル迄ノコトヲ害スルニ似タリ故ニ公權ト記スルハ允當ナラス政權ト記ス方然

ラン

原語ニテ民權ハ「ドロハシウヰル」ト云ヒ公權ハ「ドロハシウツク」ト云フ此所コテ「ドロハシウツク」ト記セルハ公權ノミニコトヲ云フニアラス則チ政權ヲ害スルノ罪ヲ云フヘキナリ

故ニ一休其原語ニ拘ハラズ「ホリチウツク」即チ政權ニ關スルコトヲ含蓄スルト見做スヘキナリ

則チ議員ヲ撰舉シ又撰舉セラル、場合ニ於テ其入札チナス等ノ權ヲ妨グルコトナリ之ハ六ヶ月ヨリ少ナカラズ五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ヲ受ケ云々トアリ即チ輕罪ナリ

次條即チ第九十條ニハ此重罪犯云々トアリ故ニ本條ノ事柄ハ只一區ノ土地限リニテ其罪ヲ犯シタルコトナリ之ハ輕ク處シ即チ輕罪ナリトス

然シ次條ハ全國ニ對シ其罪ヲ犯シタルコトナリ之ハ退放ノ刑ニ處ス則チ重罪ナリトス然ルニ第九十條ノ初文ニ若シ此重罪犯ト記セタルハ何故ナリトナレハ自ラ其原由アルコトナリ

千七百九十一年ノ刑法ニ於テハ第九條ノ罪ヲ以テ十五年ノ「ゼーン」ト云フ刑ニ處シタルモノナリ

此「ゼーン」ト云フ刑ハ丁度現今ノ囚獄ノ刑ニ類似シタルモノナレトモ通常ノ囚獄ヨリ余程寬裕ニ取扱ヒタルモノナリ

然ルニ現今ハ本條ノ罪ヲ輕罪ト爲シタリ之ヲ次條ニ於テ重罪犯トナセシハ畢竟舊ト重



罪ノ部類中ノ罪ナル故ニ之ヲ其儘ニ記セシモノナリ

一休ハ之ヲ輕罪ト記スヘキナレド然ルモ其ハ下文ノ注意ニ差支アルヲ以テナリ

之ヲ要スルニ現今ハ此罪ヲ一區ノ土地限リニテ犯シタル時ハ輕罪トナシ全國ニ關係シテ犯シタル時ハ重罪トナスナリ

問 第百十條ノ主意ニテハ全國又ハ一州一郡ニ於テ之ヲ犯シタル時ハ重罪ト爲スナルヘ

キカ

教師答 然リ第百九條ハ只其一區ノ土地ノミコテ犯シタル場合ノコトナリ

故ニ之ハ其害ヲ受ケタル人少ク則チ二三人ヨリ以上數人ノ權ヲ妨ケテ爲シタルコトナ

リトス

畢竟其土地限リニテ集議スヘキ人數少ナキ場合ニ付テノコトナリ第百十條ハ一郡又ハ

數郡中ノ者ノ其入札スヘキ場所ヘ往キ亂暴ヲ以テ其妨ケヲナシ夫カ爲メ衆人ノ入札ス

ルヲ得サルコトヲ其妨ケ爲スト多ク其害ヲナスコト大ヒナル場合ナリ

一本本條ヨリ此第百十三條迄ハ之ヲ講義スルトモ格別其益アラサルヘシ何トナレハ日

本ニテハ未タ此法ヲ立ツルニハ及ハサルヘシト考ヘリ

問 此數條中ノ事柄ト違ヒ小事ニテ公撰スヘキコト例ヘハ一地方ノ區界町界等ヲ定ムル

時ニ於テ其入札スルコトヲ妨ケタルモノハ矢張本條ニ仍テ處置シテ然ルヘキヤ

教師答 固ヨリ本條ニ仍リ其處置シテ當然ナリト考ヘリ

問 然テハ日本ニテモ此法律ハ立テサル可カラサルナリ現今己ニ區界町界ヲ定ムルニハ

公撰ニテ爲スヘキコト、爲セリヤ

教師答 區界町界ヲ定ムル爲メ公撰ヲ要スルナレハ即チ本條ノ法律ヲ用ユヘキナリ固ヨ

リ其主意ニ於テ差違アルコトナシ

第百十一條

本條ハ議員ノ撰舉札ヲ計算スル任ヲ受ケタル者コテ之ヲ偽造シ紛失シ又ハ増減スル等

ノコトヲ爲シタルモノナリ

之ハ公權剝奪ノ刑ニ處スナリ

何トナレハ其任ヲ受ケテ此ノ如キ所爲ヲ爲シタルハ畢竟其任ヲ盡サ、ル故ナレハナリ

又ハ文字ヲ書シ得サル撰舉人ヨリ其入札セント差示シタル姓名ヲ書セス他ノ者ノ姓名

ニ書キ替ヘ之ヲ入札シタルモノナリ

本條ノ事柄ハ全ク計算ノ任ヲ受ケタル者コテ其所爲ヲトシタルコトナリ其任ヲ受ケザ

第百十二條

通常ノ者コテ前ニ記シタル所爲ヲ爲シタル時ハ六ヶ月ヨリ少カラズ二年ヨリ多カラサ

ル禁錮ノ刑ヲ受ケ且ツ五年ヨリ少カラズ十年ヨリ多カラサル時間其入札ヲ爲スノ權云

々ノ禁ヲ受クヘシトアリ故ニ之ハ輕罪トナスナリ

然ルニ前條ニ於テハ公權剝奪コテ重罪ト爲セリ

一體本條ノ如ク禁錮トナスハ却テ之ヲ重ク罰スル譯ナリ何トナレハ其自由ヲ欠クコト

多ケレハナリ

尤公權剝奪ハ一生ノ刑ニテ重キ刑コハ相違ナシト雖モ本人一己ノ自由ヲ欠クコトハ禁

錮ヲ以テ多シト爲ス

且ツ本條ニテ禁錮ノ刑ノ外ニ議員ヲ撰舉シ撰舉セラレ、ノ權ヲ禁セリ



然シ之ハ適宜法ニ付其禁錮ノ刑期ノ長短ニ仍リ異ナルコトアリ故ニ其權ヲ失フコト少シトス

問 前條ニ於テ重罪ト爲ス時ハ矢張政府ノ監察ヲ附クヘキカ  
教師答 重罪ト雖モ監察ヲ附ルト附ケサルトノ區別アル之ハ一體施體ノ刑ノミニ附加スヘキモノナリ

然ルニ公權剝奪ハ加辱ノ刑ナリ且ツ前條ノ事柄ハ固ヨリ國ノ内外ノ安寧ニ關スルモノコアラヌ故ニ便利法ニ仍ルト雖モ之ニ監察ヲ附クルコト能ハサルナリ

則チ第四十九條ニアリ

同條ニ國ノ内外ノ安寧ヲ害スル罪ノ爲メ云々ノコトハ政府ノ監察ヲ受クヘシトアリ然ルニ本條ノ事柄ハ其内外ノ安寧ヲ害スル罪ニアラス

第百十三條

本條ハ議員ノ選舉ノ時ニ於テ其入札ヲ他ノモノヨリ買ヒ又ハ自分ヨリ賣リタルモノナリ

之ハ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間公權ヲ行フノ禁ヲ受ケ且ツ諸般ノ公務ヲ行フ云々ノ刑ヲ受クヘシトアリ

之ハ只其公權ヲ失フノミナラス總テノ公務ヲ行フコトヲ得サルナリ

然シ矢張輕罪ナリトス

一體前條ニ比スレハ其權ヲ禁スルコト多ク之ヲ重ク處シタルモノナリ

何故ナレハ此ノ如キ者ヲ以テ尙他ノ職務等ニ任スル時ハ必ス又賄賂ヲ受ケ不正ノ專ヲ爲スヘキモノナレハナリ

問 前條ニ於テ議員ヲ撰舉シ選舉セラル、權ヲ失ヒタル者ニ於テハ其他ノ公務ヲ行ヒ得ヘキヤ

教師答 然リ前條中ノ禁ヲ受ケタル外ハ總テノ公務ハ之ヲ爲シ得ヘキナリ

然ルニ本條ニ至テハ其總テノ公務ヲ行フコトヲ得サルナリ

尤此ノ事柄ニ付テハ佛國ニ於テモ自ラ寛裕コナシ更ニ構マハサルコトアリ  
例ヘハ何某ノ爲メニ何某ヨリ其入札ヲ爲スヘシト互ニ言合セテ之ヲナシタル等ノコトハ其儘ニ差置キ構ハサルコトアリ然シ夫カ爲メ賄賂ヲ取リテ之ヲ爲シタル時ハ罰セサル可カラサルナリ

例ヘハ時計ヲ贈リテ賄賂トナシ自分ノ爲メニ入札ヲナスヘシト云フハ則チ之ヲ賣買スルト同様ナリ故ニ本條ニアル所ノ罪トシテ其刑ニ處セサルヲ得サルナリ

問 公務ヲ行フコトヲ禁スルト云フハ諸リ官吏ニ爲ルヲ得サルコトナリ然ラハ之ハ公權剝奪ノ一部分ノコトヲ以テ本條ノ罪ニ分チ用ユルコトナリヤ又ハ全ク別種ノ權ヲ禁スルコトナリヤ

教師答 矢張第四十二條ノ部分中ノコトナリ故ニ一體ハ之ヲ本條ニ記スルニ及ハサルナリ

何故ナレハ公權ヲ行フヲ禁スルト言フハ則チ第四十二條ノ權ヲ殆ト皆禁スル譯ナリ

故ニ別ニ「公務ヲ行フコトヲ禁スル」ト言フコ及ハサルヘシト考ヘリ

本條中ニテ公權及ヒ公務ヲ行フノ權ヲ禁スルト云フハ則チ「シトワイヤン」(國民)ノ權ヲ剝奪スルコトナリ

此「シトワイヤン」ノ權ト第四十二條ノ權トヲ比較シテ詳説スヘシ



同條中

第一項ノ入札ヲ爲スノ權及ヒ議員ヲ選舉スルノ權

第二項ノ議員ニ選舉ヲ得ルノ權

之ハ「シトワイヤン」ノ權内ニ入ルヘキナリ

第三項ノ陪審又ハ他ノ公ケノ職務ノ任ヲ受ケ及ヒ之ヲ行フノ權ハ「シトワイヤン」ノ權内ニ入ルヘキナリ

「シトワイヤン」ノ權トハ即チ自國ノ人民タルノ權ヲ云ナリ

第四項ノ兵器ヲ所有スルノ權ハ「シトワイヤン」ノ權内ニ入ラサルナリ

第五項ノ親族會議ニ參スル權ハ「シウイル」〔民權〕ノ權内ニ入ルヘキナリ

第六項ノ後見人又ハ管財人ト爲ルノ權ハ「シウイル」ノ權内ニ入ラサルナリ

第七項ノ内監定人ト爲ルノ權ハ外國人ニテモ之ヲ有スヘキコト付「シトワイヤン」ノ權内ニ入ラサレバ證書類ノ證人ト爲ルコトハ「シトワイヤン」ノ權ヲ有スルモノニアラサレ

ハ之ヲ爲シ得ヘカラサルナリ

第八項ノ裁判所ニ事柄ヲ陳述スル等ノ權ハ何人コテモ爲シ得ヘキコト付「シトワイヤ

ン」ノ權内ニ入ラサルナリ

證書類ノ證人トハ公正ノ證書ノ證人ト爲ルコトナリ

例ヘハ公證人ノ面前ニテ證書ヲ記スル時ハ其公證人二人ノ立合コテ之ヲ爲スカ又ハ若

シ公證人ノ二人不立合時ハ佛國人ノ内二人ノ證人ヲ出シテ立合ハシムヘキナリ故ニ證

書類ノ證人ト云フハ即チ此二人ノ證人ト爲リ得ヘキコトナリ

然ルニ證書類ノ證人ト記シテ公正ノ證書ノ證人ト記セサルハ何トナレハ證書ヲ記スル

時此二人ノ證人ヲ要スルハ常ニ公正ノ證書ニ限ルヘキコトナリ仍テ斯ノ如ク爲シタル

モノナリ

尤私ノ證書ニテモ證人ヲ用ユルコトアレハ之ハ便利法ナリ故ニ必ス之ヲ用ユヘシト爲

サス

問 罰金ハ其賄賂ヲ受ケタル者ト授ケタル者トノ雙方ヨリ取ルヘキカ

例ヘハ一方ヨリ百圓ヲ授ケ他ノ一方コテ其百圓ヲ受ケタル時ハ其雙方ヨリ之ヲ陪シテ

則チ二百圓宛出サシムヘキコトナリヤ

教師答 然リ其賄賂ノ百圓ナル時ハ授受ノ雙方ヨリ二百圓ツ、ノ罰金ヲ取ルヘキナリ

問 然ラハ賄賂ヲ受ケタル者ハ其賄賂ノ百圓ニ自分ヨリ百圓ヲ加ヘテ出スノミニテ其實

百圓ノ損失ナレハ之ヲ授ケタルモノハ始メ賄賂ニ百圓ヲ出シ又罰金ニ二百圓ヲ出シ都

合三百圓ノ損失トナルコトナラズヤ

教師答 例ヘハ甲者ハ乙者ノ入札ヲ爲ス爲メ乙者ヨリ百圓ヲ受ケタリ其時之ヲ授受シタ

カ雙方トモ罰金ヲ出スヘキ場合ニ至レハ即チ乙者ヨリ始メ授ケタル百圓ヲ甲者ヨリ取

戻サ、テ得サルナリ

然シ之ヲ甲者ヨリ返サ、ルトモ別ニ其訴訟ヲ爲スコトヲ得サルナリ

又例ヘハ乙者ヨリ甲者ノ自分ノ爲メ入札ヲ爲シタル時ハ百圓ヲ授クヘシト云フ約束

ヲ爲シ其後甲者ニテ其入札ヲ爲サ、ルトモ始メノ約束ノ百圓ヲ取戻スコトヲ得サルナ

リ

問 其約束ヲ爲シタルノミニテモ罰金ハ出サ、ルヲ得サルヤ

教師答 本條ノ原文ニハ受取タル金高ノ二倍又ハ約束ヲ爲シタル金高ノ二倍トノ意味



ナリ

尤原文ニハ賄賂ト云フ字ハ記セス其入札ヲ賣買シタルモノトアリ

第二款ノ人民ノ自由ヲ害スル暴行以下ノ條ハ官吏ノ犯罪ヲ記シタルモノナリ

長官トハ「ホンクシヨチールビブリック」ト云フ原語ナリ此原語ハ何レノ官吏迄ナク云フ

コトナリヤ其境界ナク佛國コトモ議論アル所ナリ

佛國コトモ官吏ト云フコトニハ「ホンクシヨチールビブリック」アツヤン「フレボセ」

トノ三種アリ之ハ皆何レモ官吏ト云フコトナリ

問 然ラハ本條コト總テノ官吏ト云フコトナリヤ

教師答 然シ其總テ官吏ノ内公務上ニテ人民コト對シ直チニ關係スルモノニアラサレハ本

條ノ部類コトハ入レサルナリ

例ハハ税關ノ官吏コト開ヒテ檢査スルコト及ハサル箱ヲ殊更ニ開キタル等ノコトハ即チ

本條ノ罪コト入レテ論スヘキナリ

又郵便役所ノ官吏コト人民ノ書狀ヲ受取之ヲ配達セズシテ受取ラサル杯ト云ヒタルコ

トモ矢張人民ノ自由ノ權ヲ害スルモノナリ

又議員ヲ撰舉シ入札ヲ爲スヘキ者ハハ官吏ヨリ其者ノ宿所等ヲ記シタル允許札ヲ渡ス

ヘキ規則ナリ然ルニ之ヲ渡サハル時ハ矢張人民ノ自由ノ權ヲ害スルモノナリ

又裁判所ノ官吏コト其長官ノ命令狀ナク氣儘ニ人民ヲ取押ヘ又ハ拘留シタルコトモ本

條ノ罪ト爲スヘキナリ

然シ現行犯罪ノ時ハ素ヨリ命令狀ナクモ取押コトヘキナリ故ニ其取押ヘラレタル者ヨ

リ之ヲ訴ヘタル時ハ現行カ現行ニアラサルカノコトヲ審判シテ其同否ヲ決定セザル可

カラサルナリ

例ハハ日本コト外國人ノ遊歩ノ場所ヲ十里ノ規程ト爲セリ仍テ「ボリス」ニテ其規程ニ

背キン者ヲ捕ヘタリ然ルニ其ノ規程ハ道ノ屈曲ノ里程コト十里ト爲スリ又ハ直線ノ里

程ニテ十里ト爲スカトナレハ「ボリス」ハ屈曲ノ里程ニテ十里ト爲スト考ヘテ捕ヘタル

モノナリ

其時ハ一體ハ直線ノ里程ナリトモ全ク惡意コト捕ヘタルニアラサル故ニ本條ノ罪ニハ

入レテ論セサルナリ其規程ヲ屈曲ノ里程コト定メタル時ハ勿論假令直線ノ里程コト定

メタルモノナリトモ固ヨリ其真ノ境界ニ於テハ或ハ誤ルヘキモ計リ難シ故ニ其「ボリ

ス」ノ惡意ニアラサルコトヲ知ルヘキナリ仍テ本條ノ罪ヲ犯セタリトモ其惡意ニテ爲

シタルコトニアラサル時ハ之ヲ罰セサルナリ尤之ヲ罰セスト雖民事ノ償ヒハ出サハル

ヲ得サルナリ

此次項ハ更ニ異ナリタルコトナリ

例ハハ「ボリス」ト陸軍士官トナ比スレハ陸軍士官ハ「ボリス」ヨリ上等ノ者ナリ然シ「

ボリス」ハ固ヨリ其陸軍士官ノ命令ヲ奉スヘキモノニアラス

又警視廳ノ長官ハ裁判上ノ命令ヲ出ス可キモノニアラス

本條ニ於テハ全ク當然ノ職務上ニ付テ其長官ノ命令ヲ以テ前項ノ所行ヲ爲シタルコト

ナク云フナリ故ニ其時ハ其本人ヲ罰セス之ヲ命令シタル長官ノミコト於テ其罪ヲ受クヘ

キナリ



第百十五條

本條ハ矢張前條ト同シ事柄ヲ爲シタルモノナリ然シ前條ハ通常ノ官吏コトテ之ヲ爲シタルコトナレバ本條ハ「ミニストル」ニテ之ヲ命シ又ハ之ヲ行ヒタルコトナリ  
即チ共和十二年云々ノ決定書ニ記スル所以ノ訓戒ヲ受ケタル定期内ニ於テ其所爲ヲ改メサル時ノコトナリ

「ミニストル」ハ前條ノ者ヨリ重キ者ナリ故ニ其刑ヲモ一等重ク爲セタルモノナリ  
本條ノ事柄ハ固ヨリ共和二年ノ建國法ニ關シタルコトナレバ現今ハ已ニ此建國法ヲ廢セリ然レバ此事柄ニ附テノ罪ヲ處スルノ方法ハ以前ト同シク矢張本條ノ刑法ニ仍ルヘキヤトナレハ否ラス前條則チ通常ノ官吏ヲ處スルノ刑法ニ仍テ罰セサル可カラサルナリ

問 「ミニストル」ト云フハ各省ノ「ミニストル」チ云フヘキヤ  
教師答 然リ

本條ニ於テ注意スヘキコトアリ  
共和二年ノ建國法ニテハ執政官ニテ前條ノ事柄ヲ命シ又ハ行ヒタル時ハ其定時間中ニ其所爲ヲ改ムヘキコトヲ肯セス云々トアリ故ニ之ハ豫メ其執政官ニ訓戒シ置キタルコトヲ其儘ニ放擲シ置キタルコトナリ  
然ルニ現今ハ之ヲ訓戒スル方法ヲ廢セリ故ニ本條ニ仍リテ處スルヲ得ス故ニ前條ニ仍テ處セサルヲ得サルヘキナリ  
第百十六條ハ矢張執政官ノ過失ナリ然ルニ其事柄ハ脅迫セラレタルカ又ハ欺偽セラレタルカ或ハ自ラ知ラサル場合ニ於テ他ノ官吏ヨリ其職務上ノ書キ物ヘ自分ノ調印ヲ爲

サレメラレタルコトナリ  
固ヨリ之ハ自分ノ過失ナリ然レニ一休官吏ハ總テ其長官ノ命ニ仍ルヘキモノナリ故ニ一  
局ノ長官コトテ斯ノ如ク他ノ者ニ調印ヲ爲サレラレタル時ハ尙其上ノ長官ニ其次第柄  
ヲ言立ツヘキモノト爲ス  
例ハ若シ縣令コトテ欺偽セラレタル時ハ其次第柄内務卿ヘ言立ツヘキナリ  
即チ我ハ何某ヨリ箇様ナルコトヲ欺偽セラレ又ハ脅迫セラレテ之ニ調印シタリト言立  
ツヘキナリ

然シ各省ノ卿ハ總テ其事柄ヲ詳密ニ看スシテ調印スルコトアルヘキニ付自ラ欺偽セラ  
レ易キモノナリ  
各省ノ卿ハ日々多數ノ文書ニ調印ヲ爲ス可キコト付一々之レヲ看ルコトヲ得ス仍テ自ラ  
杜撰ニ判チ押スコトアルヘキナリ  
尤卿ニ於テ不分明ナル時ハ其事柄ヲ大丞ニ問糺スヘキナリ然ルニ其大丞ノ答ヒニ於テ  
道理ニ當ルヲ以テ之レニ調印セシトモ實ハ其答ヒト書面トニ違ヒタルコトアル等ノ時  
ハ固ヨリ其罪ヲ受ケサルナリ

第百十七條

本條ハ第百十四條ニ記シタル暴行ニ付其損害ノ償ヒヲ求ムルコトナリ  
之ハ刑事裁判所ト民事裁判所ノ兩様ノ内ヘ訴出ツヘキモノナリ兩様ノ内コトテ之ヲ言渡  
スニハ其時ノ景況ト其身分ニ應シ名譽ニ關スルノ多少ニ寄リ各其相當ノ割合ヲ以テ損  
害ノ償ヲ求ムヘキナリ

一休人民ハ一般ニ同様ナルヘキ筈ナレバ例ヘハ人力車挽ト豪商トニ於テハ其身分ノ差



別アル丈ケハ名譽ニ關スルコトモ多少ノ違ヒアルヘキ譯ナリ

本條ニ「枉ニ云々」トアリ則チ自分ノ氣儘ニ爲シタルコトナリ

例ヘハ拘留ス可カラサル者ヲ拘留シタル等ノコトナリ

商賈ノ大小ニ依リ一日ニ十圓ノ利ヲ得ルモノ又ハ其以上ノ利ヲ得ル者アルヘキナレハ

何レモ夫カ爲メ日々ノ損害ヲ受ケタル丈ケハ固ヨリ償ハサル可カラサルナリ然レ「身

分ヲ問ハス」云々トアリ之レハ其利ヲ得ルノ如ク何程少キ者ニテモ二十五「フランク」

以下ニ減ス可カラスト云フコトナリ

故ニ其以上ハ幾多ノ償額ヲ出サ、ルヲ得サルヤモ知ル可カラサルナリ

第百十四條ニ於テハ各人ノ自由ニ對シ又ハ一人及數人ノ公權云々ノ所爲ト四ツノ事柄

ヲ記セリ

第百十七條ニ於テハ第百十四條ノ暴行云々ト約シテ之ヲ記セリ

故ニ此場合ニ於テハ不正ニ人ヲ禁錮シタル等ノコトニテモ固ヨリ本條ノ刑ニ處スヘキ

ナリ

然ルニ第百四十一條ニ於テ不正ニ人ヲ禁錮シタル罪ヲ記セリ

之ハ有期ノ徒刑ト爲スナリ尤通常ノ者ニテ之ヲ爲シタル時ナリ

然レ何故同條ニ於テ通常ノ者ハ重ク爲シ本條ニ於テ官吏ハ輕ク爲タルヤトナレハ官吏

ハ固ヨリ人民ヲ禁錮スヘキ權ヲ有スルモノナレハ假令氣儘ニ之レヲ爲サ、ルトモ時ニ

寄リ其氣儘ニ爲シタルト、陷ルルモアルヘキナリ

然レ人民ハ官吏ト違ヒ之ヲ禁錮スルノ權ヲ有セサル者ナリ

故ニ其權ナキ者ニテ之ヲ爲シタル罪ト又其不正ニ之ヲ爲シタル罪トヲ併セテ罰スルノ

理ナリ

仍テ第百四十一條ニ於テハ其罪ヲ重ク爲シタルモノナリ

之レハ全ク自分ノ家屋中ヘ妄リニ人ヲ禁錮セシ等ノコトナリトス

第百十八條

本條ハ例ヘハ地方ノ長官等ニテ執政官ノ印ヲ偽署シタルコトナリ

即チ官吏ニテ姦ヲ計リ公ケノ文書ヲ偽造シ其長官ノ印ヲ偽署シタルトナリ

例ヘハ縣令ニテ内務卿ノ文書ヲ偽造シテ不正ヲ爲シタルトナリ

然ルニ一体官吏ノ職務上ニテ公ケノ文書ヲ偽造シタル時ハ無期徒刑ト爲スナリ

即チ第百四十五條ニアリ

然ラハ本條ノ刑ハ其權衡ヲ得サルナリ

尤本條ニハ之ヲ偽署シタル者ノ身分ニ就テ區別ナシ然レ此之ハ二十年ノ徒刑ニ處スト

アリ故ニ之ヲ以テ官吏ニテ爲シタルト見做ス時ハ第百四十五條ノ無期ノ徒刑ト爲スノ

法ニ於テ其權衡ヲ得ス又通常ノ者ニテ之ヲ爲シタルコト、見做ス時ハ第百四十七條ノ

主意ニ矛盾セリ

然ラハ本條ハ全ク不用ニ屬スルモノナリ

第百四十五條ト第百四十七條トヲ參照スヘシ

第百四十五條ハ官吏ノコトヲ記シ第百四十七條ハ通常ノ者ノコトヲ記セリ

故ニ法律ハ成ルヘキ丈ク同シ事柄ヲ重複ニテ記セサル様ニ爲スヘキナリ

斯ノ如ク後條ニ明文アル上ハ固ヨリ本條ニ記スルニ及ハサルコトナリ



第一百十九條

本條ハ行政又ハ司法警察ノ任ヲ受ケタル官吏コト自ラ枉ニ禁錮ヲ爲シタルモノコアラ

ス 其法律ニ背キ枉ニ禁錮シタルコト他ノ背ヨリ届出テタル時ノコトナリ 例ヘハ其事柄ヲ警視官ヘ届出テ警視官ハ又之ヲ内務卿ヘ届出スヘキコトナリ 然ルチ其儘ニ爲シ置キ之ヲ届出サルコトナリ

當然ノ手續コ於テモ固ヨリ其枉ニ禁錮セラレタル事柄ニ付訴出テタル者アルトハ之ヲ 夫々處置スルカ又ハ其長官ヘ届出スヘキナリ然ルニ之ヲ届出サス其儘可否ノ取調ヲモ 爲サ、ルコトナリ

故ニ此ノ如キ訴ヲ受ケタルトモ其儘長官ヘ届出スコトヲモ爲サ、ルトハ矢張其不正ノ禁錮 ヲナシタル者ノ「コンプリス」〔附從〕ト見做サ、ルヲ得サルナリ

之ハ固ヨリ直ニ不正ノ禁錮ヲナシタルコトアラサレバ暗ニ之レヲナシタルト見做スヘキ モノトス

通常ノ「コンプリス」〔附從〕ハ總テ其犯罪ノ主從トモ同刑トナス故ニ例ハ偽署ヲナシタ ル「コンプリス」ニテモ主從トモ均シク其刑ヲ受クヘキナリ

畢竟主犯ニ同意シタル者ハ總テ同刑ニ爲スヘキ原則ナレハナリ 然ルニ第十七條ニ於テハ第十四條ニ記シタル暴行即チ偽署ヲ爲シタル等ハ何レモ 主從トモ同刑トナスヘキナレバ枉ニ禁錮シタルコトハ其主從同刑ノ原則ニ拘ハラズ本 條ニ記シタル刑トナスナリ

問 其不正ニ禁錮シタル儘ニ差置クハ固ヨリ其自ラ犯シタル罪トナスヘキナレバ之ヲ

長官ニ届ケタル上ハ其者ノ罪ハ已ニ消スヘキナラン

教師答 其罪ハ固ヨリ消スヘキナリ然レシテ届出シタル長官コト其儘取調サルトハ其

長官モ矢張第十七條ノ枉ニ禁錮ヲ爲シタル罪ノ附從ト見做シ全ク本條ノ刑ト爲スナ レバ第十七條中コト第十條ノ暴行ト云フ所ノ内ニテ枉ニ禁錮シタル罪ノ外ノ罪ヲ 犯シタルトモ何レモ其當然ノ刑ニ處スヘキナリ

故ニ本條ノ之ヲ届出サ、ル云々ノ刑ハ其主從同刑ノ原則ニ拘ラス全ク別ニ立テタルモ ノナリ

故ニ之ハ固ヨリ法律上ニ記シテ定メ置クヘキコトナリ 尤之ハ長官ノ罪チ一層重クナスヘキコトナリ

第百十四條ニ於テ公權剝奪ノ刑ニ處スルトアリ此直チニ不正ノ禁錮ヲナシタル者チ公 權剝奪ノ刑トナス上ハ本條ニ於テ之ヲ長官ヘ届出サル罪チ均トシク公權剝奪ノ刑ト處

スルハ却テ重キニ失シ酷ナリト考ヘリ 故ニ第百十九條ノ罪チ減シテ第百十四條ニ記載シタル長官ノ罪ニ加ヘ重クナスヘシト 考ヘリ

此等ノコトハ法律上ニ於テ熟考スヘキコトナリ 又其告訴ヲ受ケタル者コトモ「ポリス」ニテハ之ニ關セズト云ヒ其儘ニナスヘキコトア

レハ檢事コ於テハ之ニ關セズト云ヒ其儘ニ爲シ置ク可カラサルナリ故ニ其官吏コ仍テ 違ヒアルヘキナリ

又其不正ノ禁錮ヲ直チニ爲シタルモノト其告訴ヲ受ケタル者トハ違ヒアルヘキコトナリ 然ルニ之ヲ同刑トナスハ其權衡ヲ得サルナリ



第二百十條

本條ハ獄舎ノ監守人ニテ妄リコ囚獄人ヲ受取り獄舎ヘ入レタルコトナリ  
 之ハ固ヨリ裁判言渡書カ又ハ其假リノ命令書アルヘキ筈ナリ  
 尤假リノ命令書トハ國ノ安寧ニ關スル罪等ノ疑ヒアル者ヲ取敢ヘス獄舎ニ入レ置カ  
 トスル時ニ用ユルモノナリ  
 一 休其監守人ニテ囚獄人ヲ受取ル時ハ其裁判言渡書カ又ハ假リノ命令書ヲ警察官吏ニ  
 檢視セシムヘキナリ又其囚獄人ノ出入ヲ記シタル簿冊ヲ以テ之ヲ檢視セシムヘキナリ  
 然ルニ之ヲ檢視セシメサル時ハ則チ不正ノ禁錮ヲナシタル者ト爲スナリ  
 之ハ固ヨリ自ラ直チニ爲シタルコトハアラサレモ矢張直チニ爲シタル者ト同様ニ見做ス  
 ヘキナリ

本條ノ罪ハ他ノ者ノ罪ニ比スレハ輕ク輕罪ト爲セリ  
 之ハ甲意囚獄ノ監守人ナル故ナリ囚獄ノ監守人ノ常ニ酷ナルモノナリ  
 平生獄舎ノ取扱方及ヒ命令狀ノ有無ヲ以テ檢事ヘ届出ス等總テノ手續ヲ嚴酷ニ爲スノ  
 習慣ナリ  
 故ニ本條ノ罪ヲ輕ク爲シ置キタルモノナリ

問 本條ノ罪ハ固ヨリ其手數チ欠キガレマテノ者ナルヘシ一體此囚獄人ハ固ヨリ禁錮ニ

ナキヘキモノナラン  
 教師答 其無罪ガ有罪カノコトハ未ダ知ラレル場合ノコトナリ  
 例ハ途中ニテ巡查ノ人ヲ捕ヘタルコトアリ一體之レハ「コンミツセルデボリス」ニ連レ  
 行クヘキモノナレモ直チニ獄舎ヘ連レ來リタル時ノコトナリ

其時監守人ニテ其命令狀チキコト知リテ受取之ヲ獄舎ヘ入レタルモノナリ

問 有罪ノ者チケ様ニナシタル時ニテモ矢張本條ノ規則ニテ罰スヘシト爲スカ

教師答 然リ假令後日有罪ト決シタル者ニテモ此規則ハ欠ク可カラサルナリ然シ爰ニ  
 論アリ

其禁錮狀ノ偽造ヲ以テ連レ來リ之ヲ其監守人ニテ知ラスシテ入レタルコトハ本條ニ記  
 セサルナリ若シ偽造ノ命令狀ヲ以テ眞ノ命令狀ナリト信シテ之ヲ入レタル時ハ如何ト  
 爲スカ之ハ一概ニ此規則ヲ以テ論スルチ得サルナリ

即チ前條ノ内ニ「ミユストル」ノ調印コトモ他人ノ詭偽ニ出ルト申述ル時ハ云々トアリ  
 故ニ本條ノ罪ニ於テモ固ヨリ之ト同様ニ論スヘキナリ

第二百十一條

佛國コテ以前ハ一省ニ屬シタル官吏ノ訴ヲ爲スルハ其省ノ許可ヲ受ケサレハ之レヲ爲  
 スヘカラサルナリ

例ヘハ議院ノ官員ハ其議院各省ノ卿ハ政府、上院國議院ノ官員ハ其上院國議院ノ許可  
 チ受ケサレハ其官員ノコトニ付訴ヲ爲ス可カラサルナリ

故ニ其許可ヲ受ケスシテ其訴ヲ爲シタル者ハ即チ院省等チ汚カシタル罪ト爲リ其刑チ  
 受ケサルチ得サルナリ

一 休上院下院又ハ國議院各省ノ卿其外ノ官員トモ其奉職中ハ大切ナル者ニ付其身体チ  
 政府ヨリ保護スヘキモノト爲ス故ニ其官員ニテ若シ罪ヲ犯シタルコトアリト爲スルハ  
 必ラス其院省等ノ許可ヲ受ケレハ之ヲ取押ニ可カラサルモノナリ  
 其院省等ヘ對シ之ヲ汚シタルノ罪トナルルハ即チ公權剝奪ノ刑ニ處セラルハナリ



之ハ第百十四條ニ於テ平民ノ自由ヲ害シ不正ノ禁錮ヲナシタル罪ヲ以テ公權剝奪ノ刑ト爲スト同刑ニ處スルハ少シク輕キコ失スルト考ヘリ  
 問 然シ自ラ違ヒアルヘシ何トナレハ第百四條ノ平民ハ無罪ナルノ時ナリ本條ノコトハ有罪ノ時ナルトノ違ヒアルヘキカ  
 教師答 其罪ノ有無ハ豫メ知ル可カラサルモノナリ假令後日ニ至リ其官員ノ罪ニ有無ノ相違アルトモ之ニ拘ハラズ其法式ニ背キタル者ハ本條ノ罪ト爲スヘキナリ  
 本條ノ内ニ於テ「又現行ノ罪犯或ハ衆人呼噪ノ場合ノ外」云々トアリ之ハ末文ニ入レ替ヘ「現行ノ罪犯ノ時ハ此限コアラズ」ト記スヘキナリ  
 又此次文ノ宰相或ヒハ上下議院ノ官員云々ノコトヲ上文ニ置クヘキナリ  
 之レハ末文ニ置クヘキコトコアラズ

第百二十二條

本條ハ裁判官檢事等ニ於テ常ニ定マリタル場所ノ外ニ於テ人民ヲ禁錮シタル時ナリ之ハ公權剝奪ノ刑ト爲スナリ又此時ニ重罪取調局ニ於テ其重罪ナルノ言渡ヲ爲サス直チニ重罪裁判所ヘ人民ヲ引出シタル時ハ同様ノ刑ト爲スナリ  
 裁判官檢事コテモ人民ヲ禁錮スヘキ所ニアラズシテ忘リニ之ヲ禁錮スルハ即チ人民ノ自由ヲ害スルコトナリ  
 重罪裁判所ヘ引出スハ畢竟人民一般ノ面目ニ關スヘキコトナリ  
 故ニ固ヨリ容易ニ引出スヘキモノニアラズ然ルニ當然ノ規則ヲ履マス此ノ如ク容易ニ引出スハ即チ人民ノ自由ヲ害スルモノト爲ス故ナリ

後第十二號 [明治九年三月十五日]

第百二十三條

本條ハ官吏ニテ法律ニ背キタル事柄ヲ謀リ之カ爲メ集會シタル等ノ犯罪ナリ然シ其事柄ハ何事ナリヤ實ニ曖昧トシタルモノナリ  
 然シ此犯罪ハ即チ輕罪ト爲シ二月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラス禁錮ノ刑ニ處スルナリ之ハ何事ノ犯罪ナリトナレハ先ツ第百二十五條トニ仍テ了知スヘキナリ  
 其相談ヲ爲シテ集會シタルコトニ付テハ次第ニ寄リ流刑、追放ノ刑、死刑ト爲スノ區別アリ

尤其相談ノ細目ハ即チ第百二十四條以下三條ニ於テ之ヲ記セリ

然シ第百二十三條ノ事柄ハ全ク其以下三條ノ事柄ト異ナルモノト見ユルナリ

爰ニテハ先ツ第百二十四五六條ヲ説カントス第百二十三條ノ事柄ハ第百二十六條ニハ全ク入ラサルモノナリ

第百二十四條ハ官吏數人集會シテ法律ノ施行ヲ妨ケ又ハ政府ノ命令ニ抗スルコトノ相談ヲ爲シタルモノナリ

之ハ追放ノ刑ニ處スルナリ

例ヘハ縣令コテ新タニ人ヲ撰舉スル時ハ先ツ其撰與ノ目錄ヲ作ルヘキナリ然ルニ官吏ニテ之ヲ其相當ノ期限内ニ作ラサルハ即チ其命令ヲ妨ケタルモノナリ

又一ケ年ノ陪審ヲ撰舉スル時ニ於テモ其撰舉ノ目錄ヲ作ルヘキナリ然ルニ之ヲ作ラズシテ其妨ケト爲スヘキ様ニ爲シタルモノナリ

又新タニ兵ヲ徵募スル時ニ於テモ其人名ノ目錄ヲ作ルヘキナリ例ヘハ二十歳ノ者ヲ兵



隊ニ徵募スベシト爲ス時ハ何年何月迄ニ其二十歳ノ者何人ヲ捕ヘ置クヘキ等ノ目錄ヲ作リ之ヲ縣令ヘ出スヘキナリ  
 尤之ヲ縣令ヘ出スヘキ時ハ「メー」ヘモ打合セテ作ルヘキモノナリ然ルニ其之レヲ出スヘキ期限迄ニ作ラズシテ其徵兵ノ命令ヲ妨ケタルモノナリ  
 又ハ新タニ租稅ヲ課スル場合ニ於テ一縣内ニテハ縣令ヨリ之ヲ定メテ命令スヘキナリ然ルニ其縣令ノ定メタル命令ヲ妨ケタルコトハ本條ニ入ルヘキナリ  
 又學校ノ教師ノ集會シテ十一月三日「佛國法律學校夏休暇後開校スルハ毎年十一月三日ナリ」ニ開校スヘキ場合ニ至リ其開校ヲ爲ス能ハサル様ニ爲シタルコトモ本條ニ入ルヘキナリ

此等ノ事柄ニ付テハ追放ノ刑ニ處スヘキナリ  
 其事柄ヲ文官ノミニテ相談シタル時ハ追放ノ刑ニ處スルナリ然シ若シ文官ト武官ト共ニ相談シタル時ハ無期ノ流刑ト爲スナリ何トナレハ武官ト共ニ之ヲ爲ス時ハ兵力ヲ以テ壓制スル故其公益ヲ害スルコト多クハナリ  
 若シ其事柄ノ内ニ國ノ内部ノ安寧ヲ害スルコト又ハ其陰謀ヲ爲シタル時ハ之ヲ死刑ト爲スナリ

第二百二十三條ニ於テ官吏ノ殊更ニ退職シテ司法ノ事務又ハ裁判ノ執行ヲ妨ケントノ目的ナル時ハ公權剝奪ノ刑ニ處スヘキナリ  
 例ハ當年陪審トナルヘキ目錄ヲ作ラサル時ハ即チ司法ノ事務ヲ妨ケタルモノナリ故ニ本條ニ入ルヘキナリ

第二百二十五條ノ事柄ハ固ヨリ疑ヲ入レヌ判然セリ

問 第二百二十五條モ一體ノ事柄ニ於テハ判然セヌ然シ之モ内亂ヲ起セントノ爲メナカル又ハ政府ヲ覆サントノ爲メナルヘキカ  
 教師答 第二百二十五條ハ固ヨリ官吏ニ於テ其相談ヲ爲シタルコトニ付重ク定メタルモノナリ其事柄ヲ已テニ行ヒタルト未ダ行ナハサルトニ拘ハラヌ死刑ト爲スハ則チ之ヲ重ク罰スル譯ナリ

然シ通常ノ者ノ之ヲ爲シタル時ハ第八十九條ノ主意ニ仍テ罰スヘキナリ  
 問 總テ相談ノミニテ未タ其事柄ヲ實地ニ行ハサルコトナリヤ  
 教師答 然リ只其相談ノミノコトナリ  
 前條ニ於テハ其陰謀ヲ已ニ爲シタルコトナリ

問 第二百二十四條ニ於テ妨ケタルコトモ矢張其相談ヲ爲シタルノミナリヤ  
 教師答 然リ之モヤハリ相談ノミナリトス  
 第二百二十六條ノ主意ハ別ニ疑ヲ入レサルコトナリ  
 第二百二十五條ノ國ノ安寧ヲ害セントシテ爲シタルコトモ固ヨリ其職務ヲ妨ケタルモノナリトス

第二百二十三條ハ司法上ノ事務ヲ妨ケ法律ニ背キタルコトナリ  
 然ラハ第二百三十四條ハ職務ヲ妨ケタルコト、爲スヘキカ又ハ妨ケタルコト、爲サ、ルカ

前ニ説キタル縣令ノ租稅ヲ課シタル時ニ於テ目錄ヲ作ラズシテ其命令ヲ行ハサル様ニ爲シ又ハ徵兵ノ時ニ於テ矢張之ヲ作ラサルコトモ之ヲ推シ究ムレハ則チ其職務ヲ妨ケタルモノニアラスヤ故ニ此等ノ事柄ヲ以テ其職務ヲ妨ケタリト爲ス時ハ例ヘハ人民ノ



集會スルコトヲ禁スルノ命令ヲ出シタリトモ官憲ニテ其禁令ヲ妨ケテ其儘集會セシメ  
 タリ之ハ則チ政府ノ命令ニ背キタルモノナレハ職務ヲ妨ケタリト爲サ、ルヲ得サルニ  
 アラスヤ  
 然レ職務ヲ妨ケタルコト、政府ノ命令ヲ妨ケタルコト、ハ違ヒアリ  
 之ヲ要スルニ其禁シタルコトヲ用ヒス其儘ニ爲シタルコトハ其職務ヲ妨ケタルコト、  
 ハ自ラ違ヒアリト爲スヘキナリ  
 故ニ第百二十三條ハ其禁シタルコトヲ用ヒス其儘爲シタルコトナリ仍テ其職務ヲ妨  
 ケタルモノニアラス

又政府ヨリ出版條例ヲ出セリ例ヘハ以來新聞紙ノ出版ハ保證金ヲ出スヘシトノ命令ヲ  
 爲セリ或縣下ノ人民ニ於テハ其保證金ヲ出スコトヲ欲セス故ニ其官吏ニテ之ヲ出サ、  
 ル様ニ爲シタリ

之ハ其命令ヲ背キタルコトナリ仍テ失張職務ヲ妨ケタルモノニアラス  
 第百二十三條ノ法律ニ背キタリト云フハ如何ナルコトナリヤトナレハ例ハ拷問ヲ用  
 コルコトヲ政府ヨリ禁シタリ然ルニ官吏ニテ之ヲ其以前ノ儘ニ用ヒタル時ハ則チ第百  
 二十三條中ニ入ル可キナリ

故ニ此等ノコトハ其職務ノ妨ケヲ爲シタルモノニアラス  
 然ルニ拷問ハ用ユヘシトノ命令ヲ爲シタリ其キニ之ヲ用ヒサル時ハ如何ト爲スヘキヤ  
 トナレハ其職務ヲ妨ケタル部類ニ入レルヘキニ似タリ且其職務中ノコトナレハ之モ職  
 務ヲ妨ケタルコト、一様ニ見做サス矢張第百二十三條中ニ入レルヘキナリ  
 例ハ法律ノ譴義アリ之ヲ爲ス可カラスト政府ヨリ命令アルコト尙引續キ爲シタル時ハ第

百二十四條ニ入レルヘキカ又ハ第百二十六條ニ入ルヘキカトナレハ總テ禁シテ爲ス可  
 カラスト命令シタルコトヲ爲シタル時ハ則チ法律ニ背キタルモノニテ第百二十四條ニ  
 入ルヘク又爲スヘシト命令シタルコトヲ爲サ、ル様ニ爲シタル時ハ則チ職務ヲ妨ケタ  
 ルモノニテ第百二十六條ニ入レルヘシ

然シ其爲スヘキ事柄ヲ妨ケテ爲サレメサル様ニ謀リタルヨリシテ國ノ内部ノ安寧ヲ害  
 スル時ハ死刑ニ處シ又爲ス可カラサル事柄ヲ爲サレメタル時ハ追放ノ刑ニ處スルナリ  
 常務トシテ爲スヘキコトヲ妨ケテ爲サレメサル時ハ其爲サレメサル時間長シ故ニ公益  
 ヲ害スルコト多シトス

且第百二十四條ハ一時ノ事柄ニ付テ妨ケテ爲シタルコトナリ  
 第百二十五條ト同六條トニ於テハ常務ノ妨ケテ爲シタルコトナリ  
 第百二十六條ニアル職務ヲ妨ケタルコト云フハ常務ノコトナリ云フ

問 一体政府ノ命令ニ背キタルト一局ノ職務上ヲ妨ケタルトハ政府ノ命令ニ背キタル方  
 ヲ重シト爲スヘキ理ニアラスヤ

教師答 其注意ハ同シトナリ

例ヘハ「ボリス」ハ司法警察ノ官吏ナレハ外國人ハ容易ニ捕フルコトヲ得ス故ニ現行ノ  
 犯罪ナレハ直チニ捕フヘシト雖モ現行ノ犯罪ニアラサル時ハ之ヲ其外國ノ「コンニ  
 ル」ヘ届ケタル上捕フヘシト兼テ政府ノ命令アリタリ然ルニ「ボリス」コト其命令ニ背  
 キタル時ハ則チ第百二十六條ノ職務ヲ妨ケタルコト、爲スカ又ハ第百二十四條ノ法律  
 ノ施行ヲ妨ケタリト爲スカ之ハ決シテ職務ヲ妨ケタルモノニアラス  
 前説ハ總テ第百二十三條ト第百二十六條トニ於テ各其異ナル所アルコトヲ説キタルモ



ノナリ  
 然ルニ第百二十六條ノ内ニ於テハ何事ヲ以テ第百二十三條ニ引當ツヘキヤ分明ナラス  
 甚タ困却スル所ナリ  
 政府ノ命令又ハ法律ニ背キタルコトハ第百二十四條ニ出セリ  
 又制禁シタルコトヲ爲シタル罪ハ第百二十四條ト第百二十六條トニ入ルヘキナリ  
 然レ政府ヨリ命令シテ爲スヘシト定メタルコトヲ官吏ニテ相談シテ之ヲ爲サ、ル様ニ  
 妨ケタルコトハ即チ第百二十三條ニ入ルヘキナリ  
 一體人民ノ私權ヲ行フハ法律上ニ於テ許シタルコトナリ  
 然ルニ其私權ヲ行フコトヲ官吏ニテ相談シテ行ハシメサル様ニ爲シタルコトハ即チ  
 第百二十三條ニ入ルヘキナリ  
 故ニ之ヲ約言スレハ第百二十三條ハ總テ法律ニテ許シタルコトヲ官吏ヨリ爲サ、ル様  
 ニ其妨ケヲ爲シタルコトナリ  
 又第百二十四條ト第百二十六條ハ總テ命令シタルコトヲ爲サシメサル様ニ爲シタルコ  
 トナリ尤職務ニ付命令シタルコトヲ妨ケタル罪ハ第百二十六條ニ入ルヘシ  
 然レ此ニケ餘ノ内ニ於テ改メサル可カラハル事アリ  
 則チ第百二十四條ノ追放ノ刑ヲ第百二十六條ノ公權剝奪ト入替其輕重ヲ分ツヘキナリ  
 ト考ヘリ  
 此一款中第百二十五條ハ解シ得ヘキナレトモ第百二十三條ハ甚ダ解シ難キコトナ  
 リ  
 其内殊ニ第百二十三條ハ解シ難キト考ヘリ

第百二十七條

一體第百二十五條ノ罪ハ其刑ヲ重キニ失セリ  
 本條ハ行政官吏ト司法官吏トニ於テ其權限ヲ犯シタル罪ヲ記シタルモノナリ  
 第一項ニ裁判官檢察長云々立法ノ權ヲ行フニ干涉シタル時トアリ  
 本項ハ則チ本項中ニ記シタル官吏ニ於テ立法權ヲ行フニ干涉シタルコトヲ云フナリ  
 第二項ハ行政上ノコトニ干涉シタルコトナリ  
 第一項ハ立法權ニ干涉シタルコトナリ  
 第二項ハ行政上ノ權ニ干涉シタルコトナリ  
 之ハ其罪ヲ同刑ニ罰スルナレハ一體ハ不適當ナリトス  
 立法權ニ干涉シタルコトハ行政權ニ干涉シタル罪ヨリ重ク爲スヘキナリ  
 問 第一項ハ立法權ヲ犯シ第二項ハ行政權ヲ犯シタルコトナリトノ説キ明シナリ然レ表  
 題ニハ行政權及ヒ司法權ヲ犯シタル罪トアルハ如何  
 教師答 一體行政權ノ者ハ司法權ヲ侵シ司法權ノ者ハ行政權ト立法權トヲ犯シ易キ者ト  
 爲ス  
 此表題ノ譯文ニ少シ相違アリ之ヲ直譯スレハ  
 行政權及ヒ司法權ノ者ニテ行政權司法權立法權ヲ侵シタル罪ト爲スヘキナリ  
 問 然ラハ立法權ノ者ニテ司法權又行政權ヲ侵シタルコトハ此所ニ入ラサルコトナリヤ  
 教師答 立法權ノ者ハ司法權、行政權、等何事ニテモ爲ス可カラサルコトナシ  
 立法權ハ何人ニテ之ヲ有スルトナレハ全國ニ於テ皇帝ヨリ外之ヲ有スルモノナシ  
 皇帝ハ則チ立法司法行政ノ權ヲ有スルモノトス



仍テ立法權ノ者ハ其他ノ權ヲ侵スコトナキ譯ナリ  
例ヘハ議院又ハ上院コトモ行政上ノ事務又ハ裁判上ノ事務ニ干涉スヘシト雖モ直ニ干  
渉シテ其實地ノ事柄ヲ處分スルヲ得ス  
若シ議院又ハ上院コトモ直ニ干渉シテ爲シタルハ皇帝ニテ其裁判ヲ爲シテ破棄スヘ  
キナリ  
其キハ之ヲ裁判所ヨリ呼出シテ罰スルコト能ハサルナリ  
本條ノ詳説ハ次會ニ讓ルヘシ

後第十三號 (明治九年三月二十日)

第二百二十七條

第一項ハ司法權ノ者又ハ行政權ノ者ニ於テ立法權ニ干渉シタルコトヲ云フ之ハ公權剝  
奪ノ刑ニ處スルナリ  
第二項ハ司法權ノ者ニテ行政官ノ命令シタルコトヲ禁シ其行政權ニ干渉シテ自己ノ權  
限ニ過キタル所行ヲ爲シタル時等ヲ云フ之モ公權剝奪ノ刑ニ處スルナリ  
第二項ノ行政權ニ干渉シタルコトハ第一項ノ立法權ニ干渉シタルコトヨリ其罪ヲ輕ク  
爲シテ可ナルヘキモノナリ然ルニ之ヲ同刑ニ處スルハ不適當ナリト考ヘリ  
第一項ノ立法權ニ干渉シタルハ即チ國ノ主權ヲ侵シタルモノナリ  
第二項ノ行政權ニ干渉シタルハ官吏ノ内ニテ互ニ其權限ヲ侵シタルモノナリ  
故ニ主權ヲ侵シタル罪ヨリ輕ク爲サ、ル可カラサルナリ  
第二項ノ裁判官檢察長云々「行政ノ事務ニ關スル規則ヲ立テ又云々」以下ハ總テ其權限

ヲ侵シタルコトノ細目ヲ記シタルモノナリ  
行政權ノ官吏ハ司法裁判所ヘ呼出シテ裁判スルヲ得ス又司法權ノ官吏ハ行政官廳ヘ呼  
出シテ裁判スルヲ得ルナリ  
故ニ若シ其裁判ヲナシタル時ニ於テ其權限ヲ侵シタルコトノ告知ヲ受ケタリトモ之ヲ  
用ヒテ中止セス其後尙引續キテ裁判ヲナシタル時ハ即チ公權剝奪ノ刑ニ處スルナリ  
問 行政上ノ官吏ハ司法裁判所ヘ呼出スヲ得サルコト云フハ一體ノ原則ナリヤ  
教師答 然リ行政官吏ノ職務上ノ事柄ニ付テハ司法裁判所ヘ呼出シテ裁判スルヲ得サル  
原則ナリ仍テ第二項ハ行政權ノ官吏ト司法權ノ官吏ト其權限ノ爭ヲ生シタルコトヲ記  
シタルモノナリ  
故ニ第一項ノ立法權タル主權ヲ侵シタル罪ト第二項官吏同志權限ノ爭ヲ生シタル罪ト  
同刑ニ爲スハ不適當ナリ  
故ニ第一項ヲ尙一層重キ刑ト爲スカ又ハ第二項ヲ少シク輕キ刑ト爲スヘキ方適當ナリ  
ト考ヘリ  
問 行政權ノ官吏ニテ裁判權ヲ侵シタル時ハ如何  
教師答 之ハ第三百十條ニ明文アリ同條ニ至テ詳説スヘシ  
第二百二十七條ノ第二項コハ第二百二十八條ヲ連合シテ説カサルヲ得ス  
第二百二十七條ノ第二項ハ行政權ノ事ニ就テ司法權ノ官吏ヨリ裁判スルヲ得タル原則ニ  
背キ之ヲ爲シ其言渡シテ取消スヘキ命ヲ受ケタリトモ其後尙中止セス引續キテ執行タ  
ルコトナレバ第二百二十八條ハ其言渡シ爲シタルノヨリコトヲ中止シタルコトナリ  
仍テ其罪ヲ輕クシ十六「フランク」ヨリ少カラス百五十「フランク」ヨリ多カラサル罰金



ト爲スナリ

之ハ故意ニテ爲シタルニハアテサルヘシ  
最初故意ニテ爲シタルコトニアラサルトモ其告知ヲ受ケタル上ハ中止セサルヲ得ザル  
ナリ然ルニ尙之ヲ中止セサル者ナリ仍テ其罪アルモノト爲スナリ

然シ其權限ニ過キタルコトニ心付カスシテ爲シ遂ケタル時ハ固ヨリ其罪ト爲サ、ルナ  
リ例ヘハ行政上ノ事ニテ縣令ノ裁判スヘキコトヲ司法裁判所ニテ裁判シタリ仍テ縣令  
アリ之ハ行政上ニ管スルニ付其裁判ヲ中止スヘシト檢事ヘ掛合ヒ檢事ヨリ裁判官ヘ之  
ヲ求メリ然ルニ裁判官ニテハ全ク行政上ニ管セサルモノト見込其裁判ヲナシ遂ケタリ  
然ル上ハ其縣令ヨリ某地ノ司法裁判所ノ裁判ハ權限ニ背キタルニ付之ヲ執行スル可カ  
ラスト云フ布達ヲナスヘキナリ

其縣令ノ告知ノ時ニ於テ中止セザルハ則チ權限ノ争ヲ生スル所以ナリ  
故ニ其權限ニ背キタルコトヲ中止セザルノ罪アリト爲スナリ之レハ第百二十七條第二  
項ノコトナリ

問 縣令ニテ某地司法裁判所ノ裁判ハ權限ニ背キタルニ付執行スル可カラスト云フハ人  
民ヘ布達ヲナスカ又ハ裁判所ヘ掛合迄ノコトナリヤ

教師答 之ハ掛合ニアラス原語ニテ「アレゾト」ト云フ即チ布達スルコトナリ

問 縣令ヨリ檢事ヘ掛合之ヲ中止スルハ其裁判ハ其儘直チニ取消シトナス譯ケナリヤ

教師答 縣令ヨリ檢事ノ手ヲ經テ其裁判スヘキコトニラサル旨ヲ告知スルトモ尙之ヲ  
固執シテ中止セザルハ縣令ニ於テ其權限ニ背キタル裁判ナリト決定シ其決定書ヲ司  
法裁判所ヘ送達スルナリ然ルハ其裁判ノ言渡ヲ執行スルヲ得サルナリトス

其裁判ヲ中止セシメタリトモ縣令ニテ之ヲ裁判スルヲ得ス此權限争ヒノ裁判ハ國議院  
ニテナスヘキコトナリ  
問 此譯文中ニ言渡ヲ取消トアルハ其執行ヲ中止スルコトナリヤ又ハ全ク其裁判ヲ取消  
スコトナリヤ

教師答 其裁判言渡ノ以前ニ於テ縣令ノ掛合アリト時ハ速ニ其裁判ヲ中止シ「コンセ  
デク」(國議院)ニ於テ其權限争ヒノ裁判ヲ受クヘキナリ

然シ裁判言渡以後ニ至テハ縣令ヨリ決定書ヲ送達シテ之ヲ以テ中止セシメ置矢張「コ  
ンセ」デク」ニテ權限争ノ是非ヲ審判シ其裁決書ニ依リテ最初ノ裁判ヲ全ク取消ス  
ヘキナリ

其國議院ノ裁決書ハ以前ハ皇帝ノ名ヲ以テ記シタリ現今ハ共和政事ノ國議院ノ名ヲ以  
テ記スヘキナリ

例ヘハ工部省ニテ省中ノ工事ヲナスカ又ハ鐵道傳信ヲ作ルヘキコトニ付工部省ト受負  
人ト約定ヲ爲セリ然ルニ其約定ニ背キ不十分ナル工事ヲ爲セシニ付工部省ト受負人ト  
ノ争ヒヲ生シタリ

但シ内務省海軍省或ヒハ司法省等ニテ此ノ如キ異論ヲ生シタリトモ同様ナリトス  
此不十分ナル工事ヲナシタル争ハ即チ行政上ノ事柄ニ付其約定シタル工部省ニ於テ其  
長官自ラ裁判スヘキコトナリ

其時東京裁判所ニテ其裁判ヲナシタリ仍テ工部省ヨリ之ハ行政上ノ事柄ニ付其裁判ヲ  
中止スヘシト檢事ヘ掛合檢事ヨリ其裁判官ヘ之ヲ求メタリ然レモ自分ノ已ニ爲シタル  
裁判ヲ相當ナリトシテ之ヲ中止セズ執行セント固執シテ其言渡ヲ工部省ヘ送達シタ



之ヲ工部省ニテハ如何シテモ司法裁判ニテ裁判スヘキコトニアラストシテ其執行ヲ中止セシメタリ然ル上ハ其儘ニ爲シ置クヘキコアラズ仍テ直チ「コンセーデター」ニ言立タリ故ニ「コンセーデター」ニ於テ其權限爭ヲ裁判スルナリ

例ヘハ司法省中コテ日用ノ薪炭筆紙墨買上方又ハ修繕等ニ付其代價ノ相違又ハ品物ノ相違ニ仍テ司法省ト受負人ト爭論ヲ生シタルモ司法省ニ於テ長官之ヲ裁判シタリ之ハ固ヨリ行政上ノ事柄ニ付矢張司法省ノ權限中ノ一トナリ故ニ不可ナリトセサルナリ

然シ例ヘハ大藏省ニ官有ノ山林ヲ賣下ケ其買人トノ間ニ爭論ヲ生シ其買人ヨリ訴出テタルヲ以テ司法裁判所ニテ裁判シタリ仍テ其地ノ縣令ヨリ之ハ大藏省ヘ訴出ツヘキコト、見做シ檢事ヘ掛合ダレモ司法裁判所ニ於テ之ヲ中止セザリシナリ

前説ヘ工部省ノ工事ヨリ生シタル爭論又ハ司法省ノ筆紙墨等ヨリ生シタル爭論ハ小事ナレモ行政權ノコトナリ故ニ司法裁判所ニテ之ヲ裁判スルハ不適當ト爲スナリ

然シ後説ノ大藏省ノ山林賣下ヨリ生シタル爭論ハ即チ政府ヲ無形ノ人ト見做シ人民一般ノ契約ト同様ニ見做スヘキモノナリ故ニ縣令ヨリ大藏省ニ代リ其權限ヲ爭フハ不適當ト爲スナリ

尤モ斯ノ如キコトハ通常アルヘキコトコアラズ殊ニ日本ニテハ司法權ト行政權トノ事柄ニ付未タ判然區別シタル方法ナカルヘシ

例ヘハ司法省ノ構内ヘ建築スル等ノ事柄ハ固ヨリ行政權ニ關スルモノナレモ文部省ニテ各所ニ管轄地アリ其内ヘ建築スル等ノ事柄ニ付訴訟ノ起リタル時ハ行政上ニ屬スヘキコト、爲スガ又ハ司法上ニ屬スヘキコト、爲スガ

例ヘハ開成學校ノ構内ニ教師館ヲ建築セリ之ハ固ヨリ疑ヲ入レスレテ行政上ニ屬スヘキコト、爲ス何トナレハ人民ノ公益ヲ計リ文部卿ノ特權ニテ建築タルモノナレハナリ

然ルニ其各所ノ管轄地ノ内ヘ之ヲ建築シタルモノハ全ク行政上ニ屬スヘキコトコアラズ何トナレハ御雇ノ外國教師ノ爲ノナレモ其教師ノ歸國シタル後ハ其家屋ヲ一般ノ人民ニ貸渡シ利益ヲ得ヘキモノナリ仍テ之ハ矢張通常ノ官有物ト見做スヘキモノナレハナリ

又例ヘハ政府ノ船ヨリ人民ノ船ヲ覆没シタリ但双方人民ノ船ナレハ佛國コテハ固ヨリ商法裁判所ヘ訴出ヘキコト、爲スナリ然ルニ一方ハ政府一方ハ人民ナリ故ニ之ハ人民ヨリ政府ヘ向テ其損害ノ償ヒヲ求メリルヲ得サルナリ

其時ハ固ヨリ縣令ニテ裁判スヘキコアラサルハ言ヲ俟タヌ因テ司法裁判所ヘ訴出ヘキカ又ハ海軍省ヘ訴出ヘキカノ二ツニ限ルヘキナリ

故ニ司法裁判所ニ於テ其裁判ヲ爲シ掛ケタリ然ルニ其時縣令ヨリ中止センコトヲ掛合ヒタレモ其司法裁判所ニテ其裁判ヲ爲シ遂ケタリ仍テ其權限ノ爭ヲ起シ「コンセーデター」ニ於テ之ヲ裁判シ則チ司法裁判所ニテ爲スヘキコト、決定セリ

之ハ畢竟其過誤ヨリ人民ヘ損害ヲ掛ケタルモノナレハ固ヨリ行政權ノコトニアラス一般ノ人民同志ニテ損害ヲ掛ケタルト同様ノコトニ見做スヘキナリ故ニ「コンセーデター」ニ於テ此ノ如ク決定シタルモノナリ

然シ戰爭中訓練ノ折柄彈丸ニテ人民ノ船ヲ覆没シ損害ヲ掛ケタル時ハ行政權ニ屬スヘキコト付即チ海軍省ニテ裁判スヘキコト、爲スナリ



之ニ反シ人民ノ船ヨリ海軍省ノ船ヲ發没セシメタリ之モ矢張前説同様司法裁判所ニテ  
 裁判スヘキコトヲ示ナリ  
 前説ハ政府ノ被告人ト爲リ後説ハ政府ノ原告人ト爲ルノ違ヒニテ其事柄ニ於テハ  
 固ヨリ同様ノ理ナリ  
 斯ノ如キ場合ニ於テハ司法權ノ者ハ自分ノ權内トナシ行政權ノ者モ同シク自分ノ權内  
 トナス等コト互ニ其權限ノ争ヲ生シ易キコトナリ  
 然シ此權限ノ區別ハ固ヨリ豫メ定メ置クコトヲ得サルモノナリ  
 政府ノ船ト人民ノ船トノ衝突一件ニ付特別ノ裁判ヲ設クルノ可否ヲ説クトモ不都合ナ  
 ラサルヤ

先ツ佛國ノコトニ托シテ之ヲ説カントス

一休憲法上ニ於テハ特別ノ裁判ヲ設クハ嚴禁ト爲スナリ

况ヤ其事柄ノ成立チタル後ニ至リ俄カニ之ヲ設クルハ殊ニ不條理ナリ  
 兼テ刑民商ノ裁判所ヲ設ケアル上ハ其訴訟ノ事柄ニ寄リ夫々適當ノ裁判所へ出テ其裁  
 判ヲ受クヘキコト、一定セル故人民ニ於テハ他ニ疑念ヲ生スヘキコトナキ筈ナリ  
 裁判所ノ設ケアルハ畢竟刑民商ノ區別ヲ以テ人民ノ訴訟アルコトヲ豫メ待テ受ケタル  
 モノナリ

然ルニ其事柄ノ成立チタル後ニ至リ特別ノ裁判ヲ設クル時ハ已ニ刑民商ノ裁判所アリ  
 ト雖モ人民ニ於テ訴訟セントスル時ニ當リ常ニ何レニテ裁判ヲ爲スヘキヤトノ疑念ヲ  
 生スル患ヒアリ  
 且或ハ人民ニテ其時々裁判官ト爲リタル者ノ私ヲ以テ偏頗ノ裁判ヲ爲スヘキヤトノ疑

團ヲ抱ク事アルナリ  
 以上ハ特別裁判ヲ設クルノ可否ヲ説ケリ以下又本條ニ附テ説カントス

司法權ニ行政權ノ區別ヲ分ツハ最モ良法ナリ  
 然シ現今佛國ニテ定ムル所ノ區別ハ人民ニ於テ十分ノ都合ヲ得満足スヘキコト、爲サ

故ニ前ニ説クハ如ク司法省又ハ文部省等ニ於テ人民ニ關シタル行政裁判ヲ爲スコトア  
 リトモ之ハ悉ク正シキ裁判ヲナシ得ヘト必シ難キコトナリ現今ハ佛國ノ政事ハ漸進  
 ノ共和黨ノ論ニ歸スリ

故ニ此後十年間モ過キダレハ行政裁判ノ方法モ更ニ適當ノ規則ヲ定ムヘシト考ヘリ  
 然シ司法權ト行政權トノ争ヲ生シ已ニ言渡シタル裁判ヲ中止セラル時ハ尙國議院等他  
 ノ所ニ於テ特別ノ裁判ヲ爲サ、ルヲ得サルナリ

自分ハ文部卿ノ管轄中ノ者ナリ然シ三ヶ年ノ休暇ヲ得テ日本へ來リタリ  
 故ニ此日本へ來リタルコトニ付文部省ト争テ起ル時ハ矢張文部卿ノ裁判ヲ受ケサ  
 ルヲ得ス

故ニ其時ハ或ハ文部省ノ都合ノ能キ條ニ裁判ヲ爲スヤモ計ル可カラサルナリ  
 然レモ若シ其裁判ニ不服ナル時ハ國議院ニ控訴ヲ爲スヘキコト付其上ノ保證ヲ得ヘキナ  
 レハ文部卿ノ初審裁判ノ時ニ於テハ其保證ヲ得ルコトヲ必シ難シト爲ス

例ヘハ佛國ニテハ仕官ノ者ヘハ退隱料ヲ出セリ之ハ三十年間勤メ續タル者ヘ其退隱料  
 ヲ出スノ定メナリ然レモ自分ノ退隱セントス時ニ當リ文部卿ニ於テ「ボアソナート」ハ  
 ハ其退隱料ヲ出スヘカクニ何トナレハ三年間日本ニ雇ハレタリト云フヘシ然シ自分ハ



日本ニ雇ハレタリトモ矢張其職務ヲ帶ヒ來リタルニ付固ヨリ文部省ノ職務ヲ欠キタル  
 コアラサル旨ヲ以テ之ヲ文部卿ニ訴ヘ出シ其裁判ヲ受テサルヲ得サル等ノコトヲ行政  
 裁判ト云フヘキナリ  
 若シ日本コトテ行政裁判ヲ設クルナレハ司法裁判ト混セサルノ區別ヲ以テ設クヘキナリ  
 佛國ニ先キ立格別ノ良法ヲ立テ之ヲ設ケラレンコトヲ要スルナリ  
 問 行政裁判ノ權限ハ先ツ如何ナル種類ヲ以テ之ニ屬スヘキヤ  
 教師答 已ニ説ク所ノ種類ノ内ニテ其區別ヲ判然ト定ムヘキナリ  
 然シ其區別ハ佛國ニテモ未ダ確定シタル書物等ナシ故ニ先ツ其職務上ノ事柄ニ付テ其  
 區別ヲ分チ權限ヲ定ムルモノト爲ス  
 以上ハ只其原則ヲ説キタル迄ナリ  
 之ヲ要スルニ國ノ私權ニ管スルコトハ司法裁判ニ屬シ公權ニ管スルコトハ行政裁判ニ  
 屬スルコト、爲スナリ  
 共和八年ノ立法ニ於テ縣廳ノ裁判ヲ設ケタリ之ハ只七ヶ條ノ規則ヲ定メ全ク特殊ノコ  
 ト、爲シタリ故ニ第七ヶ條ノ外ノ事柄ニハ何事ニ拘ハラズ關係スルヲ得サルナリ  
 行政裁判ト云フハ畢竟其縣廳ノ裁判ヲ一步進メタ方法ノモノナリトス  
 之ハ固ヨリ良法ナレバ其裁判官ハ不拔ノ權ヲ有スルモノ、コアラズ故ニ今日裁判權ヲ有  
 スルトモ整日ハ免職セラレ、ヤ計リ難キモノナリ  
 仍テ自分ノ考ニハ矢張不拔ノ權ヲ有スル一種特別ナル裁判官ヲ設ケ置クヘント爲スナ  
 リ  
 其一種特別ナル裁判官ヲ設ケ之レニ總テ行政上ノ事務ノ裁判權ヲ委任シテ裁判セシム  
 ンキナリ

然シ其裁判官ハ不拔ノ權ヲ有セシムヘキコトナリ  
 固ヨリ其裁判ヲ爲ス時ハ一人コアラズ三人ニテ之ヲ爲スコト、定ムヘキナリ  
 佛國ノ戰爭ノ時ハ巴里斯ハ四面トモ敵兵ニ圍マレタリ其時ハ巴里斯ノ近傍ノ人家ヲ取  
 拂ハサルヲ得ス即チ巴里斯ヨリ「キロメートル」ノ間ノ人家ハ殘ラス取拂ハレメタリ  
 之ハ陸軍省ニテ命令ヲ出シタルモノナリ  
 其時人民ヨリ此損害ノ償ヲ何人ニ向テ求ムヘキヤトナレハ固ヨリ陸軍省ノ公權ヲ以テ  
 命令シタルコトニ付即チ陸軍省ヘ向テ之ヲ求ムヘント爲スナリ  
 故ニ其時ノ裁判ハ陸軍卿一人ニテ之ヲ爲シタリ尤全ク陸軍卿一人コアラズ外ニ立會ヒ  
 タルモノモアリシナレバ其後之モ矢張縣廳ノ裁判ニ屬スヘシトノ論アリ但シ三人以上  
 ノ裁判官コトヲ爲スヘキコト、定マリタリ  
 「コンセーデター」ニハ素ヨリ不拔ノ權ヲ有スル裁判官ヲ撰定シ置クヘキヲ良法ト爲ス  
 ナリ

後第十四號 (明治九年三月廿五日)

第百二十八條

本條ハ縣令ヨリノ掛合ノミコテ國議院ヨリ其裁判ヲ取消スヘキ旨ノ命令アラサル前ノ  
 コトナリ仍テ其抵抗スルコト少トス  
 前條ハ縣令ヨリ掛合ヒ其上國議院ヨリノ命令アリシ後ニ至リ尙之ヲ中止セズシテ行ヒ  
 タルコトナリ仍テ抵抗ヲ爲スコト多トス



前條ハ國議院ノ命令ヲ用ヒスルヲ裁判ヲ行ヒタルコト後條ハ縣令ノ掛合ニ構ハスシテ  
 裁判ヲ爲シタルノコトナリ  
 此二少條ノ區別ハ判然セリ故ニ能ク之ヲ辨知スヘキナリ  
 尤前條ノ如ク權限爭ノ以前ニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ縣令ヨリ掛合ヒタルノミコトナ  
 濟マズ國議院ニテ其曲直ヲ裁判スヘキナリ仍テ其最初ノ裁判ヲ取消スヘシト命令シタ  
 リ然ルニ尙其裁判ニ抵抗シタルモノナリ故ニ之ヲ重ク罰スルナリ  
 後條ハ之ト違ヒ縣令ノ掛合ニ構ハスシテ裁判ヲナシタルノミノコトナリ故ニ之ヲ輕ク  
 罰スルナリ  
 最初ノ裁判ヲ取消スハ國議院ニ限レルコトニテ縣令ハ之ヲ取消スコトヲ得サルナリ  
 又檢事ハ縣令ノ掛合ニ依リ其裁判ノ中止ヲ求ムルヲ以テ當然ノ職務トナスナリ然ルニ  
 若シ之ヲ求メス却テ裁判官ト共ニ裁判スヘシト云フ時ハ即チ附從ト爲シテ同罪ニ罰ス  
 ヘキナリ  
 第二百二十九條ハ全ク別事ナリトス本條ハ人民ヨリ公ケテ官吏ヲ相手取訴訟ヲ爲スコト  
 ナリ  
 或官吏ニ對シテ訴訟ヲナス時ハ豫メ國議院ノ允許ヲ受ケサル可カラサルナリ  
 若シ之ヲ受ケスシテ訴訟ヲ爲シタル時ハ建國法ヲ妨害シタルノ罪トナルナリ  
 本條ノ法ハ共和八年ヨリ千八百七十年迄引續キテ用ヒタルモノナリ  
 然ルニ同年九月十九日ノ命令ニ仍テ此法ヲ廢セリ  
 本條ノコトハ建國法ノ第七十五條ニ掲ケタル法ナリ  
 故ニ此第七十五條ヲ廢シタル以來ハ公ケテ官吏ニ對シタル訴訟ニ付其院省ノ允許ヲ受  
 ケルノ手續ヲ爲ス可及ハサルナリ  
 故ニ其以來本條ノ法モ併セテ之ヲ廢シタルモノトナセリ  
 問 現今ハ官吏ニ對シタル訴訟ニ就テハ全ク本條ノ法ヲ用ヒスルコト可ナリト爲セルヤ  
 教師答 然リ現今ハ何人ニテモ官吏ヲ相手取直チニ訴訟ヲ爲シ得ヘキナリ  
 此法ヲ廢セシ時ハ安リニ官吏ヲ相手取リ粗忽ノ訴訟ヲナサハル爲メ更ニ之ヲ罰スヘキ  
 別法ヲ設クルノ積リナリ然レ未ダ其別法ハ設ケサルナリ  
 尤裁判官等ニテ或官吏ニ對シ粗忽ノ告訴ヲ爲シタル時ハ罰セラレ、ナレハ人民ニテ官  
 吏ニ對シ訴訟ヲ爲シタル時ハ法ハ未ダ設ケタルナリ  
 問 假令ヒ議院又ハ「上院」ノ官員ニテモ直チニ裁判所ヘ呼出シ得ヘキヤ  
 教師答 其方法ハ第二百二十一條ヲ看テ了知スヘシ  
 議院ノ官員ハ會議ヲ開キタル時間中ハ直チニ告訴スルヲ得ス必ス議院ノ允許ヲ受クヘ  
 キナリ然シ現行ノ犯罪ニ付テハ之ヲ受ケスシテ可ナリトナス  
 一體議院ノ議員ハ六ヶ月間ノ會議中ノ其職務ヲ奉スルモノナリ故ニ其時間ハ允許ヲ  
 受ケスシテ告訴等ヲ爲ス可カラサル也其他ノ場合ニ於テハ直チニ之ヲ逮捕スルトモ可  
 ナリトス

此條中「法律上ニ定メタル允許ナリ」云々トアリ  
 故ニ直チニ其告訴等ヲ爲スヲ得サレハ上院下院等何レモ其各院限リノ規則アリ仍テ其  
 規則ニ據ケタル法ニ循フ時ハ固ヨリ此條ノ法ニ拘ハラサルトモ然ルヘキナリ  
 故ニ其院省ノ規則ハ必ス背ク可カラサルコトトナスナリ  
 第二百二十九條中ニ關係本人云々トアリ之ハ被告人ノ關係本人ニ限ルヘキナリ



之ヲ只關係本人トノ記セシコ仍リ原被告人ノ内何レノ關係本人ナルヤ不分明ナリ然  
原告人コテハ其裁判ノ中止ヲ求ムルノ理ナシ故ニ必ス被告人ノ關係本人則チ孫又  
親族ヨリ被告人ノ身ヲ保護スル爲メ其裁判ヲ中止セシコトヲ求メタルモノト爲スヘキ  
ナリ

又其他行政官吏ニ於テ其被告人ノ身ヲ保護スル爲メ其掛合チナスヘキナリ

問 之モ矢張官吏ニ關スル事柄ナリヤ

教師答 一方ハ官吏一方ハ通常ノ者ナリトス

問 關係本人ト云フハ「アジヤン」コテ之チナスヘキヤ

教師答 然リ「アジヤン」コテ之チナストモ不可ナシ尤關係本人トハ則チ被告人又ハ其子  
孫又ハ親族等ニテ其求メテ爲シタルコトヲ云フナリ之ハ決シテ原告人ノ爲メコナシ得

ヘキコト、見做ス可カラス何レニモ被告人ノ爲メコ爲スヘキコトナリト了解セリヤ

例ハハ火藥製造所ヲ設ケンカ爲メ河水ヲ引テ水車ヲ仕掛ケタリ其河水ヲ引クコトハ縣  
令ノ命令書ヲ以テ其許可ヲ受ケサル可カラサルモノナリ

然ルニ縣令コテ一旦之ヲ許可シ其後ニ至リ又俄ニ禁止スルノ命令書ヲ出シタリ故ニ其  
製造所ヲ設ケタル者ニテ縣令ノ自儘ノ命令書ナリ且夫カ爲メ損害ノ償ヲ求メサルヲ得

スト云ヒ裁判所へ訴出テントスル時ハ先ツ其事ヲ國議院へ伺出スヘキナリ

通常ハ國議院ニテ容易ニ其允許ヲナサ、レハ前ノ如キ場合ニ於テハ之ヲ允許セサルヘ  
カラサルナリ

又酒店「バル」(玉突キ又ハ宿屋等)コテ違式ヲ犯シタル時ハ縣令ノ意見ヲ以テ之ヲ廢止  
スルコトアリ

故ニ此等ノ者コテ縣令ノ自儘ニ廢止セラレタリト爲シ其縣令ヲ相手取訴訟ヲ爲セント  
スル時ハ矢張必ス國議院ノ允許ヲ受クヘキコト、爲スナリ

其允許ヲ受ケサレハ訴訟ヲ爲ス可カラスト雖モ之ハ固ヨリ人民一般ノ民事ノ裁判權ヲ  
剝キタル譯ニアラス之レハ行政裁判ニ關スル事ニ限ルヘキナリ

然レ現今ハ其手續ヲ爲スニ及ハヌ縣令ト雖モ通常ノ者同様直ニ訴訟ヲ爲シ得ヘキナリ  
共和八年ノ建國法第七十五條ノ官吏ヲ相手取訴訟ヲ爲スニ付院省ノ允許ヲ受クヘキコ  
トヲ廢シタリトモ之ハ一休存スルトモ別ニ益ナキコアラヌ又廢シタリトモ固ヨリ害ア  
ルニアラス

何トナレハ此法ヲ存スレハ粗忽ニ訴訟ヲ爲サ、ル爲メ官吏ヲ保護スルノ一端ト爲ルナ  
リ又之ヲ廢シタリトモ原告人コテ其訴訟ニ勝チタル時ハ固ヨリ其儘コテ然ルヘク若シ  
之ニ負ケタル時ハ即チ認告ノ罪ニ當リ且其損害ノ償ヲ出スヘキ當然ノ法律ヲ以テ罰ス  
ヘキコトナレハナリ

故ニ之ヲ存シテ用ユルモノト爲セハ只其粗忽ニ訴訟ヲ爲サ、ル爲メ官吏ヲ保護スル迄  
ノコトナリ又之ヲ廢シテ用ヒカルモノト爲セハ粗忽ニ訴訟ヲ爲シタル者ヲ以テ認告ノ  
罪ト爲ス迄ノコトナリ

佛國ノ現今ノ共和政事ハ固ヨリ人民ノ自由ヲ主ト爲レタルモノナレトモ未ダ其自由ニ  
十分ナラサル所アリ

共和八年建國法ノ第七十五條ヲ廢セシハ現今ノ民撰議院ヲ立テサル以前ノコトナリ  
現今ノ司法卿「シツセメブロー」ハ眞ノ共和論ノ者ニアラサレハ此以前ノ法ヲ再ヒ設ク  
ヘシト爲サス然レ之ヲ設クント云フ者アレハ必ス直チコトヲ許スナルヘシ



然シ此法ヲ設ケスシテ已ニ四年ニ過キタレハ未ダ格別ノ弊ヲ生スルコトナリ  
此法ヲ廢シタルハ畢竟議院ニテ設ケ置ク可カラスト論スル者多人數アリタル故ナリ何  
トナレハ若シ之ヲ設クル時ハ人民一般ニテ政府ハ自分ノ都合能キ法ノミヲ立ツルト云  
ヒ不平ヲ鳴ラヌモノアルヘキナレハナリ

一依此法ヲ設クヘシト定ムルヨリ矢張勝手ニ訴訟ヲ爲シ裁判ヲ受クヘシト定ムル方更  
ニ適當ナリ

故ニ以前ノ法ハ大ヒニ不適當ナリト考ヘリ又或ハ公ケノ官吏ニ對シ訴訟ヲ爲スコ其  
允許ヲ受ケサル可カラスト云フハ全ク人民ノ訴訟スヘキ權利ノ力ヲ減センカ爲メナリ

トノ説アリ  
一依人民ニ於テハ一通リノ權利アルトモ官吏ニ比スレハ自テ余程ノ力ヲ減スルモノナ  
リ故ニ眞ニ十分ノ權利アル者ニアラザルハ容易ニ訴訟ヲ爲スヘキニアラス若シ之ヲ爲  
シ其訴訟ニ負ケタル時ハ莫大ノ損害ノ償ヲ出サ、ルヲ得ヌ仍テ此法ハ素ヨリ立テ置ク  
ニ及ハサルヘシ

第三百三十條

本條ハ矢張第百二十七條ノ罪ヲ犯シタルモノナリ云フナリ  
同條ニ於テハ行政權ノ者ニアラス司法權ノ者即チ裁判官檢事等ニテ立法權ニ干渉シタ  
ルコトナリ

本條ハ之ニ均シク行政權ノ者ニテ立法權ニ干渉シタルモノナリ  
即チ縣令又ハ區長等ノ如キ行政權ノ者ニテ立法權ニ干渉シタルコトナリ云フナリ

問 一般ノ決定ト云ハ縣令ヨリ裁判所ヘ對シ命令又ハ禁止ヲ出テ等ノ決定ヲ爲シタルニ  
トナリヤ

教師答 此一般ノ決定云々トノ文意ハ穩妥ナラス  
故ニ「州長郡長邑長云々」ノコトヲ前文ニ掲ケ「立法權ヲ行フニ干渉シ又ハ裁判所云々  
ニ干渉シタルモノ云々」ノコトヲ後文ニ掲ケ置ク方前後ノ文脈ニ於テ解シ易キナリ

一般ノ決定トハ即チ縣令ニテ裁判所ヘ命令或ハ禁止スルコトヲ決定セシコトナリヤ  
問 之ハ如何ナル事柄ニ付テ命令又ハ禁止セシト決定シタルコトナリヤ

教師答 命令ス可カラサルコト又ハ禁止ス可カラサルコトヲ官吏ノ私見ヲ以テ自儘ニ決  
定シタルコトナリ云フ

本條ニハ一般ノ決定ヲ爲スコ干渉シタル州長郡長邑長ト記セリ  
一依縣令ト雖モ一般ノ事柄ニ付總テ裁判所ヘ命令又ハ禁止セシトノ告知ヲ決定シ得ヘ  
キニアラス尤權限爭ヲ生シタル場合ニ於テハ其裁判ヲ中止スヘシトノ決定ヲ爲スコト  
アリトモ郡長邑長等ニ至テハ固ヨリ何事ニ付テモ之ヲ決定シ得サルモノナリ

故ニ一般ノ字ハ先ツ縣令ノヨリ關スル字ニシテ郡長以下ノ者ニ關スル字ニアラス  
仍テ本條中ニテ一般ノ字ヲ省キ且ツ文意ヲ「裁判所ヘ云々ノ決定書ヲ出ス可カラズ但  
シ縣令ニ許可シタル特別ノコトハ此限ニアラス」ト改ムヘキナリ

第三百三十一條

本條ハ前ニ説キタルコト殆ント反對シタルコトナリ故ニ未ダ其權限爭ヲ生セサル場  
合ノコトナリ

權限爭ト云フハ公權ニ屬シタルコトニ付行政權ノ者ヨリ其權限爭ヒ裁判所ヘ之ヲ掛



合ヒタルコトナリ  
然ルコ本條ノ事柄ハ私權ニ屬シタル事柄ニ付原告人ヨリ訴訟セシトシタル時行政權ノ者ニテ裁判シタルコト仍リ即チ原告人ヨリ其裁判ヲ受ケルヲ肯シサル旨ヲ言立テタリ然レハ行政權ノ者ニテ矢張之ヲ用ヒス其儘爲シタルコトナリ云フナリ

問 之モ矢張官吏ト人民トノコトナリヤ

教師答 然リ原被ノ内一方ノ言ハ必ス官吏ニ限ルヘキナリ  
官民共有地ノ山林田畑等ヲ政府ニテ人民ヨリ取戻サントスルハ固ヨリ行政權ノ事柄ニ

アラス全ク私權上ノ事柄ナリ然ルコ縣令ニテ其裁判ヲ爲シタリ  
其時一方即チ人民ニテ權限ノ違ヒナリトシテ其裁判ヲ受ケサル旨ヲ言立タリトモ縣令

ヨリ之ヲ司法裁判所ヘ送テサル時ハ本條ノ刑ト爲スナリ  
然シ一方コテ其權限ノ違ヒタルヲ以テ司法裁判所ヘ送ルヘシト言立テサル時ハ其儘縣

令ニテ之ヲ裁判スルトモ別段ニ子細ナシトス然レトモ固ヨリ縣令ノ誤タルヨハ相違ナシト雖モ其事柄ニ於テ故障ヲ生セサル時ハ夫カ爲メ刑ヲ受クルコトナラトス

問 此「且」ト云フ字ハ又ト云フ字義ニテ二事コ分ツヘキカ或ヒハ「而」ト云フ字義ニテ一  
事ニ申説スヘキヤ

教師答 「司法ノ職務ヲ行ハント爲シ」云々ノ所ヨリ其裁判ヲ行ヒシ時ハ「云々ノ所ヘ文  
脈ヲ申説シテ一事ト解スヘキナリ

何トナレハ「其職務ヲ行ハント」爲シタルモノニテハ未タ其罪ト爲ラス其裁判ヲ受ケサ  
ル旨ヲ申立ツルト雖モ云々ノ場合ニ至リ始メテ其罪ト爲ル譯ナリ

故「且」ト云フ字ハ二事ニ解セス一事ニ申説スヘキナリ

問 然ラハ「且」ト云フ字ハ不可ナリ「而」ト云フ字ヲ用ユヘキナルヘキカ

教師答 然リ本條ノ文意ハ甚ダ曖昧トシタル所アリ「此次條以下ハ貨幣贋造ノ罪ヲ記シタ  
ルモノナリ之ハ暫ク講セス後會ヨリハ先ツ本條ニ引續キ官吏ノ瀆職ノ罪ヲ講セントス」

即チ第六百六十六條ヨリ第二百八條迄ノ事柄ナリ  
第四款以下ハ官吏ノ權ニ抗シタル罪ヲ記ルシタルモノナリ

後第十五號 [明治九年四月一日]  
第六百六十六條

本條ニ官吏其職務ヲ行フニ付云々ノ重罪ヲ名ケテ瀆職ノ罪ト云フト記セリ  
之ハ官吏ノ職務ニ付テ犯シタル罪ノ總名ヲ掲ケタルモノナリ

本條ハ一體不用ナリトス然シ之ヲ要用ノモノト爲サントスル時ハ次條ノ公權剝奪ノ刑  
ニ處ス可シトノコトニ記スルニ及ハサルナリ只其瀆職ノ罪ナリトノ罪名ヲ記シタルノ

コトナレハ廣ク他ノ刑ヲモ用ヒ得ヘキナレトモ公權剝奪ノ刑ト記セルニ仍リ必ス此刑ヲ  
用ヒサルヲ得サルナリ

且官吏ノ罪ニテ公權剝奪ノ刑ニ處スヘキモノハ何レモ其正條ニ於テ同シク公權剝奪ト  
云フコトノ明文アリ然ラハ本條ニ於テ瀆職ノ罪ナリトノ罪名ヲ記シタル上又其正條ニ

明文アル所ノ公權剝奪ト云フコトヲ次條ニ記スルニハ及ハサルコトナリ  
仍テ此二條ハ全ク不用ナリト考ヘリ

此二條ノ罪ハ官吏ノ職務ニ付罪ヲ犯シタル時ニアラサレハ之ヲ用ユルヲ得ス若シ其職  
務ノ外ナル時ハ假令ヒ如何ナル重キ罪ナリトモ他罪名ヲ以テ罰ス可キナリ



尤官吏ノ職務ノ罪ヲ以テ公權剝奪ノ刑ト爲スハ至當ナリ何トナレハ官吏ハ其職務ヲ重ク任シタルモノナリ然ルニ其職務ニ就テ罪ヲ犯スハ最モ惡ムヘキ必實ナル者ト爲スヘキナレハナリ

第百六十八條ニ輕罪ハ瀆職ノ罪ト爲ス可カラスト記セリ一體公權剝奪ハ固ヨリ輕罪ノ刑ニアラス然ラハ前條ニ於テ瀆職ノ罪ハ公權剝奪ノ刑ニ處スト記シタル上ハ其輕罪ニアラサルコト明カナリ故ニ本條モ矢張不用ナルハ固ヨリ記スルニ及ハサルコト、爲ス

然シ本條ニ仍テ論スレハ官吏ノ職務ニ付輕罪ヲ犯シタル時ハ通常ノ者ト同様ノ刑ニ處シ別ニ瀆職ノ罪ノ部類ヘ入レサルナリ

問 瀆職ノ罪ヲ以テ通常ノ罪トノ區別ヲ立ツル時ハ此刑法ヲ用ユル場合ニ於テ甚タ判然セズ難事ナル可シ

尤輕罪ナレハ通常ノ罪同様ナル故別ニ難事ナシト雖モ通常ノ罪ニテ重罪ニ當ルヘキモノハ何レモ其正條ニ記スル所ノ刑ヲ用ユヘキナリ然ラハ本條ニ於テ瀆職ノ罪ト云フ所ノ重罪ハ如何ナル事柄ヲ以テ之ニ當ツヘキヤ甚タ判然セサルナリ

教師答 已ニ説ク如ク一休本條ハ全ク不用ニ屬スルモノナリ

例ヘハ贖造ノ罪ナレハ何レモ其正條ニ於テ刑名ヲ記セルナリ仍テ此重罪ト爲スモノハ全ク刑法中ノ正條外ノ罪ト云フナリ

第百六十七條ニ「法律上ニテ別段重キ刑ヲ定メサル」云々ト記セリ故ニ刑法ノ正條ニキ外ノ事柄ニテ重罪ニ當ルヘキ罪ヲ犯シタルコトヲ云フナリ

問 其罪ノ種類ハ先ツ如何ナルモノヲ以テ瀆職ノ罪ト云フ可キヤ

教師答 第百十四條ヲ見ル可シ

同條中ニ官吏ニテ人民ノ自由ニ對シ云々ト記セリ之ハ瀆職ノ罪ト爲スヘキヤ如何ニ此罪ヲ以テ重罪ト爲ス時ハ即チ瀆職ノ罪ト爲サ、ルヲ得ス

尤同條中ニモ公權剝奪ノ刑云々ト記セリ故ニ此一ケ條ヲ見レハ即チ其罪ニ依テ用ユヘキ刑名ヲモ知リ得ヘキナリ然ラハ殊更ニ第百六十六條ヲ見合スニ及ハス仍テ愈其不用ナルコト明カナリ

第百十五條モ同シク官吏ノ瀆職ノ罪ナリ尤之ハ各省ノ卿ニテ其罪ヲ犯シタルコトナリ故ニ瀆職ノ罪ノ内ニテ最モ重キ刑ニ處スルナリ之ハ其職務ヲ重ク任シタルモノニ付其罪モ重キニ從テ論シタルモノナリ

然ラハ同シ瀆職ノ罪ト雖モ第百六十六條ニ依テ處ス可キモノコアラズ全ク特別ナル刑ヲ用ヒタルモノナリトス

第百二十一條モ同シク司法警察官吏又ハ檢事等ニテ其瀆職ノ罪ヲ犯シタル時ハ矢張公權剝奪ノ刑ニ處スルナリ

若シ之ヲ公權剝奪ノ刑ニ處セズ輕罪ナル時ハ瀆職ノ罪ト云フヲ得ス然シ此條ニ於テハ矢張重罪ト爲シ公權剝奪ノ刑ニ處スルコト付固ヨリ瀆職ノ罪ナルコトハ言ヲ俟タサルナリ

第百二十三條ニ公權ヲ任セラレタル云々トアリ即此條ハ官吏ニテ打寄犯情ノ相談ヲ爲シタル罪ニテ即チ刑法第四十二條ノ如ク公權及ヒ族權ノ全部又ハ一部ヲ行フコトヲ禁ス可キモノナリ之ハ官吏ナレハ輕罪ニ當ル故ニ瀆職ノ罪ト云フヲ得ス

仍テ其罪ノ種類ヲ分チ瀆職ノ罪ト爲ス可キヤ否ルヤハ其刑名ニ依テ之ヲ辨知スルヨリ外他ニ判然タル區別ナシ



瀆職ノ罪ト云フノミニテ其種類ヲ記セス而シテ又公權剝奪ト云フ刑名而已ヲ記セリ然  
 シ其刑名ハ何レモ罪ノ種類ニ依テ一々其正條ニ記セルモノナリ然ラハ其不用ノ條ナル  
 コト愈明ラカナリ依テ之ハ削ラサル可カラサルナリ  
 然レハ又或ハ之ヲ存シ置テ要用途ト爲ス可キ場合ナキニアラズ  
 何トナレハ此刑法ノ外ニ他ノ罰則等ヲ立テ官吏ノ職務上ノ罪ヲ以テ只瀆職ノ罪トノミ  
 記シタル時ニ於テハ別ニ公權剝奪トノ刑名ヲ記セサルトモ自ラ其刑ニ處スルヲ知リ得  
 ヘキ譯ナリ故ニ其場合ニ於テハ全ク便利トモ爲ルヘキナリ  
 然シ佛國ニテハ未ダ他ノ罰則ニ斯ノ如キコトヲ記シタルモノナク又其便利ト爲リタル  
 コトヲ見サルナリ

問 通常ノ者ト違ヒ官吏ハ一種對ナリタル者故ニ殊更本條ヲ以テ掲タルモノニテ此刑法  
 中ニ記セサル所ノ重罪ヲ犯セタル時ヲ云フナルヘキカ

教師答 然リ固ヨリ其主意ヲ以テ殊更ニ掲ケタルハ勿論ナリ然シ他ノ罰則中ニ於テ其罪  
 ノ次第ニ仍リ官吏ノ瀆職ノ罪トノミト記スルノ便利トモ爲ルヘキナリ尤全ク夫カクメ  
 ナレハ煩ハシク公權剝奪トノ刑名ハ此所ニ記スルニ及ハサルナリ

固ヨリ此刑法ノ正條中ニモ瀆職ニ當ル罪モアルヘキナレハ一體ノ本旨ハ刑法ノ外ニテ  
 之ニ當ルヘキ罪ヲ概シテ言フナルヘシ

刑法中ニ正條ヲ以テ掲ケタル罪ニハ必ス其刑名ヲ記セリ故ニ若シ後來此刑法ノ改正ヲ  
 ナス時ハ必ス其正條中ニ瀆職ノ罪ト掲ケタル上ハ別ニ其刑名ヲ記セスシテ此第六十  
 七條ノ公權剝奪ト掲ケタル所ニ基キテ之ヲ處スル様ニ爲ス可キナリ

然シ其正條ニ於テ一々刑名ヲ掲ケサル爲メ此條ニ存スヘシトシテ見ル時ハ此文意ノ儘

コトハ未ダ不十分ナリト考ヘリ

瀆職ノ罪ハ施體加辱ノ刑ニ當ル可キモノニアラス故ニ第六十六條ニ於テ「官吏云々  
 ノ重罪ヲ云々」ト記セス「官吏云々殺傷ノ罪ノ外ノ重罪ヲ云々」ト記スヘキナリ

尤官吏コトモ過誤ナキニアラス其時ハ瀆職ノ罪ト爲ス可カラサレハ其刑名ヲ同案ニ爲  
 サル可カラサル時ハ失張瀆職ノ罪ト爲スヘキナリ

故ニ又第六十七條ニ於テモ法律上云々瀆職ノ罪ハ「ト言フニ及ハス」前條ノ罪アルト  
 ハ公權剝奪ノ刑ニ處スル「ト記ス可キナリ

前條ニ於テ云々ノ重罪ヲ瀆職ノ罪「ト言ヒタル上ハ次條ニ於テ又更ニ瀆職ノ罪」ト言フ  
 コハ及ハサルコトナリ

爰ニ二例ヲ舉ゲン

先ツ第四百十六條ノ例ヲ以テ説カントス

此條ハ公ケノ官吏コト公ケノ文書ヲ偽造シタル罪即チ官吏ノ瀆職ノ罪ナリ「何トナレ  
 ハ之ハ施體加辱以上ノ刑ニ處スル故ナリ

然ラハ公權剝奪ノ刑ニ處スルカトナレハ否ラス無期ノ徒刑ト爲スナリ

故ニ此條ノ場合ニ於テハ何レモ第六十七條ニハ據ルコトヲ得サルナリ

官吏ニテ私ノ文書又ハ證書類ヲ偽造スルカ又ハ其證書中金高ノ部分ヲ變造スルカ或ハ  
 公證人ノ證書中自分ニ不都合ナル部分ノ文字ヲ書キ替ヘル等ノ事ハ即チ瀆職ノ罪ト爲

スカトナレハ否ラス之ハ自分ノ私益ノ爲メナル故ナリ

其私ノ文書ヲ偽造シタル事ハ有期ノ刑ト爲スナリ假令公證人ノ證書ナリトモ公ケノ文  
 書ニアラサル以上ハ官吏モ通常ノ者モ同様ノ刑ニ處スルナリ



第五百五十六條ニ公ケノ官吏ニテ何某ナルコトヲ知リツ、其偽名ヲ書シテ路券ヲ渡シタ  
ル罪ト記セリ

之ハ官吏ノ瀆職ノ罪ニ當ルヘキヤ重罪ナレハ瀆職ノ罪ト爲シ輕罪ナレハ否テスト爲ス  
然ラハ此條コテハ禁錮ノ刑ニ處スルトアル故ニ輕罪ナリ仍テ瀆職ノ罪トハ爲サ、ルナ  
リ瀆職ノ罪ト否ラサルトハ必ス刑名ニ依テ知ルヨリ外判然タル區別ナシトス  
官吏ノ罪ノ内ニテモ禁錮ナレハ輕罪ニ付瀆職ノ罪ニアラス公權剝奪ナレハ重罪ニ付瀆  
職ノ罪ト爲ス然シ其重罪ニテ公權剝奪ト爲スヘキモノハ各第六十六條ヲ見合セルコ  
及ハス他ノ正條ニ於テ其刑ヲ記セリ又其公權剝奪ノ刑ヨリ重キ刑ニ當ルヘキモノハ素  
ヨリ同條ニ仍ラサルトモ他ノ重キ刑ヲ以テ罰ス可キナリ

故ニ其不用ナルコト愈明ラカナリ

日本ニテ刑法ヲ改正スルニ付テハ矢張此條ヲ設ク置クヘキヤ否ヤトナレハ他ノ罰則等

ノ便利ノ爲メノミナレハ強テ設クルニ及ハサルナリ

若シ罰則等ニ於テ更ニ特殊ナル罪アル時ハ其罪ノ爲メ又別ニ其刑名ヲ記スレハ可ナリ

故ニ之ハ用ヒサル方然ルヘシト考ヘリ日本ノ刑法改正ノ際ニ付尙一言説クヘキコトア  
リ

佛國ニテハ「フチンク」ヨチ「ルビブリツク」ト云フハ公ケノ官吏ノコトナリ然シ佛國  
ニテハ如何ナル者ヲ以テ一般公ケノ官吏ト云フヘキトノ限定ナシ然ラハ總テノ官吏ヲ  
公ケノ官吏ト云フヘキヤトナレハ否テス尤「フチンク」ヨチ「ルビブリツク」ハ總テ何  
レノ對シテモ公ケノ官吏ト言ヒ得ヘキナレト其他ノ官吏ニテ公ケノ官吏ト言フヲ得サ  
ルモノナリ

故ニ日本ニテ刑法中ヘ公ケノ官吏ト記スルニハ必ク其區別ヲ立テサル可カラサルナ  
リ

例ヘハ此席上ニテモ大輔ハ公ケノ官吏ト云フ可キナリ然シ何某ハ公ケノ官吏ニアラサ  
ルナリ

佛國ニハ官吏ノ内「フチンク」ヨチ「ルビブリツク」ア「シヤン」アン「プロエー」ト云フ名  
目アリ其内判然タル區別ハナシト雖モ「アン」フロ「ボ」セ」ト云名目ハ自ラ差違アリ尤律  
法中ニテ「フチンク」ヨチ「ルビブリツク」ア「シヤン」アン「プロワイエー」ト併セテ  
記セル時ハ總テノ官吏ヲ云ヒタルコトナリ

然シ「ホチンク」ヨチ「ルビブリツク」ト而已記シタル時ハ「アン」フロ「ワイエー」ハ其公  
ケノ官吏ノ内ニ入ラサルナリ

問「ア」シヤン」ハ「ホン」ク「ヨチ」ルビブリツク」ノ内ニ入ラサルヤ  
教師答 先ツ「ホン」ク「ヨチ」ルビブリツク」ト「ア」シヤン」トナシ一様ノモノトナシ「アン」  
フロ「ワイエー」ト差違アル所ノ區別ヲ説クヘシ

「ホン」ク「ヨチ」ルビブリツク」ハ國ノ公權ノ一部ヲ奉スルモノナリ故ニ各省ノ卿輔ハ  
日本政府ノ公權ノ一部ヲ奉スルモノナリ之ハ自分ノ名ヲ以テ其公權ヲ行ヒ得ヘキ故ナ  
リ

又縣令「メー」ル」ハ「邑長」モ亦同シク公ケノ官吏ナリトス

此公ケノ官吏ノ區別ヲ爲スハ最モ肝要ナルヘシ  
公權ハ事柄ニ仍リ大小ノ別アリト雖モ詰リ其官吏ノ命令ヲ以テ直チニ人民ノ公益ヲ保  
護シ又患者ヲ防衛スルノ事務ヲ施シ得ヘキモノナリ故ニ「メー」ル」ハ其管轄中ノ事務ヲ



自分ノ權内トシテ之ヲ施シ得ヘキナリ

又假令ヒ直チニ人民ニ接セサルトモ一ノ書付ヲ以テ其事務ヲ施シ得ヘキモノハ矢張公ケノ官吏ナリトス

例ヘハ大丞コテ卿輔ノ命令ニ仍リ其書キ物ヲ作り之ヲ人民ヘ布告シタル時ハ其大丞ノ書物ハ贗造ナリトノ訴アルコアラサレハ直ニ接シタル官吏モ同様公ケノ官吏ノ權アル者ト爲スナリ

何某ハ檢事ナリ然ラハ之モ公ケノ官吏ト爲ス之ハ固ヨリ自分ニテ其事務ヲ取扱ヒ司法卿ノ命令ニ仍テ其代理ヲ爲スモノナレハナリ

又何某ハ公ケノ官吏ト云フヲ得ス何トナレハ自分ノ名ヲ以テ一ノ書物ナリトモ作ルコトヲ得サル者ナレハナリ

又何某モ人民ヘ直チニ接スルモノコアラス故ニ公ケノ官吏ト爲サス  
佛國ニテハ公ケノ官吏ヲ區別スルハ甚ク面倒ナルコトト爲セリ

先ツ「ボアソナート」ノ職務ニ付之ヲ譬ヘントス

「ボアソナート」ハ政府ノ命令ニ仍テ學校ノ教官トナリ職務上ニ於テ嚴然ト講義ヲ爲スノ權アリト雖モ一生徒タリトモ之ヲ進退スル時ニ當テハ公ケノ權ヲ行フヲ得ス故ニ公ケノ官吏ト言フコトヲ得サルナリ

又學校ノ教官コテ生徒ノ試験ヲ爲スルハ其學力ニ仍テ評點ヲ付ケ其甲乙ヲ決定シ得ヘキナレハ其實賜ノ書付ヲ自ラ與ヘルコトヲ得ス之ハ公ケノ官吏ニアラサル故トリ

又學校ノ試験ニ付文部卿ヨリ賞牌ヲ與ヘルハ何ニ據ルトナレハ其試験上ノ請合書ニ據ル可キナリ其受合書ハ各教官ニテ調ヘテ爲スモノナリ然レ之ニ調印スルハ「ドハイヤ

ン」即チ教官長ナリ仍テ其教官長丈ケハ公ケノ官吏トナスナリ

「ドハイヤン」モ教官中ノモノナレハ其調印シ得ヘキ丈ケノ權アルコト付公ケノ官吏ト爲スナリ

「ドハイヤン」コテ其試験ノ受合書ヲ出スニハ自分ニテ陪席スレハ固ヨリ直ニ試験シタル譯ナレハ陪席セサル時ハ各教官ニテ黑白ノ評點ヲ付ケ明細ニ記シタル簿冊ニ仍テ其學力ノ甲乙ヲ知ルヘキナリ其時ハ教官コテモ其簿冊ニ調印スヘキニ付之レニ調印シタル丈ケノモノハ公ケノ官吏ト爲ス可キナリ

此場合ニ於テ若シ「ボアソナート」ニテ其試験ヲナサ、ル者ニ白點ヲ付テ簿冊ヘ記シタル件ハ公ケノ文書ヲ贗造シタル罪ニテ無期ノ徒刑ニ處セラル可キナリ

又ハ教官コテ其試験ヲ爲サ、ル場合ニ於テ妄ニ其簿冊ニ黑點ヲ付ケタルハ公ケノ氣儘ナル所爲ト爲ス若シ之ヲ公ケノ官吏ノ職務ヲ行フノ罪ニ引當テタル時ハ公權剝奪ノ刑ト爲サ、ルヲ得サレトモ此事柄ニ於テハ其教官ヲ以テ公ケノ官吏ノ職務ヲ行フニ付テ爲シタル罪ト一樣ニハ見做サ、ルナリ

然レ或ル場合ニ於テハ公ケノ官吏ト見做スコトアリ即チ生徒ノ試験ノ簿冊ヘ調印シタル時ノミハ公ケノ官吏ト爲スナレハ其他決シテ公ケノ官吏ト爲スコトナシ

佛國ニハ僧官ノ内ニ政府ヨリ月給ヲ與ヘルモノアレハ之ヲ以テ公ケノ官吏トハ爲サ、ルナリ何トナレハ公權ニ關セサル故ナリ

「エウエキ」ト云フ者アリ之ハ少シク公權ヲ行フニ付即チ公ケノ官吏ト爲スナリ

共和八年ノ建國法ノ第七十五條ニ公ケノ官吏ニ向テ訴訟ヲ爲スルハ云々トノ法アリタリ現今ハ之ヲ廢セリ



然其公ケノ官吏ト言フハ何ヲ以テ區別スルヤ判然セス或ヒハ月給ヲ受クル者ハ總テ公ケノ官吏トナスヘシト云ヒ又ハ月給ヲ受ケル者ノ内ニテモ其區別ヲ立ツヘシト云フノ説アリ

日本ニテ法律ノ編製ヲ爲スニハ總テノ官吏ヲ以テ公ケノ官吏ト爲セハ面倒ヲ生セサル可キナレモ若シ其官吏中ニテ區別ヲ爲サントナレハ判然ト之ヲ分ツヘキナリ然ラサレハ後來大ヒナル不都合ヲ生スヘキナリ

尤總テノ官吏ヲ以テ公ケノ官吏ト爲シ其刑ヲ同様ニ處スル時ハ輕キ官吏ニ附テハ甚ダ峻酷ニ當ルコトアル可キナリ

例ヘハ何某ニテ罪ヲ犯シタリトモ公權ヲ行フモノニアラス其上司ノ官吏ニテ監視スヘキニ付其害ヲ爲スコト少シ故ニ其罪ヲ輕シト爲ス然ルニ其上司ノ官吏ト同様ノ刑ニ爲スハ峻酷ナリ仍テ自ラ公權ヲ行フ者トハ其區別ヲ爲サ、ル可カラス其區別ヲナスニハ必ラス判然ト之ヲ分タサル可カラサルナリ

然。何某ノ通辨ヲ爲ス時殊更ニ特任ヲ受ケ其上ノ官員等他ニ之ヲ監督スル者ナキ時ハ公ケノ官吏ト爲シテ論セサルヲ得ス

然シ假令ヒ其職務上ノ罪ニ當リタリトモ過誤ナル時ハ素ヨリ其罪ヲ以テ論セサルナリ

佛國ニテモ裁判官等ニテ故意ニアラスシテ其罪ニ當ルコトヲナスモノアリ之ハ何レモ無罪トナスナリ

然シ故意ニテ爲シタルハ決シテ其罪ヲ宥ルサ、ルナリ

佛國ニテモ公ケノ官吏ノ區別ニ付テハ常ニ其議論ノ絶ヘルコトナク遂ニ未ダ其決定ヲ爲シ、ルナリ

故ニ日本ニテモ其區別ハ判然ト分テ後來不都合ヲ生セサル様ニ爲スヘキナリ

然シ日本ニテ官吏ノ等級ヲ以テ其區別ヲ分ツハ宜カラス

十二等位ノ官吏ノ内田野ノ監守人森林ノ監守人ハ輕キ者ナレモ矢張公權ヲ行ヒ得ヘキモノナリ

日本ノ巡查モ自ラ犯罪人ノ調書ヲ作り得ヘキモノトナスルハ等級ハ輕キ者ナレモ公ケノ官吏ト爲スヘシ又ハ四等五等ノ官吏ニテモ公ケノ官吏トナス可カラサルモノアル可キナリ

裁判官ハ大審院以下極下等ノ裁判官ニ至ル迄總テ公ケノ官吏ト爲ス之ハ人民相互ノ裁判又ハ政府ト人民トノ裁判ヲ爲シ直チニ公權ヲ行フモノナレハナリ

問 判事補ハ公ケノ官吏ノ内ヘ入レサルヤ

答 判事補ニテモ其内ヘ入ルヘキナリ何トナレハ佛國ニテハ判事ノ欠員アル時ハ判事補ヲ以テ陪席人ト爲ス故ナリ

裁判官ハ只其官名ヲ有スルノヨリニテモ容易ニ其官ヲ剝クコトヲ得ス之ハ判事補ニテモ同様ナリトス

然シ檢事ハ政府ノ見込次第ニテ何時ニ之ヲ剝カル可キヤモ知ル可カラサルモノナリ

問 職制上ノ罪即チ規律罪ニ付テハ例ヘハ檢事ヨリ直チニ禁錮狀收監狀ヲ出スカ又ハ内務省ノ官員ヨリ直チニ之ヲ出シタル時ハ假令ヒ見込違ヨリ生シタル過誤ナリトモ法律上ニ官吏ノ職務上ノ罪トノ明文アル上ハ矢張當然ノ刑ニ處セサルヲ得サルヤ其過誤ト故意トノ區別ヲ聽カシコトヲ要ス

故 判事補ニテモ其官名ヲ有スルノヨリニテモ容易ニ其官ヲ剝クコトヲ得ス之ハ判事補ニテモ同様ナリトス

然シ檢事ハ政府ノ見込次第ニテ何時ニ之ヲ剝カル可キヤモ知ル可カラサルモノナリ

問 職制上ノ罪即チ規律罪ニ付テハ例ヘハ檢事ヨリ直チニ禁錮狀收監狀ヲ出スカ又ハ内務省ノ官員ヨリ直チニ之ヲ出シタル時ハ假令ヒ見込違ヨリ生シタル過誤ナリトモ法律上ニ官吏ノ職務上ノ罪トノ明文アル上ハ矢張當然ノ刑ニ處セサルヲ得サルヤ其過誤ト故意トノ區別ヲ聽カシコトヲ要ス

故 判事補ニテモ其官名ヲ有スルノヨリニテモ容易ニ其官ヲ剝クコトヲ得ス之ハ判事補ニテモ同様ナリトス

然シ檢事ハ政府ノ見込次第ニテ何時ニ之ヲ剝カル可キヤモ知ル可カラサルモノナリ

問 職制上ノ罪即チ規律罪ニ付テハ例ヘハ檢事ヨリ直チニ禁錮狀收監狀ヲ出スカ又ハ内務省ノ官員ヨリ直チニ之ヲ出シタル時ハ假令ヒ見込違ヨリ生シタル過誤ナリトモ法律上ニ官吏ノ職務上ノ罪トノ明文アル上ハ矢張當然ノ刑ニ處セサルヲ得サルヤ其過誤ト故意トノ區別ヲ聽カシコトヲ要ス

故 判事補ニテモ其官名ヲ有スルノヨリニテモ容易ニ其官ヲ剝クコトヲ得ス之ハ判事補ニテモ同様ナリトス



之ヲ揭ケサル罪ナレハ其官吏ヲ免職スルカ或ハ譴責スルカ三ヶ月位ノ禁錮ニ處スルノ  
ミコテ其他別ニ異ナルコトナリ

然シ月給ヲ受ケタル者ニテ盜罪ヲ犯セタル時ハ重ク罰ス可キナリ尤モ官吏ニテ粗忽コ  
出テ行ヒタル罪ハ人ヲ殺傷セサル以上ハ刑法ニ因ラス其各省限ニテ譴責ヲナスノミナ  
リ若シ故意ナル時ハ刑法ニ仍テ處セサルヲ得サルナリ

公ケノ官吏即「ホンク」ヨチ「ルブ」フ「リツ」ト云フヘキモノコテモ例ヘハ其省中ノ  
者ノ私ノ紙入ヲ盜ミタルノミコテ其省ノ官金ヲ盜マサル時ハ矢張通常ノ刑ト爲シ其重  
キコ從テ罰スルコトナシトス然シ若シ其省ノ官金ヲ盜ミタル時ハ主人ノ物ヲ盜ミタル  
罪ト同シク重ク罰スヘキナリ

他人ノ物ト見做シテ官物ヲ盜ミタル時ハ假令ヒ官物タリトモ均シク竊盜ノ罪ニ論シテ  
其刑ヲ重ク爲スコトナシ之レ所謂犯ス時知ラスノ原則ヨリ生スルモノナリ  
若シ税關ノ官吏コテ税金ヲ受取リタル時其内一圓コテモ盜ミタル時ハ通常ノ罪ヨリ重  
ク爲シ以前ハ徒刑場内驅役ノ刑ニ處セリ

問 疑問スル所ハ官吏ノ過誤コテ爲セタル罪ハ故意ニテ犯セタル罪モ同様ニ處スルヤ否  
ヤトノ區別ヲ聽シト欲スルナリ

教師答 税關ノ官吏コテモ例ヘハ大藏省内務省等ノ布告ヲ知ラス誤テ五分ノ税ヲ取ルヘ  
キモノコ就テ一割ノ税ヲ取リタル時ハ其罪アルコトアラス尤モ一應ノ譴責ハ免カレザル  
ナリ然シ再三同シ罪ヲ犯シタル時ハ其官ヲ免職セラルヘキナリ  
詰リ公ケノ官吏コテ刑法中ニ掲ケタル罪ヲ犯シタル時ハ過誤コテモ矢張刑法ニ仍テ論  
スヘキナレトモ之ヲ揭ケサル罪ノ過誤ナルトハ何レモ其各省限リコテ譴責ヲ爲スノミナ  
リ

問 例ヘハ檢事コテ禁錮狀収監狀ヲ出セタルヲ以テ司法卿コテ他ノ職務ヲ犯シタリト爲  
ス時ハ假令ヒ全クノ過誤ナリトモ規律罪コト入レテ論スヘキヤ又ハ刑法ニ掲ケタル罪コ  
當タルヘキモノハ其刑ヲ以テ罰セサル可カラサルヤ

教師答 全クノ過誤ナル時ハ譴責ノミニ止ルヘキナリ

問 然ラハ職務上ノ過誤失錯ハ刑法ニ入レテ論セサルトノ原則アリヤ

教師答 其原則ノ有無ニ拘ハラズ職務上ニ付テノ過誤ナル時ハ別ニ罪ト爲スヘキ謂レナ  
シ然シ夫カ爲メ人民ヘ損害ヲ掛ケサル時ニ限リ其罪ト爲サレコトナリ

問 禁錮狀収監狀ヲ以テ人民ヲ呼出セタル時ハ固ヨリ幾部分カノ損害ヲ其人民コ掛ケタ  
ル者ナリ然ラハ其損害ノ償ヒハ出サレルヲ得サルヘシ尤モ官吏ナルカ爲メ別ニ其償ヲ  
出スニ及ハスト爲スヘキヤ

教師答 其損害ノ償ハ人民ヨリ求メ得ヘキナリ若シ之ヲ出サレル時ハ其檢事ヲ免職スヘ  
キナリ然シ裁判官コテハ假令ヒ斯ノ如キコトアルトモ免職スルヲ得ス故ニ只之ヲ譴責  
スルノミノコトナリ

不扱ノ權ナキ者コテ職務上ノ過誤ノ罪アル時ハ大抵免職トナスナリ不扱ノ權アル官吏  
ハ故意ノ犯罪ニアラサレハ免職トナスコトナリ

裁判官コテ瀆職ノ罪ニアラス又刑法ニ掲ケサル罪コテ其免職ト爲スコトアリ例ヘハ裁  
判官ノ職務外コテ爲スコカラサル事柄コ付テ賄賂ヲ取リタル等其品行上コ拘ハリタル  
罪ヲナシタル時ハ免職セサル可カラズ尤モ其時ハ司法卿ヨリ大審院ノ檢事ヘ告訴シ大  
審院ノ裁判コテ其免職スヘキ決報ヲ送リタル上司法卿ヨリ政府ヘ上申シ政府ヨリ之ヲ



言渡スヘキナリ

問 之ハ刑法ニ掲ゲタル規律罪ヲ犯シタルトナルヘシ然ラハ品行ノ不正ナル所行即チ博

奕等ヲ爲シタル場合ナルヘキヤ

教師答 裁判官コト爲ス可カラサル品行上ノ不正ナルコトヲ云フ亦博奕ノ内ニハ之ヲ入

レテ論セザルモノアリ

然シ博奕ヲ爲シ其賭金ヲ拂ハサルカ又ハ姦通シテ其夫ヨリ訴テナサ、ル場合ニ於テハ

司法卿ヨリ免職セザルヲ得サル等ノコトヲ言フナリ

問 刑法ニ掲ケサル罪トハ如何ナル事柄ナリヤ又輕罪ニテ免職スヘキモノハ大抵如何ナ

ル罪ノ種類ヲ言フヘキヤ

教師答 輕罪ノ内ニテモ其罪ノ種類ニ仍ルヘキナリ例ヘハ遊獵ノ規則ヲ犯シタルトキハ固

ヨリ輕罪ナレド免職スヘキコトアラズ

重罪ニ付テ免職スヘキ罪ハ治罪法第四百七十九條ヨリ五百三條迄ノ間ニ記セリ

輕罪ニ付テノ罪ハ千八百十年ノ布告ノ第五十九條ニ記セリ

即チ裁判官コトテ輕罪違式罪ノ裁判ヲ受ケタル者ハ其儘引續テ其職務ヲ勤ムルヲ得ス尤

モ其免職スルハ何レモ覆審院ノ裁判ヲ受クヘシトアリ

問 然ラハ司法卿ノ手限コトハ之ヲ免職スル能ハサル原則ナリヤ

教師答 然リ

重罪ニテ即チ瀆職ノ罪ニ當ル時ハ公權剝奪ノ刑ニ處スルナリ

刑法ニ掲ケタル罪コトモ第四十二條ノ罪ノ外ハ何レモ大審院ノ監督ヲ受ケサル可カラ

サルナリ畢竟之ハ不扱ノ權アル故ナリ

之コ反シ檢事ハ否ラサルナリ

問 規律罪ニ當ルヘキモノハ司法卿ノ權コトヲ之ヲ罰スルトモ不可ナキヤ

教師答 裁判官ト檢事トノ區別ハ爲サ、ル可カラサルナリ

尤モ只一應ノ譴責スルノミナレハ其裁判所限リニテ之ヲ爲ストモ不可ナレ例ヘハ上等

裁判所ノ裁判官ハ其上等裁判所コトテ譴責スヘキ等ナリ

故ニ裁判官ノ輕キ罪ハ其裁判所限リニテ之ヲナシ重キ罪ハ大審院コトテ裁判スヘキモノ

ナリトス

又上等裁判所コトテ其裁判所ノ檢事ヲ免職スヘキモ矢張大審院ノ裁判ヲ受クルノ手續

ヲ爲サ、ル可カラサルナリ

後第十六號 [明治九年四月八日]  
第六十九條

本條ハ公ケノ官吏コトテ金銀ヲ竊取シタルコト即チ監守自盜ノ罪ヲ言フナリ

「カンクシヨチールブヒプリック」ニテ官金ヲ預カル任ヲ受ケ其官金ノ全部又ハ一部ヲ

竊取シタルトキハ通常ノ盜罪ヨリ重ク罰ス公ケノ官吏ノ罪ト通常ノ者ノ罪トハ其罪ノ性

質ヲ變スヘキモノト爲ヌ例ヘハ通常ノ者ノ竊盜ナリト告訴狀ニ記セリ然ルニ公判ノト

ニ至リ公ケノ官吏ナルコトノ現ハレタリ因テ其罪ノ性質ヲ變スヘキモノニ付重罪裁判

所コトテ其儘之ヲ裁判スルヲ得ス再ヒ下調ヨリ仕直サ、ル可カラサルナリ

問 昨日ノ講義中コトテ價造證書ノ罪コトテ告訴狀ニ通常ノ者ト記セリ然ルニ公判コトテ公ケ

ノ官吏ナルコト、顯シタルトキハ性質ヲ變セヌ同シモノニ見做スヘシト言ヘリ然ラハ本



條ノ罪モ矢張公ノ官吏ト通常ノ者トニ拘ハラズ性質ヲ變セサルモノト見做スヘキコアラズヤ

教師答 此第一節ハ官吏其任ヲ受ケタル者ノ罪ニテ全ク特別ナルコトナリ故ニ通常ノ者

ノ盜罪トハ其條款ヲ分ツテ之ヲ設ケタルモノナリ

之ハ監守自盜ノ罪ニテ固ヨリ贗造ノ罪トハ全ク異リタル特別ノ罪トナスヘキナリ

故ニ官吏ト通常ノ者トニ因テ其罪ノ性質ヲ變スルモノト爲ス

且本條ニハ「盜罪」ト記セス「竊取」ト言フ原語ナリ故ニ全クノ盜罪トハ異ナルコト判然ナリ

問 「ホノクシヨチルグヒアリツク」コト一般ノ私金ヲ竊ミタル時ハ通常ノ者ト同様ナルヘシ本條ニ於テハ官金ナル故ニ異リタル罪トナスヘキナランカ

教師答 本條ニ公私ノ金銀ト記セリ此私ノ字ニ注意セサル可カラサルナリ

此私ノ金銀ト云フハ會計ノ任ヲ受ケタル者ニテ他ノ官吏ノ私金ヲ預リタル事ヲ言フ

例ヘハ本省ノ會計官吏ニテ甲者ノ月給ヲ取扱ヒ甲者ヘ渡シタルコト付已コ甲者ノ私金ト爲リタレトモ俄ニ横濱ヘ出張セントシテ甲者ヨリ及之ヲ其會計官吏ヘ預ケタル等ニテ

其職務上ニ於テ他ノ官吏ノ私金ヲ預リタル事ヲ言フ

問 然ラハ一般ノ私金ニハアラズヤ

教師答 然リ其職務上ニテ私金ヲ預リタルコトヲ言フナリ

本條ノ罪ニ限リ他ノ犯罪ト全ク異ル所ノ次第アリ

若シ其竊取ノ贓物ノ高三千「フランク」以上ナレハ有期ノ徒刑ニテ重罪ト爲シ三千「フランク」以下ナル時ハ他ノ刑ニテ輕罪ト爲シ其金高二仍テ區別アリ

之則チ他ノ犯罪ト全ク異ナル所ノ次第ナリトス

其三千「フランク」以下ノコトハ第百七十一條ニ記セリ

教師ノ考ニハ金高二因リ其刑ヲ區別スルハ不適當ナリトス

假令ヒ五六圓ノ小數ニテモ其情狀ニ因テ差違アルヘキ筈ナリ然ルニ一概ニ金高ヲ以刑

ヲ區別スルノ理ナシト爲ス

其他尙不適當ナルコトアリ何トナレハ三千「フランク」以下ナル事ハ其以上ノ事ノ刑ニ

リ減等スルノ順次ヲ超過シ直チニ之ヲ輕罪ト爲セリ若シ三千「フランク」以上以下ノ區

別ヲナササル可カラサルモノトシテ之ヲ區別スル事ハ一體其以上ヨリノ順次ヲ逐テ徒

刑場内驅役ノ刑ニ處スヘキナリ然ルニ之ヲ直チニ禁錮ノ刑トナスハ不適當ナリトス

故ニ若シ狡黠ナル會計官ハ全ク三千「フランク」ヲ竊取セシテ二千九百九十九「フラ

ンク」ヲ竊取スヘキナリ

然ラハ只其一「フランク」ノ違ヒノミニテ大ヒニ其刑ノ違ヒアルカ爲メニ其輕罪トナル

コトヲ計リ殊更ニ其三千「フランク」中ノ一「フランク」ヲ減シテ竊取スル等ノ弊ヲ生ス

ヘキナリ因テ之ハ不適當ナリト考ヘリ

日本ノ刑法ニ於テハ斯ノ如キ不適當ナルコトナキ様ニ改ムヘキナリ

然シ立法官ニテハ其三千「フランク」以下ノ者ヲモ亦重罪トナシ有期徒刑トナスハ餘リ

峻酷ニ過クルト爲シ斯ノ如ク定メタルモノナルヘシ

乏ハ能ク熟考セサル可カラズ何トナレハ三千「フランク」以下ノ者モ有期徒刑トナスヲ

以テ峻酷ニ過クルトナレハ徒場内驅役ノ刑トナシテ適當ナリ然ルニ之ヲ輕罪ノ禁錮ト

爲スハ全ク其權衡ヲ失フナリ故ニ必ラス其徒刑ト禁錮トノ間ニ於テ他ノ刑ヲ設ケテ之



ヲ處セサル可カラサルナリ

第百六十九條「テ三千」フランク」以下ト云フハ即チ「フランク」ナリトモ其以上コ

ラサレハ本條ノ刑ニ處スルヲ得サルナリ

又第百七十一條「テ三千」フランク」以下ト云フハ同シク「フランク」ナリトモ其以下

コアラサレハ本條ノ刑ニ處スルヲ得サルナリ

然ラハ其間「フランク」ノ違ニテ全クノ三千「フランク」ナルキハ刑法ニ明文ナキカ爲

メ皆無其刑ヲ加フルヲ得サルノ理ニ當ルヘシ

然シ其刑ヲ加ヘサルコアラサレ若シ全クノ三千「フランク」ニ當ル時ハ矢張禁錮ノ刑ニ處

スヘキナリ之ハ其輕キニ從テ處スル譯ナリ

故コ若シ三千「フランク」以上「フランク」ニテモ余分ニ竊取シタル時ニテモ有期ノ徒

刑トナサ、ルヲ得ス

之ヲ全ノ三千「フランク」ニテ禁錮ノ刑トナスコ比スレハ大ヒナル違ナラスヤ

又全ノ三千「フランク」ト思ヒタルニ誤リテ「フランク」ヲ餘分ニ竊取シタルキモ矢張

有期ノ徒刑ト爲サ、ルヲ得サルナリ

第百七十條 先ツ本條ニ因ルキハ三千「フランク」以上以下ノ金高ニ拘ハラス受取タル金高ノ平均

因ルモノナリ

例ヘハ一度受取タル金高ノ内ニテ其三分一ヲ竊取シタルキハ有期ノ徒刑ト爲ス故ニ假

令其金高ハ三千「フランク」以下ニテモ有期ノ徒刑ト爲ス又ハ許多ノ金高例ヘハ三萬

フランク」ニテモ其三分一ヲ竊取シタルキハ矢張有期ノ徒刑トナスナリ

因テ其受取高ノ多少ニ仍リ竊取シタル者ニハ大ニ損徳アリトス

問 其受取高ノ三分一トナスキハ三千「フランク」ノ以上以下ト云フヘキ程ニモ當ラス極

少金則チ三圓位ノ三分一ヲ竊取シタル時ニテモ矢張本條ニ引當ツヘキヤ然ルキハ大ニ

不權衡ノ罪コアラサヤ

教師答 本條ハ固ヨリ「体ノ權衡」ニ適セサルナリ

例ヘハ一萬五千「フランク」ノ金高ヲ受取其内四千「フランク」ヲ竊取シタルキハ有期徒

刑トナス

又四千「フランク」ヲ受取其二分一ヲ竊取シタル時ハ一体三千「フランク」以下ニ付禁錮

ノ刑ニ處スヘキナレハ本條ニ仍ル時ハ矢張有期ノ徒刑ト爲サ、ルヲ得ス

官吏ニテ公ケノ文書ヲ贗造シタル時ハ固ヨリ文書ノ贗造迄ニ付其害タル公私ニ於テ異

ナルコトナシ故ニ其刑ニモ區別ナシトス官吏ハ固ヨリ政府ノ代理ニテ上下ノ人民一般

ヨリ信用ヲ受クヘキモノナリ故ニ文書ノ贗造ニ於テ公私ノ害ノ多少トニ拘ハラス均ト

シク無期ノ徒刑ト爲スナリ

然ラハ官吏ノ預リタル官金ヲ竊取シタル時モ同様其金高ノ多少則チ其害ノ多少ハ論ス

可カラサル譯ナラスヤ

且本條ノ罪ヲ有期ノ徒刑ト爲スハ少シク酷ニ失セリト考ヘリ

監守自盜ニテハ假令ヒ五萬圓ヲ竊取シタリトモ政府ニ於テハ格別害ト爲スヘキコアラ

ス又人民ニテ直チニ其害ヲ受クヘキニアラス自然ハ其害ヲ受クヘキナレトモ其害タル

固ヨリ少シトス



然レ政府ニテ命シタル官吏ハ國民一般ニ於テ最信用ヲ爲スヘキモノナルニ却テ斯ノ如キコトヲ爲ス時ハ則政府ノ信用ヲ失フノ害ト爲ル故ニ之ヲ罰スルナリ然ラハ其金高ノ多少ニ仍テ處スヘキモノニアラス故ニ只罰金ヲ以テ之ヲ罰シテ相當ナリト考ヘリ

第百七十二條ヲ見ルヘシ之ハ適當ナリ何トナレハ其金高ノ多キ時ハ其罰金ヲ多ク爲スナリ然ルニ實決ノ刑ヲ金高ニ仍テ處スルハ不適當ナリト爲ス

第百七十條中ニ保證金云々トアリ故ニ其受取金ノ三分一ニアラス四分一ヲ竊取シタリ然シ其金高ノ會計官吏ヨリ兼テ出シタル保証金ニ當ルカ又ハ過クル時ハ矢張有期ノ徒刑ト爲シ又三千「フランク」以下ニテモ其受取高ノ三分一ナルカ或ハ其保証金ニ當ルカ又ハ過クル時ハ何レモ有期ノ徒刑ト爲ス故ニ本條中ノ刑ニハ其金高ノ多少等大ヒナル違ヒアルトモ總テ同シ刑ニ處セサルヲ得ス

問 保證金ニ當トアリ故ニ其金高以下ナルキハ如何

教師答 其保証金ヲ過キサレハ本條ニ仍テ論セサルナリ

問 然ラハ保証金ヲ過キサルトモ受取高ノ三分一ニ至リタルキハ如何

教師 假令ヒ保証金ノ以下ニテモ其受取高ノ三分一ナレハ同シク本條ニ仍ルヘキナリ又假令ヒ其三分一以下ニテモ保証金ヲ過クルキハ又同シク本條ニ因ルヘキナリ

又受取金ノ三分一ナルキハ假令保証金ヲ過キサルトモ固ヨリ本條ノ刑ニ入レテ論スヘキナリ

問 夫レハ了解セリ本條中ニテ當ルト過ルトハ如何ナル違ヒアリヤ

教師答 前條ノ三千「フランク」以上云々ト云フ譯ケトハ異ナリ故ニ本條ニ於テハ其金高ニ拘リタルコトニアラス

即チ三分一云々トハ其竊取シタル金高ノ受取高三分一ニ當ルカ過キタルキヲ云ヒ又保証金云々トハ其保証金ノ高ニ當ルカ又ハ過キタルキヲ云フ之ハ總テ同シ刑ト爲スナリ

問 其竊取シタル金高ヲ償ハシムルキハ其保証金ヨリ差引スヘキハ勿論ナルヘキナレトモ其罰金ヲ保証金ヨリ差引ク譯ニハ爲ラサルヤ

教師答 其罰金ハ保証金ヨリ差引可カラサルナリ

本條ハ三ツノ事柄ニ分ツヘキナリ

第一其竊取シタル金高ノ保証金ニ當ルカ又ハ過キタル時

第二同シク其受取高ノ三分一ニ當ルカ又ハ過キタル時

第三一ヶ月間幾度ニモ受取タル金高ノ三分一ニ當ルカ又ハ過キタル時

之ヲ三ツノ事柄ニ分ツ時ハ教師ノ考ニハ一度ニ受取タル金高ノ三分一ニ當ル等ノ時ハ無期ノ徒刑ト爲シ

一ヶ月間幾度ニモ受取リタル金高ノ三分一ニ當ル等ノ時ハ有期ノ徒刑ト爲シ

保証金ニ當ル等ノ時ハ其受取高ノ三分一以上以下ニ拘ハラヌ有期ノ徒刑ト爲スヘキナリ

問 保證金ニ當ルキハ固ヨリ其保証金ニテ償ヒ得ヘキニ付其刑ヲ輕ク爲シ只其保証金ヲ過キタル時ノミ本條ノ刑ト爲シ然ルヘキニアラスヤ

何故ニ其保証金ニ當ルト過クルト同一ニ爲セルヤ

教師答 之ハ何故ナレハ其保証金ト同額又ハ其以上以下トノ區別ヲ立ツル時ハ其以上ニ

問 保證金ニ當ルキハ固ヨリ其保証金ニテ償ヒ得ヘキニ付其刑ヲ輕ク爲シ只其保証金ヲ過キタル時ノミ本條ノ刑ト爲シ然ルヘキニアラスヤ

何故ニ其保証金ニ當ルト過クルト同一ニ爲セルヤ

教師答 之ハ何故ナレハ其保証金ト同額又ハ其以上以下トノ區別ヲ立ツル時ハ其以上ニ



過キテ重キ刑ニ處セラレサルコトナリ計リ故意ナリ以テ其區別ニ基キ金高ヲ減シ程能ク竊取スルノ弊ヲ生スヘキ故ナリ

一 体保證金ヲ出サシムルハ其竊取シタル金ヲ償フヘキ爲メニアラス全ク官吏ノ失錯ニテ政府ノ損害トナルヘキ作之ヲ其償ハシムル爲メナリ

其保證金コト償フヘキコトナリ目的ニ官金ヲ竊取スルカ如キ不正ノ者ハ官吏ト爲サ、ル譯ナリ然シ到底本條ハ不都合ノ條ナリト考ヘリ

故ニ教師ノ考ニハ其金高ニ拘ハラス徒場内驅役ノ刑ニテ罰スヘキナリ若シ又徒場内驅役ノ刑ニテモ重シト爲スルハ輕罪ニ爲ストモ可ナリ

故ニ金高ニ因テ其區別ヲ爲スハ未ダ十分ニ盡シタル法律ト云フヘキモノニアラス例ヘハ今日會計官コト金入レテ所持セス聊カノ金高ニ差支ヒ翌日ニモ償フヘキ積リニテ官金ヲ竊取シタルハ固ヨリ一時私借シタル迄ノコトニテ眞ノ竊取ニアラス

然シ假令ヒ一期ノ私借コトモ五十圓以上ニモ及フハ全クノ竊取ト見爲サ、ルヲ得ス一 休官金ヲ私借スルハ固ヨリ不條理ナルコトナリ

一時ノ差支ナレハ同役ニ借リタリトモ濟ムヘキ筈ナリ故ニ之ハ決シテ爲ス可カラサルコトナリトス

問 假令ヒ一時タリトモ固ヨリ爲ス可カラサルコトナリ然シ或ヒハ同役ヘ相談シテ之ヲ爲ス等ノコトナキニアラス因テ日本ニテモ其刑法ヲ設ケタリ佛國ニテモ此罪ヲ犯シタル者ハ矢張本條ノ刑ニ因テ處スヘキヤ

教師答 之ハ決シテ爲ス可カラサルコトナリ又同役モ之ヲ承知スヘキコトニアラス

然シ保證金アル者コト其情狀ノ已ムヲ得サル次第アルハ成ル丈ケ寬ニ處スヘク又僅少ノ金高ナレハ罷責ヲ爲スカ或ハ免職ヲナスヨリ外更ニ罰スヘキナラス

故ニ本條ニ因テ處セサルナリ之ハ畢竟最初ヨリ竊取スヘキ本意ニアラス必ラス償フヘキニ相違ナシト見爲ス故ナリ

私借ノ儘ニテ官金ヲ償フコトヲ得サルハ本條ノ刑ニ處スヘキナリ若シ之ヲ償ヒ得タル時ハ本條ニ入レテ論セス行政上ノ處分ト爲スヘキナリ

然シ斯ノ如キコトハ元來決シテナキ筈ナリ問 斯ノ如キ罪ニ付テハ此刑法ノ外別ニ設ケタル法律ナキヤ

教師答 官金ノ私借ニ付テハ別ニ其法律ナシ之ハ會計ノ規則中ニ因テ處スヘキコトナリ然シ受取ル可カラサル金ヲ受取リタル罪ハ後條ニ記セリ

問 金高ニ因テ罪ノ輕重ヲ分ツハ本條ノ罪ニ限リト云フ然ラハ其法律中ニ本條ノ外金高ヲ以テ其罪ノ區別ヲ爲シタルコトナキヤ

教師答 實決ノ刑ニ於テハ金高ニ依リ其區別ヲ分ツコトナシ只官吏ノ賄賂ヲ取リタル罰金ノ高ハ其金高ノ多少ニ依ルヘキナリ

其外竊盜詐僞取財又ハ詐僞分散等ハ金高ニ依テ其罪ノ輕重ヲ分タサルナリ一體金高ニ於テハ其罪ノ輕重ヲ分ツ能ハサルモノナリ

何トナレハ其害ノ多少ハ竊取シタル金高ノ多少ニ依ルヘキニアラス其竊取セラレタル者ノ財産ノ多少ニ依ルヘキナリ

例ヘハ三井コト百圓ヲ竊取セラレタルトモ他ノ通常ノ者コト百圓ヲ竊取セラレタルコト比スレハ其害ヲ受クルノ多少ニ於テ大ニ違ハアルヘキナリ



故ニ其害ヲ爲スノ多少ヲ分ツハ竊取セラレタル者ノ財産ノ多少ニ依ラサル可カラズ然レ此財産ノ多少ニ依テ害ヲ爲スノ多少ヲ分ツノ法ヲ日本ニテ設クヘシト勸ムルコトアラズ

之ハ固ヨリ容易ナラサルコトナリ

例トナレハ人民ノ財産ノ多少ヲ査定スルコトハ到底爲シ能ハサルコトナレハナリ畢竟一體ノ旨意ニ於テハ斯ノ如クナルニ過キスト云フコトナリ然レ已ムテ得サレハ一ツアリ則チ酌量輕減ナリトス

問 金高ノ多少ニ於テハ害ナシト云フハ畢竟道德上ノ論ナルヘシ然レ再ヒ之ヲ論スレハ

其金高ノ多少ニ依リ情狀ニ於テ輕重アラサルヲ得サル譯ナラスヤ

教師答 其情狀ヲ以テ輕重ヲ分ツコトハ例ヘハ一ツノ刑ノ内ニテモ何年ヨリ何年迄トノ年限中ニテ其刑ヲ融通シ得ヘキナリ故ニ之ハ全ク裁判官ノ監定ニ依テ其輕重ヲ審判セシムヘキ譯ナリ

其罪ノ景況ニ仍リ其害少キカ爲メニ一年ノ刑期コトモ尙重シト爲シ之ヲ輕ク爲サントスル時ハ酌量輕減ノ法ヲ用ユヘキナリ

例ハ人力挽ニテ市中店先キノ草鞋ヲ竊取シタル等ノ罪ハ一年ノ刑期コトモ又ハ一ヶ月ノ刑期ニテモ尙重シト爲スヘキナリ

其罪ハ酌量輕減ノ法ヲ用ユヘシト爲ス

其罪ノ情狀ニ因テ輕減ヲ爲ス時ハ固ヨリ其一刑中ノ極短期ニ迄輕減シ得ヘキハ勿論遂ニ輕罪迄ニモ輕減シ得ヘキナリ

然レ日本コトハ陪審ノ法ナキ故ニ裁判官ニテ常ニ輕減ヲ用ヒ難キノ患アルヘシ

陪審ノ法ヲ設ケ之ヲ用ユル時ハ裁判官ニテ輕減ヲ爲シ易キナレトモ其法ナキカ爲メ容易ニ用ユルヲ得サルヘシ

之ハ大ヒコ不適當ノ裁判ヲナスニ至ルヘシ

其刑ヲ重キニ失スルノコトナラス輕キニ失スルノ患アルヘキナリ

何トナレハ殊ニ寄一年ノ刑期トナスハ重シ然レトモ其以下ニ輕減スル能ハス之ヲ重キニ失センヨリハ寧ロ輕キニ失シテ無罪ト爲スコト如カスト見込テ立裁判スルノ弊ヲ生スヘキナリ故ニ輕減ハ成ルヘキ丈ケ用ヒ易キ様ニ定メ置クヘキナリ

曾テ説キタル如ク佛國コトハ千八百三十二年ニ於テ始メテ酌量輕減ノ法ヲ用ヒタルモノナリ

故コ同年以前ハ陪審ニテ其犯人ノ爲メ答辨ヲ爲スニ多言ヲ用ユルヲ得ス只其罪ノ有無ヲ云フノミコト其他自分ノ意見ヲ述ヘサルナリ

一體陪審ヨリ酌量輕減ヲ求ムルハ其罪ヲ宥ムル爲メコトナラス其罪ノ有無ヲ述ヘ且ツ之

如何ナル刑ヲ用ユヘシト云フコトヲモ述フヘキニ付自ラ刑ノ適當ヲ得ヘキナリ

故ニ陪審ヲ置クハ全ク其刑ノ適當ヲ得ル爲メナリトス固ヨリ其罪ヲ宥ムルタメコトハアラサルナリ

問 酌量輕減ヲ多ク用ユヘシト雖モ之ヲ法律中ニ記スル譯ニモ爲ラサルヘシ

教師答 然レ成ル丈ケ之ヲ用ヒ易キ様ニ定ムヘキナリ

問 重罪ハ暫ク置キ例ヘハ輕罪ナレハ禁錮ノ刑ノ内何年ヨリ何年迄トノ刑期コトモ二年ヨリ短期ヲ起スヘキモノナ一年ヨリ短期ヲ起スガ又ハ一年ヨリ之ヲ起スヘキモノナ六ヶ月ヨリ之ヲ起ス等其短期ハ成丈ケ短期ヨリ起スヘキ様ニ定ムル方ト考ヘリ之ハ如何



教師答 之ハ成ル丈ク短期ヨリ起スヘシ  
 然シ其刑ノ内ニテ平均ヲ失ハサル様ニ爲スヘキナリ  
 餘リ短期ヨリ起ス時ハ裁判官ニテ長期迄ノ間ノ幅通ヲ爲スコト多ク却テ其權ヲ恣ニ爲  
 スノ弊ヲ生スヘシ  
 例ヘハ長期ヲ五年ト爲スルハ短期ヲ一年ト爲シ長期ヲ二年ト爲ス時其ハ短期ヲ先ツ六  
 月ト爲ス等ナリ  
 然ラハ輕罪コテ五年ノ刑期ヲ重シト爲ス時ハ其短期ノ一年ヨリ五年迄ノ間コテ十分  
 其期限ノ融通ヲ爲シ得ヘキナリ  
 其長期ヲ多ク爲ス時ハ隨テ短期モ多ク爲スヘシ餘リ短期ヨリ起ス時ハ其平均ヲ失フノ  
 害アリ故ニ之ヲ短期ニ失スルハ不宜

(終)

明治十四年六月廿一日 翻刻御届  
 同 年七月出版

翻刻出版人

岡山縣士族 小笠原美治  
 神田區神田五軒町  
 十八番地

- |           |       |
|-----------|-------|
| 東京神田五軒町   | 弘令本社  |
| 同 芝三島町    | 山中市兵衛 |
| 同 通二丁目    | 稻田佐兵衛 |
| 同 通三丁目    | 丸屋善七  |
| 同 日本橋西河岸  | 須原屋鐵二 |
| 大坂心齋通備後町角 | 吉岡平助  |
| 同 心齋橋通唐物町 | 森本太助  |
| 京都寺町通四條上ル | 田中治兵衛 |

賣 捌 所



諸

國

賣

千葉市場町  
陸中盛岡  
豐前中津  
伊勢津東町  
同 桑名舟町  
同 四日市  
名古屋本町  
三州豐橋  
岐阜米屋町  
越後卷町  
下總佐原  
横濱辨天通  
長崎引地町  
長崎袋町  
信州長野  
山形五日町  
同  
羽前鶴岡五日町  
陸中盛岡肴町  
兵庫湊町  
越後新潟

乙亥 澤田正助  
野依曆三  
淺野東介  
大塚茂兵衛  
伊藤善太郎  
片野東四郎  
高須又八  
三浦源介  
笛木又平  
堤正平  
丸屋善八  
鶴野常藏  
滿都家太平治  
小柳屋喜太郎  
八文字屋  
北國屋彌平治  
小池藤治郎  
佐藤庄兵衛  
金港堂  
吉川成藏

越後水原  
同 三條  
羽後久保田  
上州高崎  
武州川越  
信州小諸  
弘前土手町  
陸前仙臺  
羽後大曲  
和歌山本町  
大分京町  
熊本新二丁目  
福島十丁目  
同 五丁目  
福岡橋口町  
羽後横手  
羽前米澤  
美濃大垣  
加州金澤  
信州松本  
岩代會津

西村六平  
樋口小左衛門  
本間金之助  
文心堂  
菅間定治郎  
小山九郎兵衛  
野崎九兵衛  
伊勢安右衛門  
板屋五郎左衛門  
平井文助  
山川正三郎  
長崎次郎  
近江屋周吉  
齋藤秀太郎  
山崎登  
渡邊入右衛門  
素月晨平  
岡安慶介  
中村喜平  
高美甚左衛門  
田中善平

弘

書

肆

陸前石ノ巻  
靜岡吳服町  
越前福井  
同 武生  
江州大津  
但馬豐岡  
淡路須本  
播州姫路  
岡山紙屋町  
山口中市  
雲州松江本町  
同 天神町  
越後長岡  
同 高田馬出町  
羽前山形十日町  
同 吳服町  
函館  
泉州堺神明町  
廣嶋中島本町  
伊勢龜山  
常州水戸

三陸屋利兵衛  
三浦定吉  
酒井安兵衛  
黒田善司  
澤宗治郎  
由利安助  
福浦文造  
山野長平  
世羅田益太郎  
阿部準助  
園山喜三右衛門  
川岡清介  
大橋佐平  
小方長吉  
荒井大治郎  
本田勝太郎  
魁文社  
鈴木久三郎  
秋田惣兵衛  
渡邊東五郎  
川又銀藏

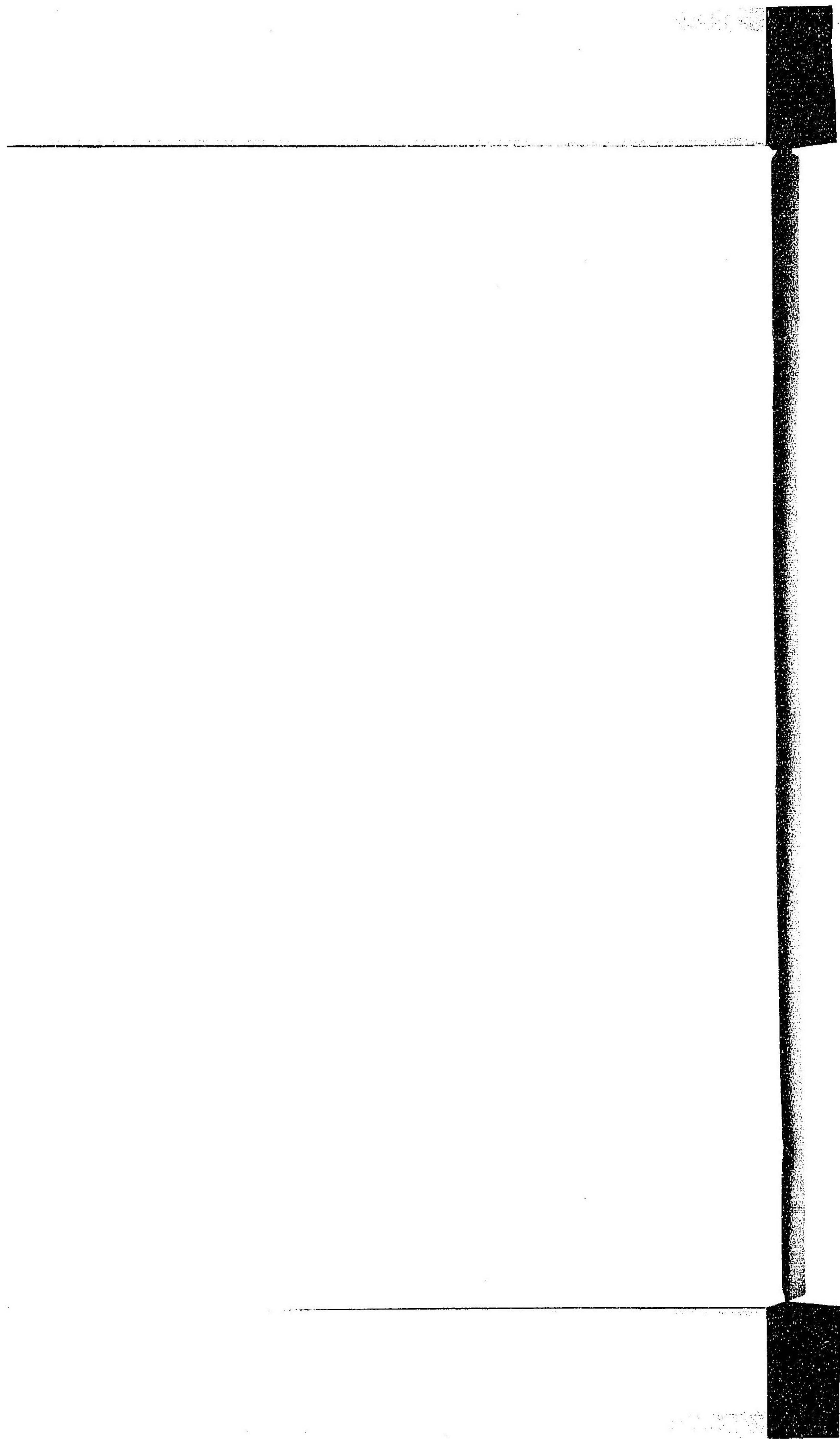
新潟東堀通  
長州萩  
越後高田  
越前竹生  
岩代二本松  
岐阜太田町  
下總八日市場  
越後中條  
羽前山形  
下總松戸  
徳島西新町  
岡山上ノ町  
同 西大寺町  
豫州松山湊町  
廣島横町  
越後高田  
福岡箕子町  
同 所  
野州朽木  
磐城白川天神町  
右ノ外官令全報賣捌書肆

林富吉  
松原喜兵衛  
清水庄平  
吉川作次郎  
榊屋彦輔  
春陽舍  
木内嘉兵衛  
村山長太郎  
市村五郎兵衛  
根本勝之助  
黒崎精二  
細文南舍  
弘文南舍  
土肥與平  
松村善助  
竹田善健  
古野書店  
林野斧助  
叶屋儀右衛門  
奥村市右衛門

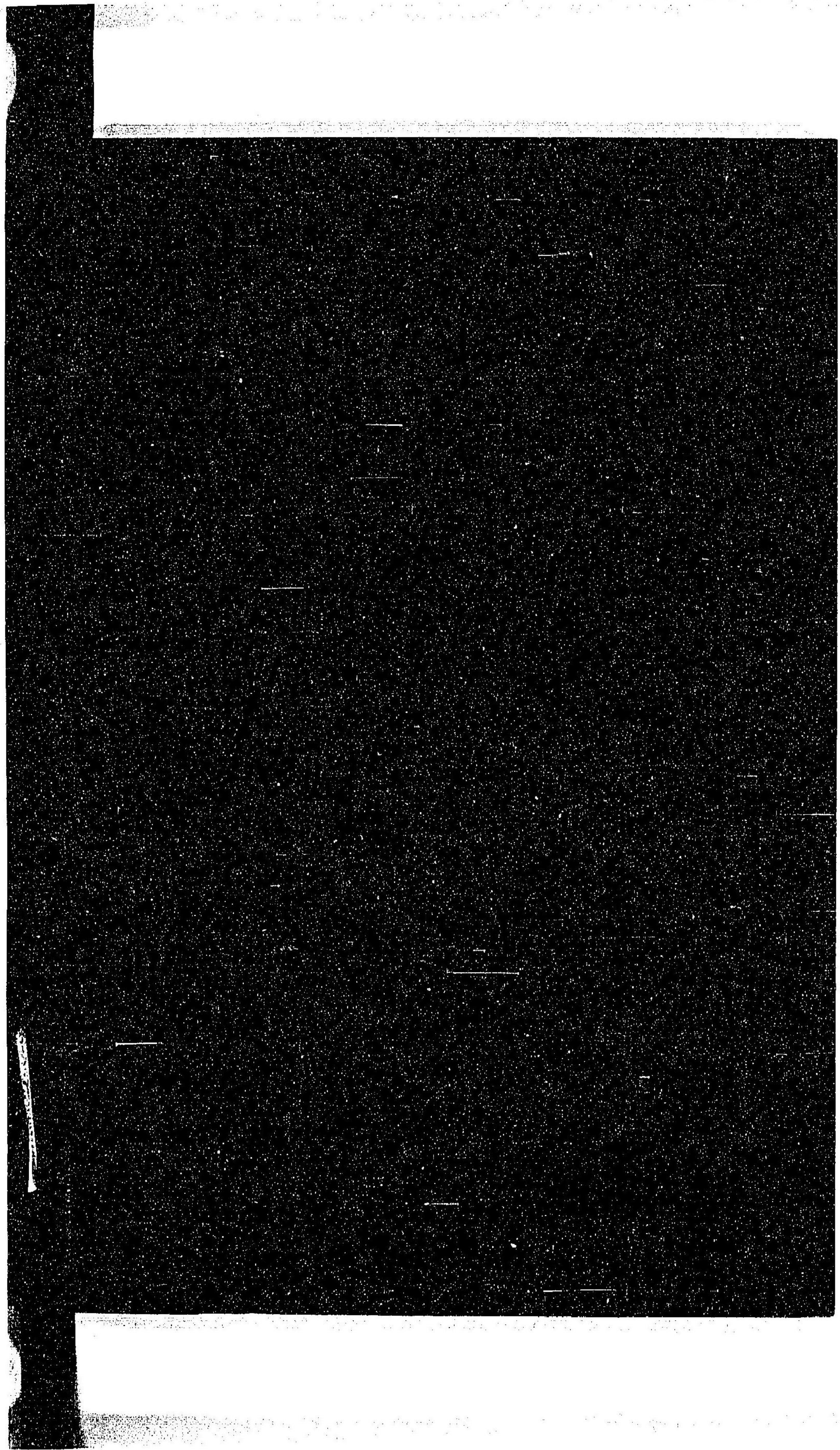


7/11/62











特14

970

036178-000-0

特14-970

仏国刑法講義

ポアソナード/述

M14

BBP-0846

